

今 房 遺 跡

県営担い手育成基盤整備事業横市地区

2007(平成19)年3月

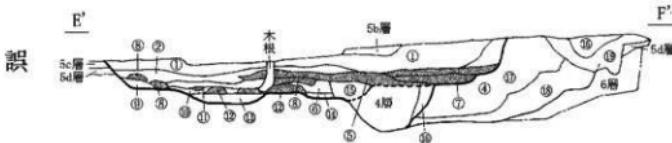
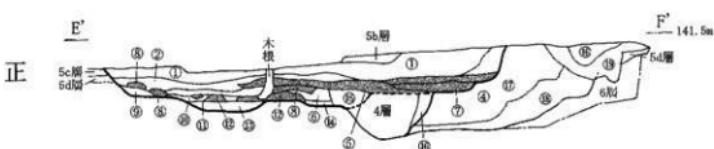
宮崎県都城市教育委員会

都城市文化財調査報告書 第80集

今房遺跡

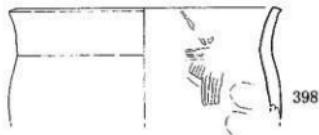
正誤表

28P 第25図

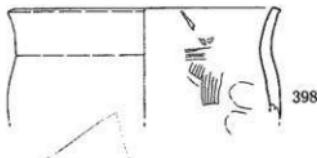


44P 第41図

遺物398 正

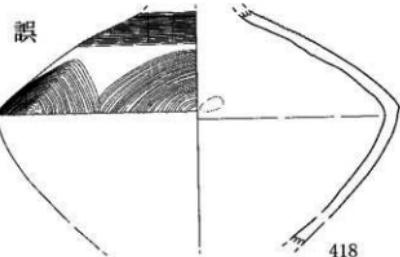
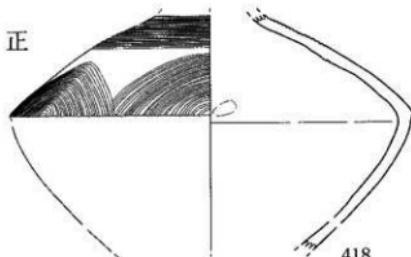


誤



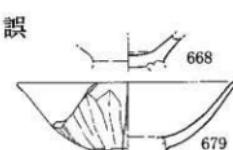
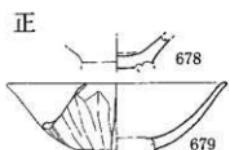
45P 第42図

遺物418



66P 第63図

遺物668



序 文

本書は県営担い手育成基盤整備事業(横市地区)に伴い、平成11年度に都城市教育委員会が調査を実施しました横市地区遺跡群の一つ今房遺跡の発掘調査報告書です。

同事業に先立つ発掘調査は平成8年度より毎年実施し、数多くの貴重な成果を上げております。今房遺跡も調査年度に概要報告書を刊行しておりますが、今回は本報告です。

調査の成果は主に弥生時代後期の竪穴住居や周溝状遺構等からなる集落遺跡です。このほか、縄文時代後・晚期や中世の遺構遺物も出土しています。

本書が市民の皆様の埋蔵文化財や地域歴史理解の一助となり、考古学や地域史の研究資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査及び報告書作成にあたり、宮崎県北諸県農林振興局をはじめとする関係各位、地元土地改良区の皆様に深く感謝します。

平成19年3月

都城市教育委員会
教育長 玉利 譲

例　　言

1. 本書は県営担い手育成事業横市地区に伴い、平成 11 年度実施した都城市横市町 5830 番地ほかに所在する今房遺跡発掘調査報告書である。なお、平成 12 年 3 月に概要報告書（合冊）を刊行している。
2. 発掘調査は宮崎県北諸県農林振興局の委託を受けて、都城市教育委員会が実施した。
3. 本書で用いている遺構名及び略記号は、竪穴住居が SA、周溝状遺構が ST、掘立柱建物が SB、竪穴状遺構が SX、土坑が SC、溝が SD である。
4. 本書で掲載している各遺構名は、概要報告書で掲載した遺構名と一致しないものがある。
5. 本書に使用した遺構実測図は、主に調査担当及び調査員が作業員の協力を得て行った。遺物実測図は調査担当及び報告書作成担当の指導のもと整理作業員が行い、一部業者に委託した。
6. 本書に使用した図の製図（トレース）は、報告書作成担当及び整理作業員が行い、一部業者に委託した。
7. 本書に使用した遺構の写真撮影は調査担当が、遺物写真撮影は報告者作成担当が行なった。
8. 本書の執筆は下記のとおりである。

[1. 2. 3.(1)(2)(3) を矢部、3.(4), 4 及び出土遺物観察表を中村、3(5) を櫛古環境研究所]
9. 本書に掲載した方位はすべて磁北である。
10. 本書に関する実測図、写真、遺物等は都城市教育委員会文化財課所管の施設に収蔵している。
11. 今房遺跡の調査内容は、以下のとおりである。

遺　跡　名	遺　跡　番　号	所　在　地	調　査　期　間	調　査　面　積
今房遺跡	6042	都城市横市町5830番地ほか	平成11年5月11日～12月3日	3,110m ²

本文目次

1.はじめに	1
(1)調査に至る経緯	1
(2)調査の組織	2
2.遺跡の位置と環境	2
3.調査の記録	4
(1)調査の概要	4
(2)遺跡の基本層序	4
(3)A区の遺構と遺物	4
(4)B区の遺構と遺物	68
(5)自然科学分析	78
4.まとめ	103

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	1	第22図 穹穴住居5(SA05) 内出土遺物(2)	25
第2図 今房遺跡1次(A区)・2次発掘		第23図 穹穴住居5(SA05) 内出土遺物(3)	26
調査及びグリッド図	3	第24図 穹穴住居6,7(SA06,07)・同内出土遺物	27
第3図 A区遺構分布図	5	第25図 穹穴住居8(SA08)	28
第4図 土層断面図(南北方向)	7	第26図 穹穴住居8(SA08) 内出土遺物	29
第5図 土層断面図(東西方向)	8	第27図 穹穴住居9,10(SA09,10)	30
第6図 土層断面図	9	第28図 穹穴住居9(SA09) 内出土遺物	31
第7図 土坑1(SC01)・同内出土遺物	10	第29図 穹穴住居10(SA10) 内出土遺物	32
第8図 土坑5,6,7(SC05,06,07)	11	第30図 穹穴住居11(SA11)	33
第9図 土坑5,6,7(SC05,06,07) 内出土遺物	12	第31図 穹穴住居11(SA11) 内出土遺物	34
第10図 その他の縄文土坑と縄文土器	13	第32図 穹穴住居12(SA12)	35
第11図 穹穴住居1(SA01)	14	第33図 穹穴住居12(SA12) 内出土遺物	36
第12図 穹穴住居1(SA01) 内出土遺物(1)	15	第34図 穹穴住居13(SA13)・同内出土遺物	37
第13図 穹穴住居1(SA01) 内出土遺物(2)	16	第35図 穹穴住居14(SA14)・15(SA15)	38
第14図 穹穴住居1(SA01) 内出土遺物(3)	17	第36図 穹穴住居14,15(SA14,15) 内出土遺物	39
第15図 穹穴住居1(SA01) 内出土遺物(4)	18	第37図 穹穴住居16(SA16)・同内出土遺物	40
第16図 穹穴住居2(SA02)・同内出土遺物	19	第38図 穹穴住居17(SA17)・18(SA18)・同内出土遺物	41
第17図 穹穴住居3(SA03)・同内出土遺物(1)	20	第39図 周溝状遺構1(ST01)	42
第18図 穹穴住居3(SA03) 内出土遺物(2)	21	第40図 周溝状遺構1(ST01) 内出土遺物(1)	43
第19図 穹穴住居4(SA04)・同内出土遺物	22	第41図 周溝状遺構1(ST01) 内出土遺物(2)	44
第20図 穹穴住居5(SA05)	23	第42図 周溝状遺構1(ST01) 内出土遺物(3)	45
第21図 穹穴住居5(SA05) 内出土遺物(1)	24	第43図 周溝状遺構2(ST02)	46

第 44 図 周溝状遺構 2 (ST02) 内出土遺物 (1)	47	第 59 図 主な中世の土坑	62
第 45 図 周溝状遺構 2 (ST02) 内出土遺物 (2)	48	第 60 図 溝 (1)	63
第 46 図 周溝状遺構 2 (ST02) 内出土遺物 (3)	49	第 61 図 溝 (2)	64
第 47 図 周溝状遺構 2 (ST02) 内出土遺物 (4)	50	第 62 図 その他の遺物 (1)	65
第 48 図 周溝状遺構 3 (ST03)	51	第 63 図 その他の遺物 (2)	66
第 49 図 周溝状遺構 3 (ST03) 内出土遺物 (1)	52	第 64 図 その他の遺物 (3)	67
第 50 図 周溝状遺構 3 (ST03) 内出土遺物 (2)	53	第 65 図 B 区遺構分布図	69
第 51 図 周溝状遺構 3 (ST03) 内出土遺物 (3)	54	第 66 図 土層断面図 (1)	70
第 52 図 周溝状遺構 3 (ST03) 内出土遺物 (4)	55	第 67 図 土層断面図 (2)	71
第 53 図 弥生時代の土坑	56	第 68 図 土坑・同内出土遺物	72
第 54 図 捩立柱建物 1, 2 (SB01, SB02)	57	第 69 図 溝・同内出土遺物	73
第 55 図 捩立柱建物 3, 4 (SB03, SB04)	58	第 70 図 北側水田跡	74
第 56 図 捩立柱建物 5, 6 (SB05, SB06)	59	第 71 図 文明バミス上の畝状遺構	75
第 57 図 捩立柱建物 7, 8 (SB07, SB08)	60	第 72 図 B 区包含層出土遺物①(古代土師器・須恵器)	76
第 58 図 竪穴状遺構 (SX01)・同内出土遺物	61	第 73 図 B 区包含層出土遺物②(国産・貿易陶磁器)	77

表 目 次

表 1 出土遺物観察表 1	83	表 8 出土遺物観察表 8	90	表 15 出土遺物観察表 15	97
表 2 出土遺物観察表 2	84	表 9 出土遺物観察表 9	91	表 16 出土遺物観察表 16	98
表 3 出土遺物観察表 3	85	表 10 出土遺物観察表 10	92	表 17 出土遺物観察表 17	99
表 4 出土遺物観察表 4	86	表 11 出土遺物観察表 11	93	表 18 出土遺物観察表 18	100
表 5 出土遺物観察表 5	87	表 11 出土遺物観察表 12	94	表 19 出土遺物観察表 19	101
表 6 出土遺物観察表 6	88	表 13 出土遺物観察表 13	95	表 20 出土遺物観察表 20	102
表 7 出土遺物観察表 7	89	表 14 出土遺物観察表 14	96		

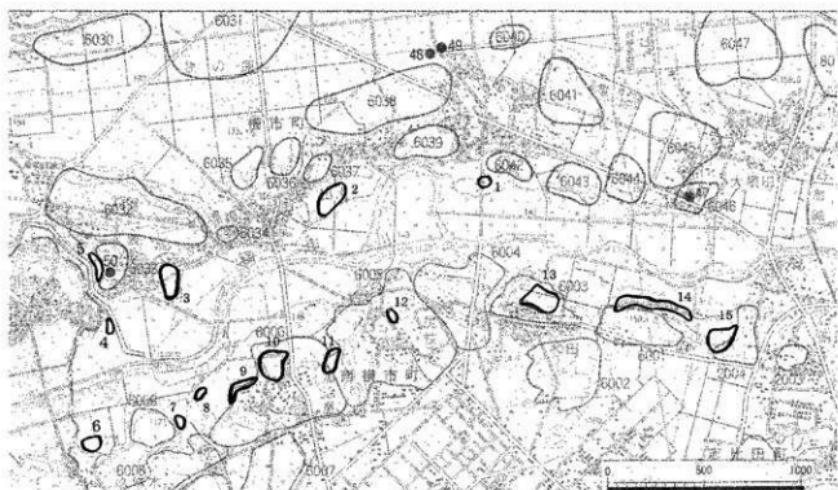
写真図版目次

写真図版 1 今房遺跡遠景、A区東側	106	写真図版 10 A 区 中世の遺構 2(土坑、溝)	115
写真図版 2 今房遺跡 B 区全景、A 区西側	107	写真図版 11 B 区 遺構(土坑、溝、水田跡)	116
写真図版 3 A 区 繩文土坑	108	写真図版 12 出土遺物①	117
写真図版 4 A 区 竪穴住居(1)	109	写真図版 13 出土遺物②	118
写真図版 5 A 区 竪穴住居(2)	110	写真図版 14 出土遺物③	119
写真図版 6 A 区 竪穴住居(3)	111	写真図版 15 出土遺物④	120
写真図版 7 A 区 竪穴住居(4)	112	写真図版 16 出土遺物⑤	121
写真図版 8 A 区 周溝状遺構	113	写真図版 17 出土遺物⑥	122
写真図版 9 A 区 中世の遺構 1(擩立柱建物、土坑)	114		

1. はじめに

(1) 調査に至る経緯

横市地区のほ場整備（農業基盤整備）事業は、担い手育成基盤整備事業として採択され、平成6年度より宮崎県文化課（現文化財課）により詳細分布調査が実施され、事業区内の遺跡の把握に努めてきた。今房地区においては平成11年度約8haのほ場整備が予定され、平成9年6月に試掘調査を含めた確認調査が実施され、柱穴等の遺構と弥生後期の土器等が出土した。宮崎県北諸県農林振興局と事業区内の埋蔵文化財の取扱いについて協議し、工事により遺跡の破壊を受ける部分約3,110m²について発掘調査を受託し、平成11年5月11日から同年12月3日にかけて実施した。なお、平成11年度今房遺跡発掘調査概要報告書（合冊）を刊行している。



- | | | | | |
|---------|------------|---------|----------|--------------|
| 1 今房遺跡 | 2 脇穴遺跡 | 3 鶴喰遺跡 | 4 母智丘谷遺跡 | 5 畑田遺跡 |
| 6 馬渡遺跡 | 7 江内谷遺跡 | 8 坂元A遺跡 | 9 坂元B遺跡 | 10 加治屋遺跡（3次） |
| 11 星原遺跡 | 12 田谷・尻枝遺跡 | 13 平田遺跡 | 14 早馬遺跡 | 15 正坂原遺跡 |

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

(2) 調査の組織

<発掘作業> 平成 11 年度

調査主体 都城市教育委員会 教育長 隈元幸美(～平成 11 年 6 月)
教育長 長友久男(平成 11 年 7 月～)

調査総括 文化課 課長 入来昭良
課長補佐 盛満和男
文化財係長 堀之内克夫
臨時職員 小田尚子

調査担当 主事 横山哲英

調査補助員嘱託 原田華紀子(現 外山華紀子)

発掘作業 阿久根トシエ 吉村則子 吉村洋平 奥スズ子 山下美佐子 竹中美代子 城村ミサ
横山照良 横山ミチ子 野村ハツエ 奥利治 今山キミ 来住サチ子 堀登 蒲生サダ
野田ツミ子 野上トシ子 猪ケ倉正子 椎屋松子 今村まさ子 小山田ハツ子 浜田寛
上宮田ミチ 山下健一 締田慎也 野口虎男 中原貞良 坂元トミ子 櫻木ツネ 徳満
ミツ 内村好子 広村ミキ 皆吉ハツエ 坊地トミ 蔵蘭スズ子 櫻木ハナ 徳満和子
馬籠恵子 庄屋幸子 立野良子 木牟礼篤子 抜追清美 藤田和子 大山伊智子

整理作業 池崎美智子 大盛祐子 児玉信子 丸崎千鶴子 吉留優子

<報告書作成作業> 平成 18 年度

主体 都城市教育委員会 教育長 玉利譲

総括 文化財課 課長 高野隆志
課長補佐 新宮高弘

担当 副主幹 矢部喜多夫
嘱託 中村友昭

整理作業 奥登根子 西博子 新屋美佳

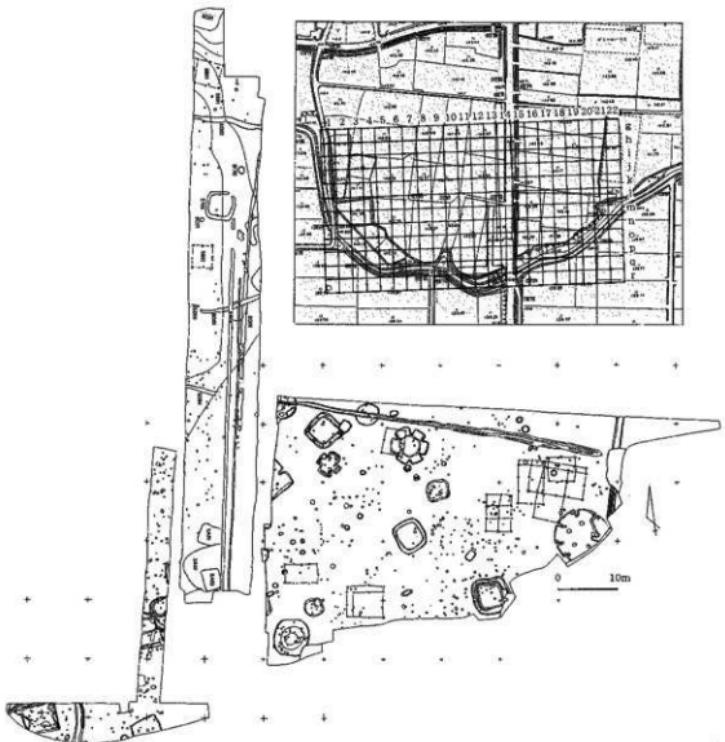
2. 遺跡の位置と環境

今房遺跡は横市川流域の河岸段丘面の低位段丘、標高 140 ~ 141 m間に立地する。遺跡の周囲には「コ」の字状に浅い谷(流路)の痕跡が空中写真や地形図等からうかがえる。当遺跡は県営担い手育成基盤整備事業(ほ場整備)の事前調査(試掘調査)で発見されたもので、平成 8 年度横市町鶴喰遺跡調査を皮切りに横市地区での第 3 次調査(3 番目)の遺跡である。また、平成 14 年には市道今房・和田線道路改良工事に伴い、今房遺跡第 2 次調査を実施している。いずれの調査も主に弥生後期半から終末と中世の遺構・遺物が出土している。横市地区的農業基盤整備事業は先述のとおり発掘調査は平成 8 年度から同 17 年度までで、11 遺跡の調査を実施し、総調査面積は 10 万 m²を越えその調査成果も圧巻である。

周辺の遺跡の立地を地形に沿って分類すると、まず、横市川左岸では成層シラス台地上(縁辺部)

に中尾山・馬渡遺跡、加治屋 A 遺跡、田谷・尻枝遺跡、右岸では新宮城跡があり、段丘面上には前者では馬渡、江内谷、坂元 A・B、加治屋 B、星原、平田、早馬、正坂原遺跡、後者では母智丘谷、畠田、鶴喰、脇穴、今房遺跡と点在している。

また、第1図は遺跡詳細分布図をベースにして遺跡調査地点を表示したものであるが、分布図作成時には主に成層シラス台地面に立地している遺跡を確認し、河岸(低位)段丘面の遺跡を結果的に見落としていることを認識させられた事業(調査)でもある。



第2図 今房遺跡1次(A区)・2次発掘調査及びグリッド図

3. 調査の記録

(1) 調査の概要

今房遺跡発掘調査は、グリッド法を用い、メッシュは公共座標の S N 座標線に一致し、単位を 10 m に設定している。また、調査時に調査順位と調査地により調査区域を便宜的に A～D 地区に分け、概要報告書にもそれに従って記載している。今回の報告では、調査地を以下のとおりに変更した。A 区は調査時の A・C・D 地区、B 区は調査時の B 地区である。

(2) 遺跡の基本層序

本遺跡の基本的な層序は、B 区がやや異なるが A 区では以下のとおりである。

第 1 a 層表土（現耕作土）、第 1 b 層現耕作土の基盤、第 2 層桜島文明降下軽石粒をまんべんなく含む黒色シルト、第 3 層桜島文明降下軽石、第 4 層黒色弱粘質シルト、第 5 a 層御池降下軽石粒をわずかに含む黒褐色弱粘質シルト、第 5 b 層御池降下軽石粒をまばらに含む黒褐色弱粘質シルト、第 5 c 層御池降下軽石粒をまんべんなく含む黒褐色弱粘質シルト、第 5 d 層御池降下軽石粒を多量に含む黒褐色弱粘質シルト（漸移層）、第 6 層霧島御池降下軽石、第 7 層漆黒色粘質シルト、第 8 層アカホヤ…と堆積している。今回調査した部位は第 6 層上面までである。遺構検出面はおむねこの第 6 層上面であるが、中世の遺構の一部は第 4 層下部で確認した。また、第 3・4 層が中世、第 4～5 c 層が縄文後期後半から弥生終末期の遺物包含層である。

(3) A 区の遺構と遺物

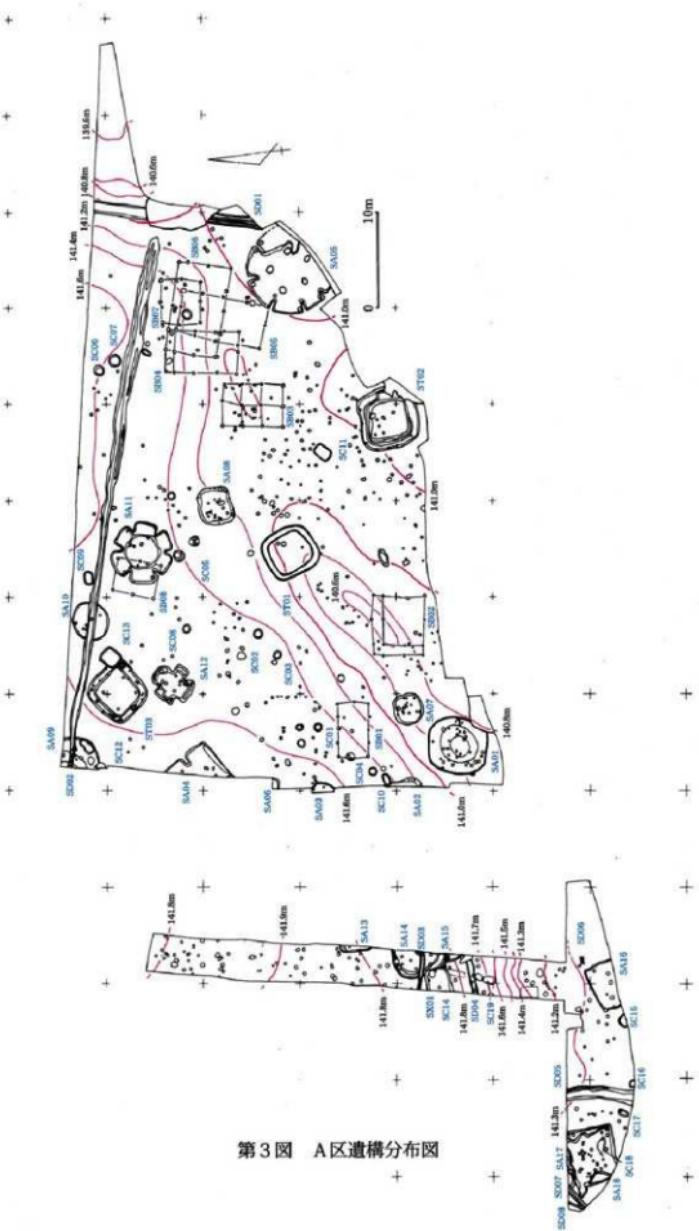
概要報告では、旧 A 地区で縄文後期後半から晩期前半の土坑 4 基、弥生後期後半から終末期の竪穴住居 8 軒、周溝状遺構 2 基、土坑 1 基、中世の溝 1 条、掘立柱建物 6 棟、土坑 3 基、柱穴群と時期不明の土坑 6 基が検出されている。旧 C 地区では弥生後期後半から古墳初頭の竪穴住居 6 軒と柱穴群、中世後半頃の溝 6 条、土坑 6 基、竪穴状遺構 1 基、柱穴群である。D 地区では縄文晩期前半の土坑 3 基、弥生後期後半から終末期の竪穴住居 4 軒、周溝状遺構 1 基、土坑 2 基、柱穴群、中世の掘立柱建物 2 棟、土坑、柱穴、溝 2 条である。

これらの遺構を新たに A 区として大まかな時期区分でまとめると、縄文後期後半から晩期の土坑 7 基、弥生後期後半から終末期の竪穴住居 18 軒、周溝状遺構 3 基、土坑 3 基、中世では溝状遺構 6 条、掘立柱建物 8 棟、土坑 (4 + α) 基となる。

縄文時代

土坑 7 基が検出された。

土坑 1 (SC01) は径 0.9 m の円形プランで、深さ 0.3 m ほどを測る。埋土は 5 層の黒褐色弱粘質シルトである。磨製石斧 1 (06)、磨石 2 (07,08) のほか土器が出土している。01 は反転口徑推定 26.2cm を測る。胴上部で屈曲し口縁は外反気味に立ち上がる。屈曲部内壁に削り出したような稜線が残る。02,03 も同様の深鉢と思われる。04,05 は器壁がやや薄く、胴上部で屈曲し立ち上がる浅鉢と思われる。(旧 A-SC03)



第3図 A区遺構分布図

土坑2(SC02)は0.8mほどの円形をなし、東側に三角形状の中段をもつ。深さは検出面より0.3m弱と浅い。埋土は第5層黒褐色弱粘質シルトである。(旧A-SC06)

土坑3(SC03)は長軸0.8m、短軸0.6mほどの楕円形を呈し、検出面より深さ0.4mを測る。埋土は黒褐色弱粘質シルトである。(旧A-SC11)

土坑4(SC04)は径0.6m強、深さ0.2m弱の円形プランである。(旧A-SC13)

土坑5(SC05)はm-17、SA11の直南に位置する。長軸(南北)1.26m、短軸(東西)1.15mほどの(楕)円形を呈し、南側にテラス状の中段を設けている。深さは検出面より0.5mである。埋土は第5層の黒褐色弱粘質シルトである。遺物は精製浅鉢(09、10、11)と打製石斧(17)、石錐(19、20)、石皿(片)(18)、磨石(片)(21)などである。(旧D-SC04)

土坑6(SC06)はI-19南、土坑7に隣接する。長軸(略東西)1.2m、短軸(略南北)1.05m、検出面より深さ0.6m強を測る。埋土は第5層の黒褐色弱粘質シルトである。遺物は粗製浅鉢(12)と精製浅鉢(13)である。(旧D-SC07)

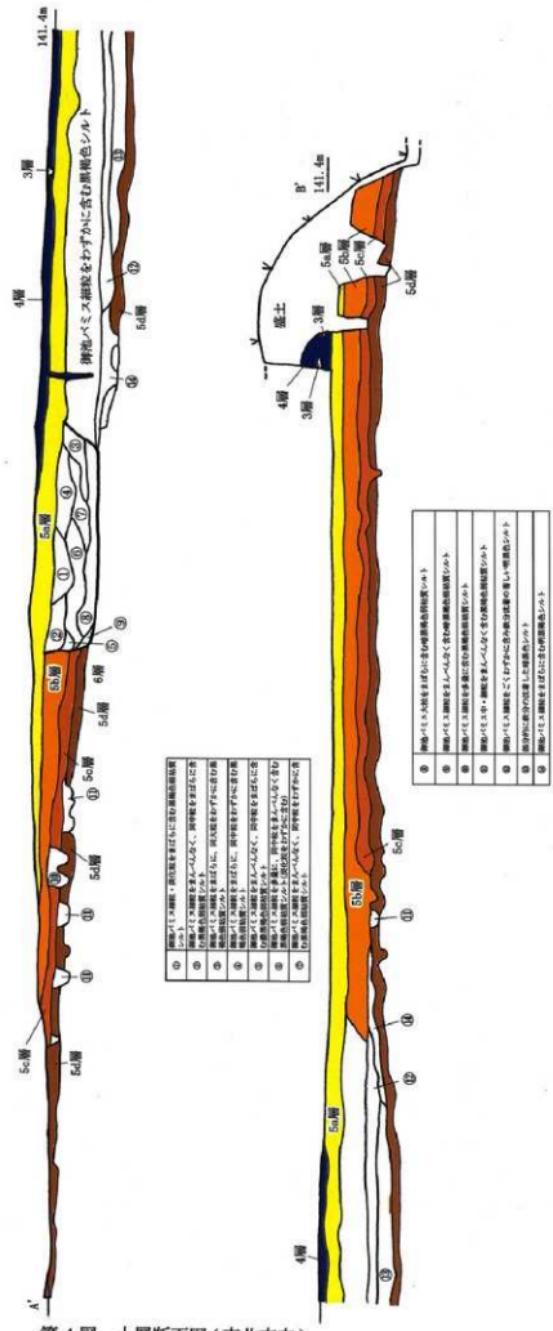
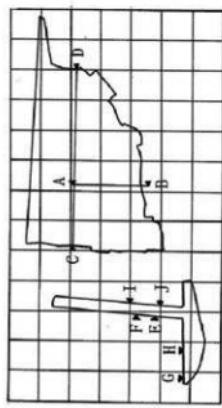
土坑7(SC07)はm-19北、土坑6に隣接する。径1.3~1.4mのほぼ円形プランで、西側検出面付近で短いスロープをもち、そのままほぼ垂直に掘り込まれている。深さ0.95mと縄文の土坑では一番深い。遺物は粗製深鉢片(14)で、胴上部で「く」の字に折れ、肩がやや張り、口縁は外反すると思われる。胴上部(屈曲)径(反転復元)35cmを測り、胴屈部下でスヌの付着がみられる。(旧D-SC08)

その他の遺物 23は口唇部に刻目状の連点を施す深鉢で岩崎下層式と思われる。24は口縁下に穿孔を有し、その直下が突帯状に肥厚する。25は山形口縁の市来式深鉢で、山形の頂点に縱方向の粗い突起を有し、山形間に粗い2条の凹線をもつ。26は外反気味に立上がり口縁部が断面三角形状に肥厚する。29~31は浅鉢で、29は座りの悪い平丸底の底部から「ハ」の字に開き胴上部で屈曲しそのまま直線的に立ち上がる。31は胴下部に組織痕が残る。29,31はスヌの付着が見られる。33は口縁に鱗状突起をもつ。34は刻目(突帶)を廻らすと思われる。

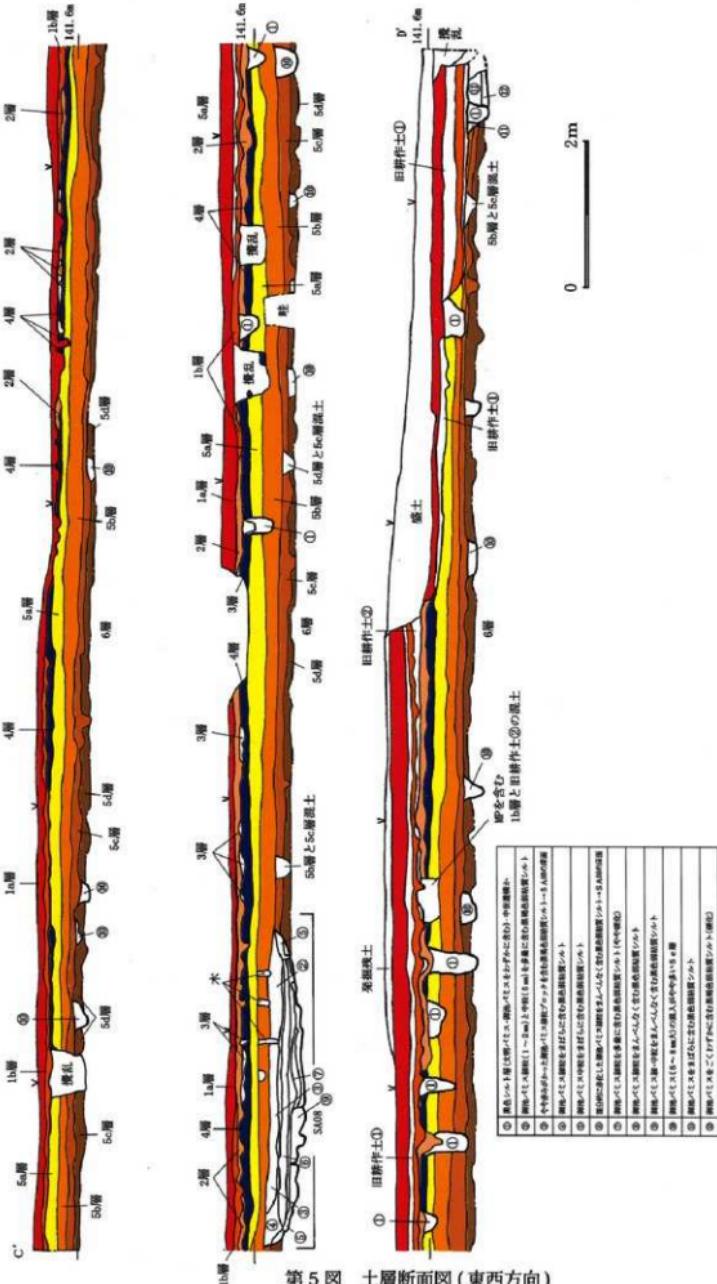
弥生時代

竪穴住居1(SA01)はp-15区、径6mほどの円形プランで、検出面よりの深度は最大でも0.2mである。柱穴は大小かなり確認しているが、主柱穴は2穴の可能性が高い。埋土の基調は5層の黒褐色弱粘質シルトである。(旧A-SA01)

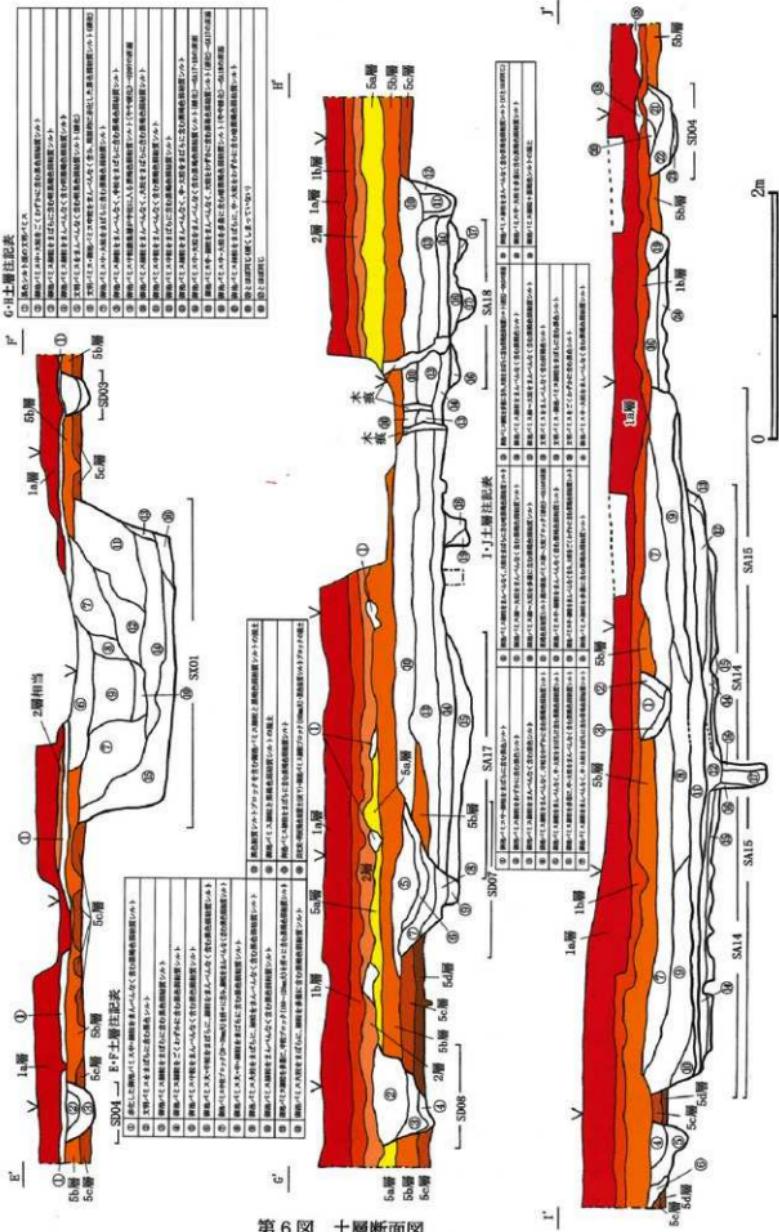
遺物は35~47、49~66、69・71、92~95、97~99、104~126が甕である。口縁は「く」の字であるが、屈曲の緩慢等により細分できる。また、最大径は口縁部と胴部(58,63,65,69)のものに大別でき、前者は胴部があまり張らず胴部最大径が胴上部にある。底部は平底(ほぼ平底)が112,118,121,126,131、上げ底が104,106,107,109,111,115,116,119,120,122、脚台状のものが105,108,110,113,117,123,124,125である。甕は複合口縁甕(102)で外側に粗い櫛描波状文が施されている。直口甕(77)、広口甕で外反する口縁が短いもの(76,79)や長頭甕(82,83)がある。鉢は外反する口縁が明瞭なもの(70)と緩慢なもの(72,96,100,101)のほか尖底から直線的に立ち上がるもの(73)がある。高坏は坏部口縁が外反するもの(84,85,86)と直線的に立ち上がるもの(87)に分けられる。ミニチュア土器(88,89,90,91)も出土している。



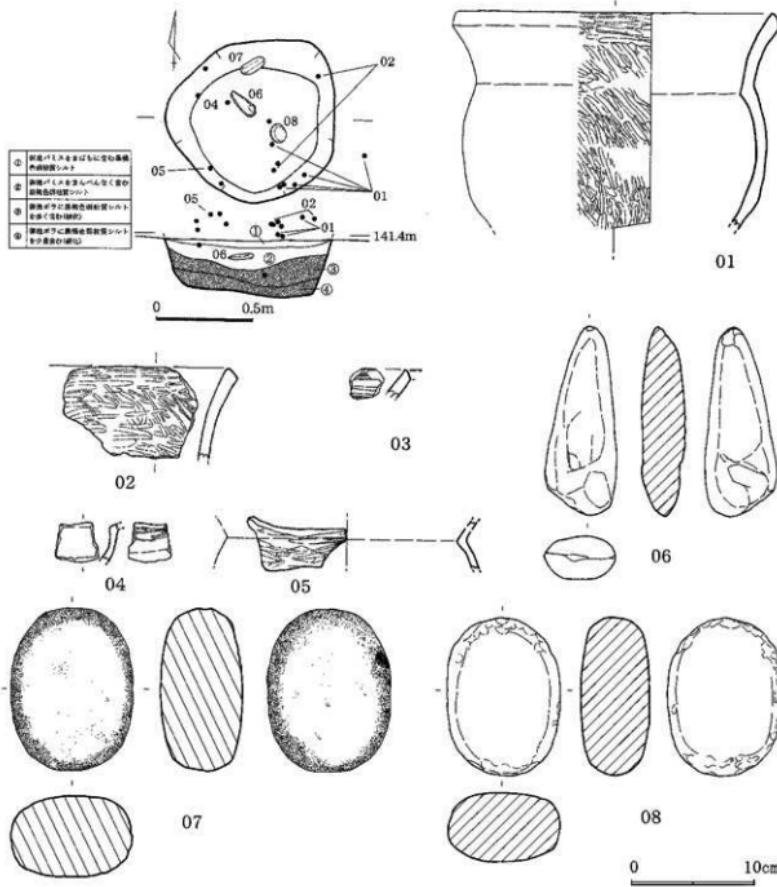
第4図 土層断面図(南北方向)



第5図 土層断面図(東西方向)



第6図 土層断面図

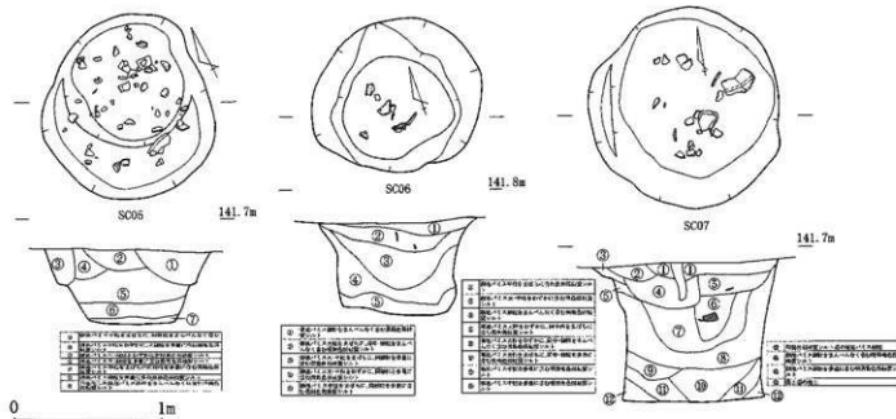


第7図 土坑1(SCO1)・同内出土遺物

石器は砥石(137～140)と軽石製品(141～144)である。

豊穴住居2(SA02)はo、p-15区の境で住居の一部を確認している。平面形態は不明である。検出面よりの深度は0.5mほどで、床面が硬化している。北側部分で中世の土坑10(SC10)に切られている。埋土の基調は第5層である。(旧A-SA02)

遺物は145～152が甕で、「く」の字口縁をなし、最大径は口縁部で胴部はあまり張らずにすぼむ。底部は低い脚台状を呈する。153は甕の底部である。



第8図 土坑5, 6, 7 (SC05,06,07)

豊穴住居3 (SA03) はo-15区で豊穴住居の一部を検出した。平面形態は不明で、遺構深度は0.4m強で、床面が硬化している。埋土の基調は第5層である。(旧A-SA03)

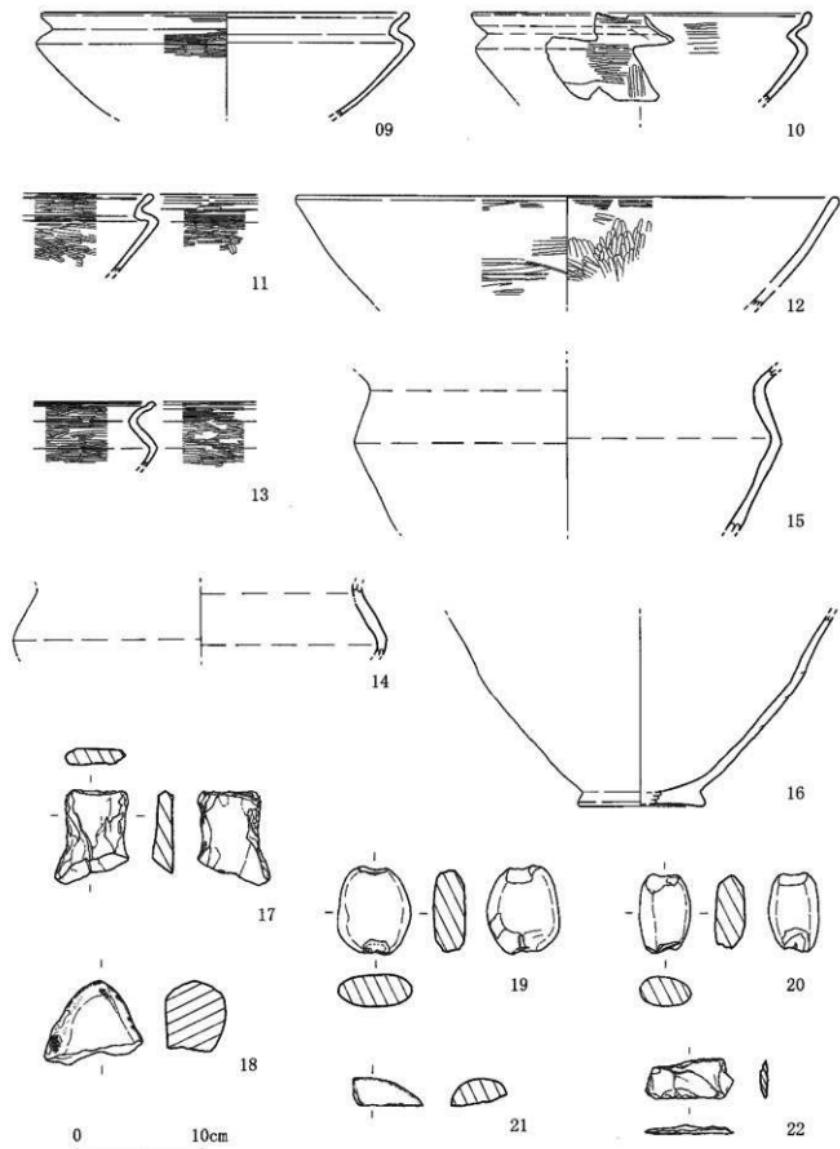
遺物は154～159が甕の口縁から胴部であるが、「く」の字に屈曲する口縁外面に明瞭な棱をもたない。162は大型の長頸壺で頸部が27cmほどである。161は高环の坏部で口縁が外反する。163は口縁が短く外反し胴部は袋状になるとと思われる。甕の底部は平底169、上げ底が164,165,168,170、脚台状が166,167である。特に165はリング状の粘土を貼り付けて底部を造り上げている。

豊穴住居4 (SA04) はn、m-15区に住居の半分程度を検出した。平面プランは方形のH型と思われる。南側側壁に沿って浅い溝状の落込みがある。また、間仕切り壁の北側に土坑を配している。埋土の基調は第5層である。(旧A-SA04)

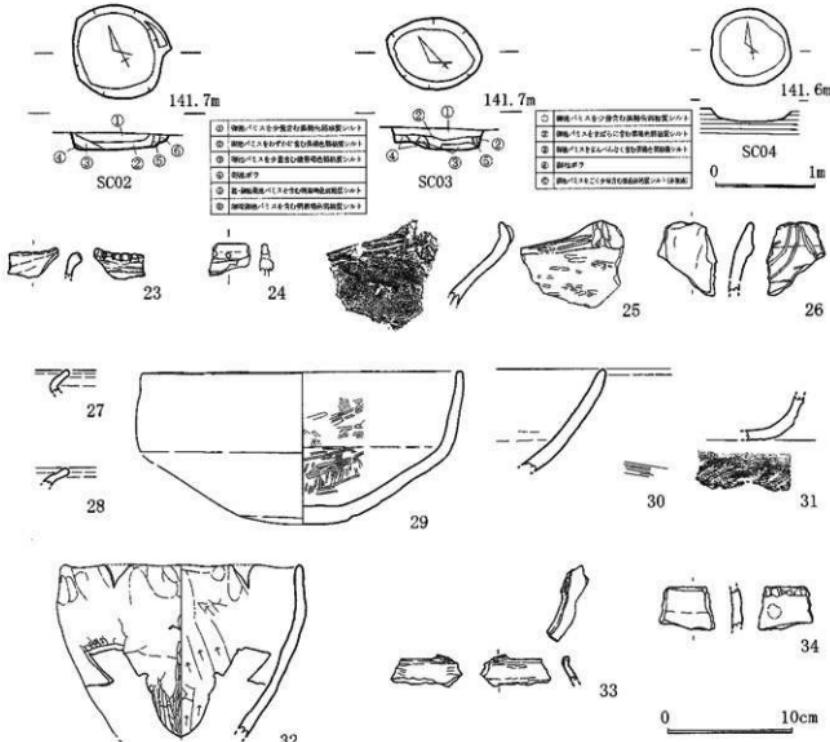
遺物は口縁屈曲部に稜をもたない甕(174)や坏部口縁が外反する高坏(175)である。

豊穴住居5 (SA05) はn,o-20区に位置し、南側部分が破壊を受けている。円形の花弁型住居で、間仕切り壁を現存で6ヶ備えている。住居の中央部分がやや窪み、その周囲を5角形状に主柱穴を配している。間仕切り内部が一部ベット状になっているところがある。埋土は第5層がベースである。(旧A-SA05)

179～200の甕の内、口縁屈曲部の稜の有無から179, 181, 183, 184, 187, 189, 190と180, 182, 188, 195, 196, 197, 198, 199, 200におおまかに分けられる。壺では212がなで肩の肩部から頸部はゆるく丸みを帯びながら立ち上がり、口縁で急に外反する。口唇部は幾分窪む。210は胴部最大径よりやや上位に現存1条の刻目突帯を廻らす。風化が激しく断面形状は不明である。214～216, 224は高环の坏部で口縁が鋭く屈曲し外反する。233は方形外湾刃の石庖丁である。234, 235, 237は石錐で、長辺側に切目を施している切目石錐234と長軸側を打ち欠いている砾石錐235, 237である。



第9図 土坑5, 6, 7(SC05,06,07)内出土遺物



第10図 その他の縄文土坑と縄文土器

竪穴住居6(SA06)はn-15区でごく一部を検出した。遺構検出の形状や深度から竪穴住居と推定している。(旧A-SA06)

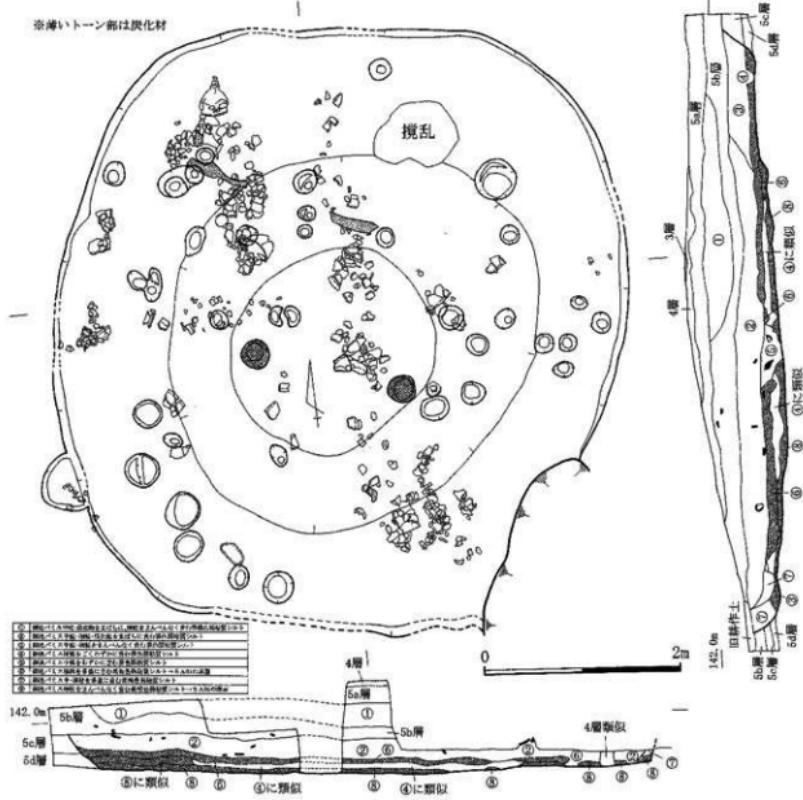
竪穴住居7(SA07)はp-15区でSA01の北東側に位置する。一辺3m前後のやや小型の方形プランである。主柱穴は中央2穴と思われる。埋土は第5層がベースである。(旧A-SA07)

245は高環の環部口縁と思われる。

竪穴住居8(SA08)はm,n-17,18区交点付近に位置する。東西4m、南北3.5mほどの方形で、検出面よりの深度は0.3m強である。北側の風倒木痕を切っている。主柱穴は4穴と思われる。(旧A-SA08)

250は最大径が口縁部と胴上部である。253は高環の環部で屈曲部は鈍角に折れ、やや外反気味に立ち上がる。脚部との接合部の断面は丸細い。

竪穴住居9(SA09)は調査区域北西角l-15区で溝3と土坑13(SC13)に切られる形で一部出土している。プランは円形と思われる。深度は遺構検出面より0.3mを測り、中央付近で0.1mほどの段差がある。床面は硬化している。埋土は第5層が基調である。(旧D-SA01)



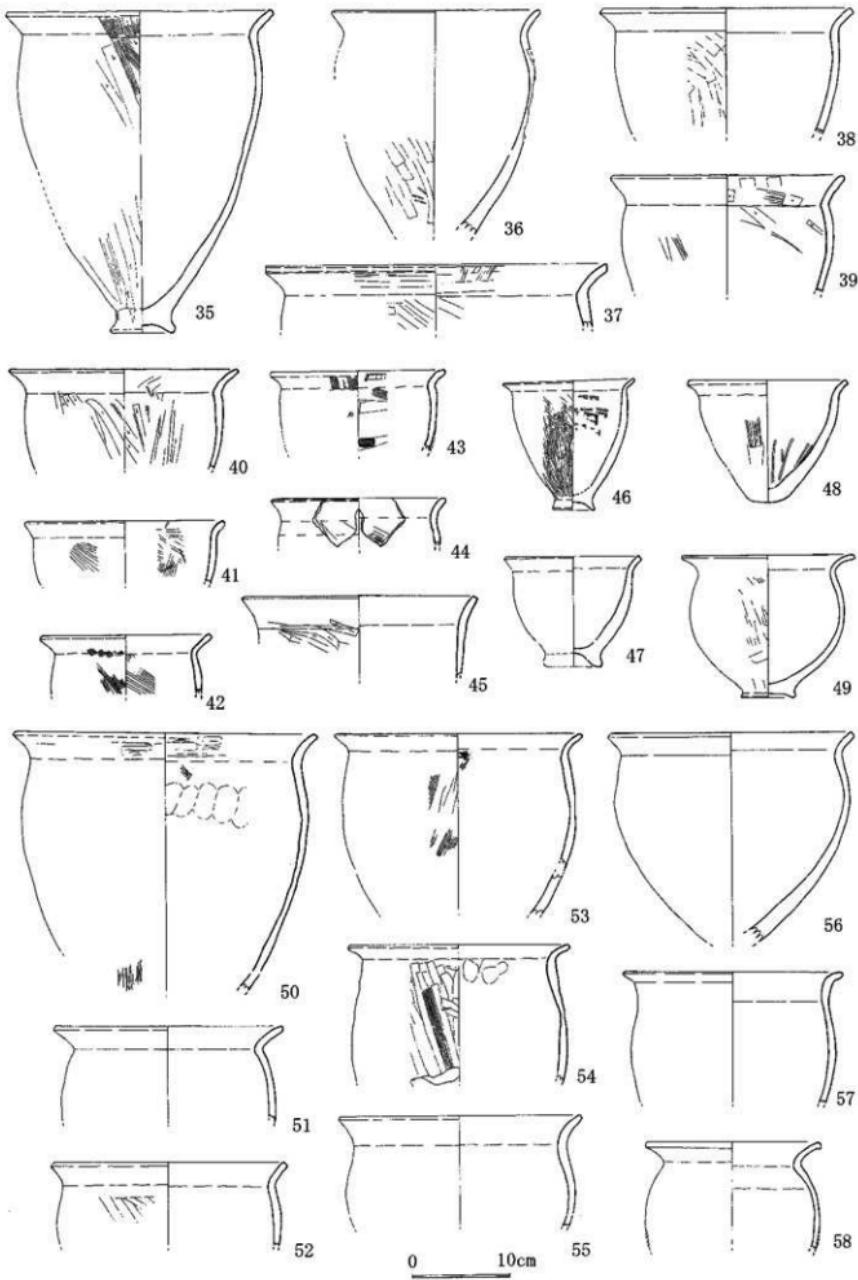
第11図 穫穴住居1(SA01)

255～258は口縁屈曲部の稜が明瞭で、264～267は屈曲が緩慢な甕である。268～272の甕底部は平底ないし上げ底である。複合口縁壺(261)の口縁外面には櫛描波状文はない。262は直口壺、279は長軸側を打ち欠いた礫石縫と思われる。

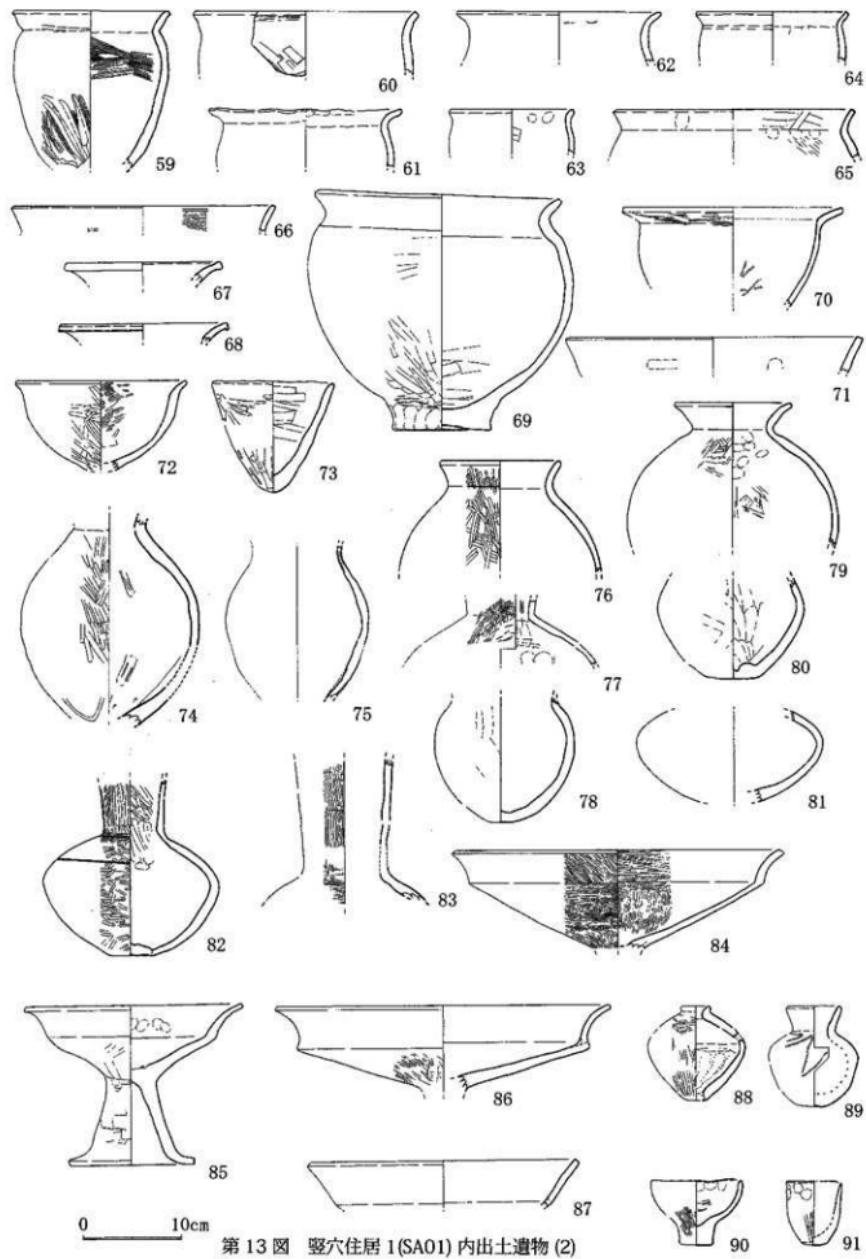
竪穴住居10(SA10)は1-16区で遺構中央を溝3に切られている。径3.8mほどの円形プランで、主柱穴は中央付近の2穴と思われる。遺構の深度は検出面より0.2mほどで、埋土は第5層である。(旧D-SA02)

280～286は甕である。280は最大径が口縁部にあり、胴部は張らずすぼむように底部(上げ底)へ繋がる。胴上部から口縁屈曲部にかけて明瞭なハケメを施し、器壁がやや薄くなる。282も口縁屈曲部下に明瞭なハケメを、屈曲部直下に極浅い突帯(状)を削りだしている。288は高环の脚部で接合部は径6.5cmと細く、脚部はラッパ状に開く。円形の透かしを現存で2孔もつ。

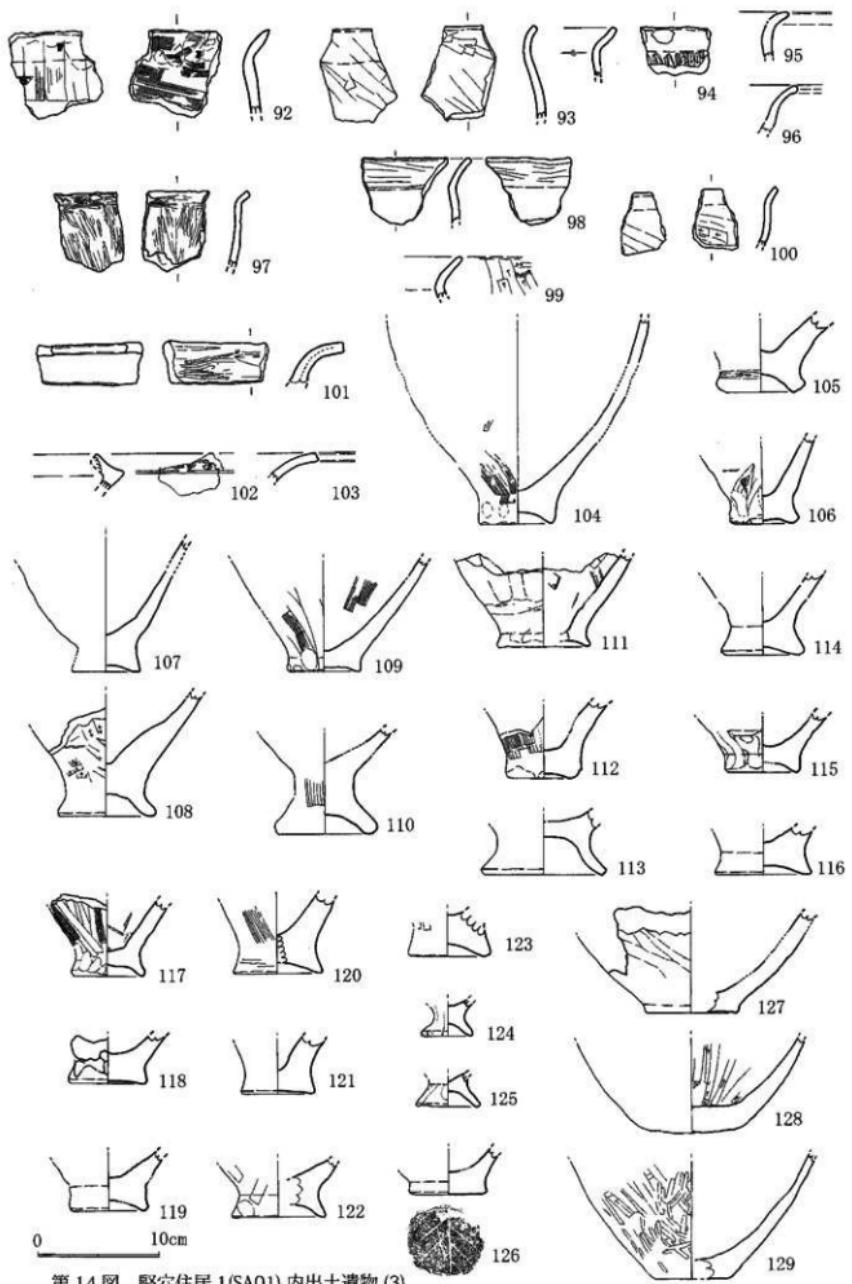
竪穴住居11(SA11)はm-17区のほぼ中央に位置し、6つの間仕切り壁とベット状をもつ円形の



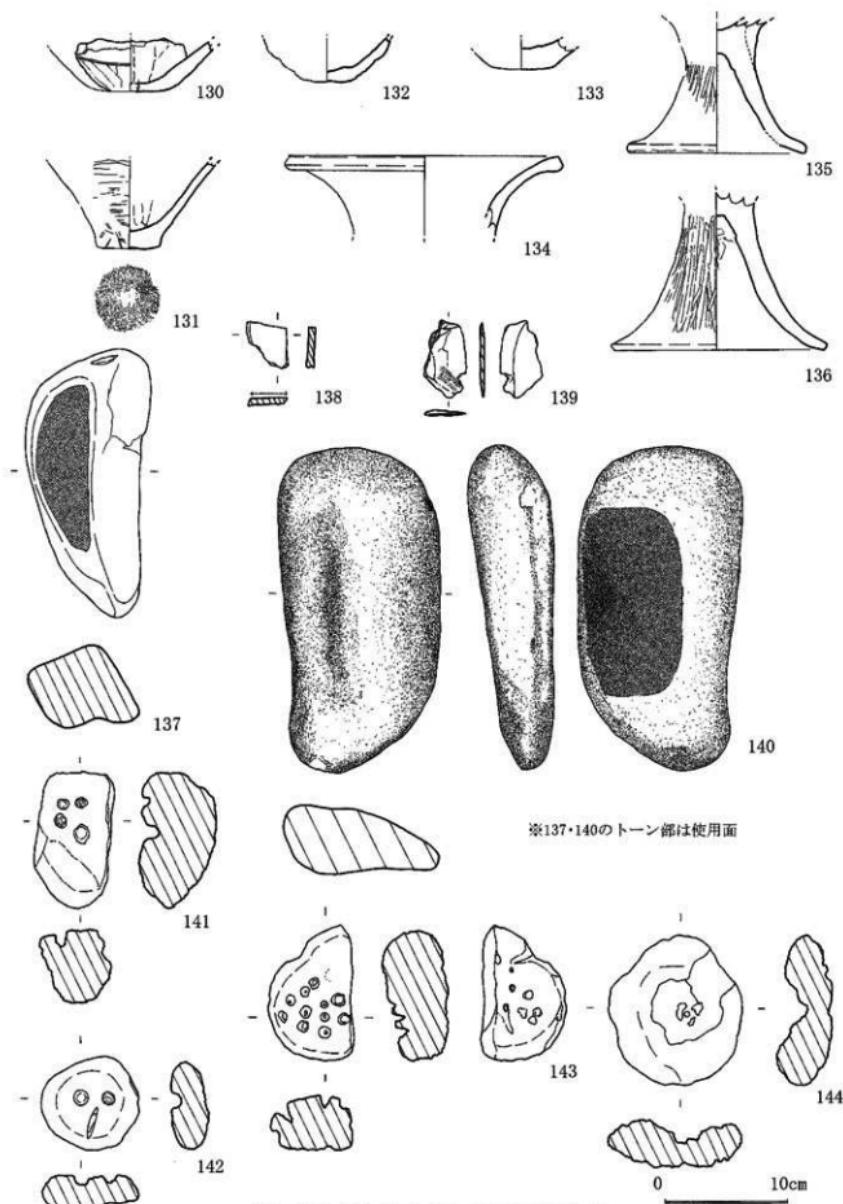
第12図 積穴住居1(SA01)内出土遺物(1)



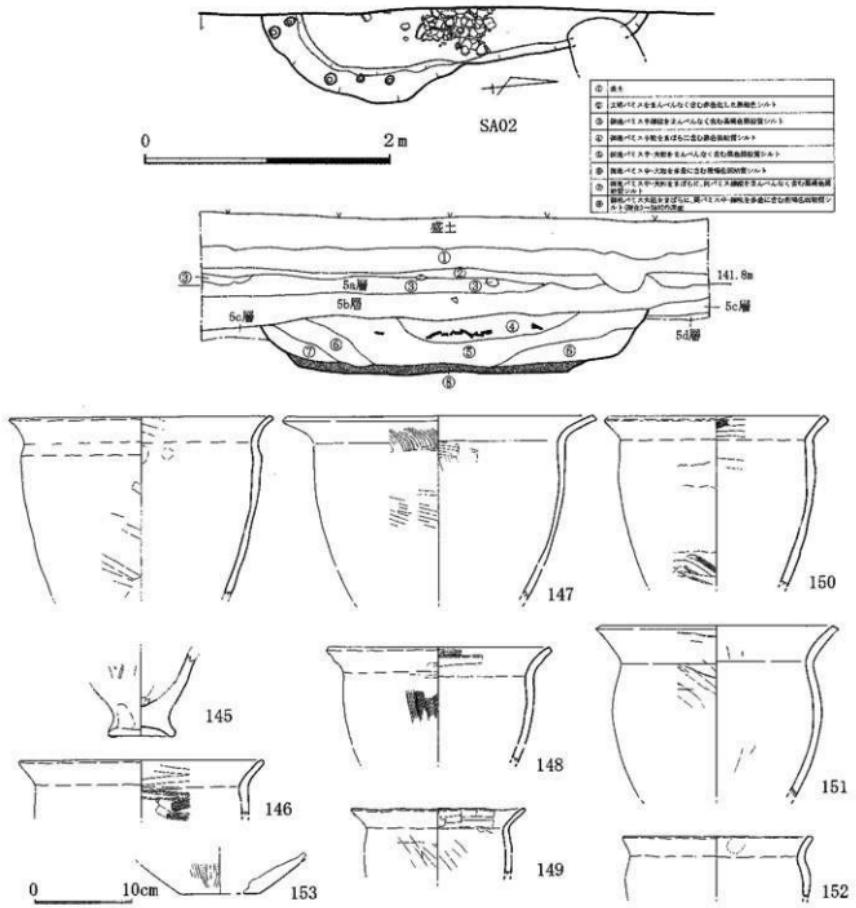
第13図 積穴住居1(SA01)内出土遺物(2)



第14図 穂穴住居1(SA01)内出土遺物(3)



第15図 積穴住居1(SAO1)内出土遺物(4)

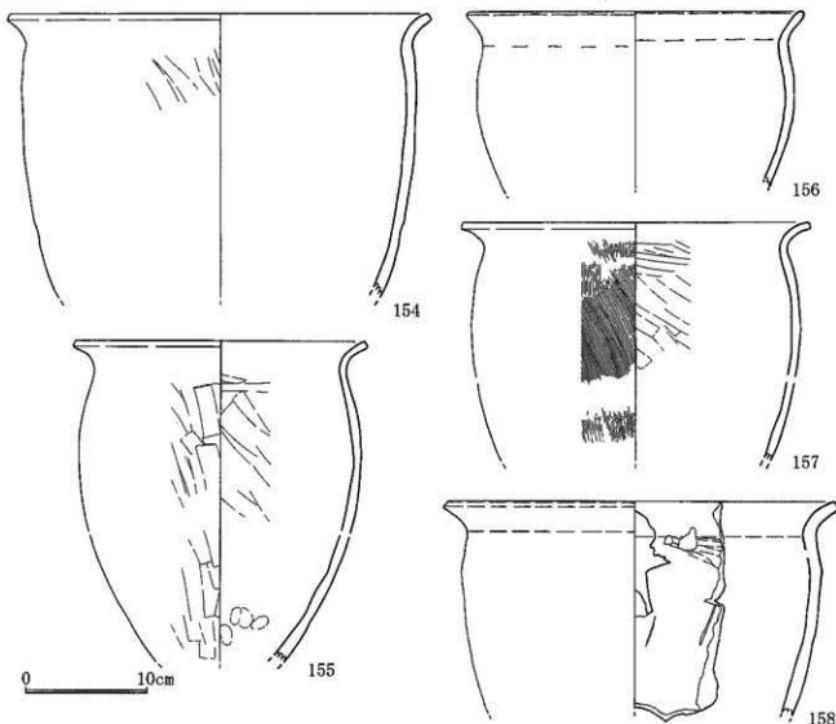
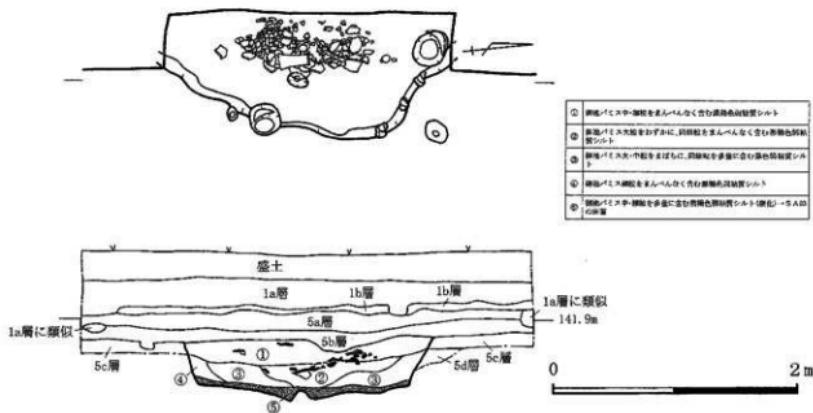


第16図 積穴住居2(SA02)・同内出土遺物

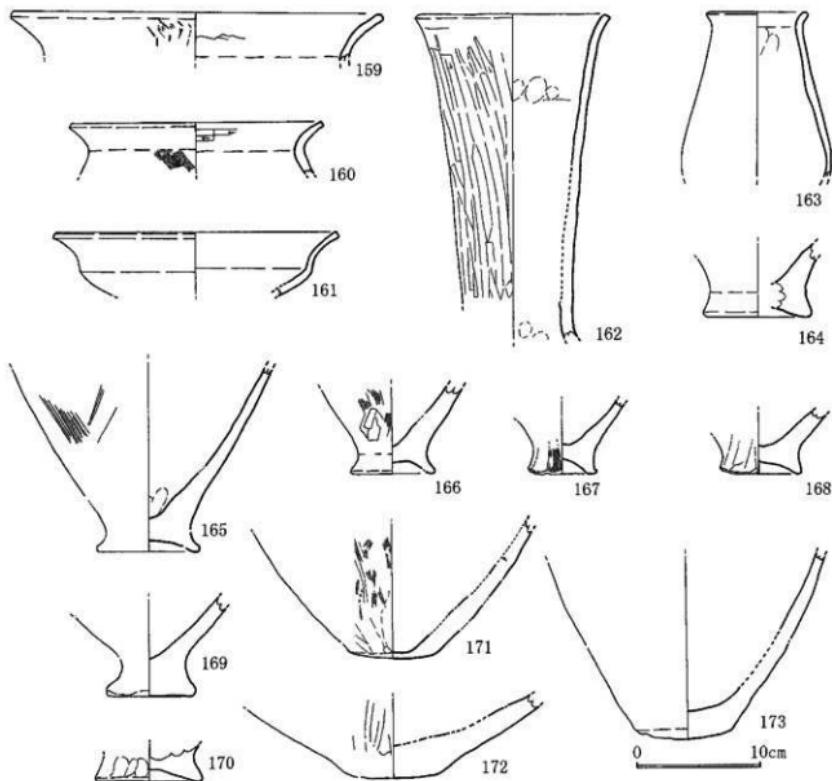
花弁形住居である。径 6.0 mほどで、ベット状部分が 0.1 ~ 0.15 mほど一段高くなっている。主柱穴は 2穴と思われる。南東部分を除き浅い壁帶溝が確認されている。(旧 D-SA03)

293 は最大径が口縁と胴上部で等しい壺である。294,295 は小型の深鉢と浅鉢で、浅鉢の底部は座りが悪い。297,299 ~ 302 は壺で、299 は胴部最大径付近に貼付突帯をめぐらす。

積穴住居 12(SA12) は m-16 と m-15 の境に位置し、ST03 が北にある。平面形態は方形を基調としたもので、幅のある大きな間仕切り壁 4つが方形の角にあり、4箇所のややいびつな方形の張出し部(ベット状)をもつ。主柱穴は 4穴と思われる。張出し部分は一段高いが形状は不規



第17図 積穴住居3(SA03)・同内出土遺物(1)



第18図 積穴住居3(SA03)内出土遺物(2)

則である。(旧D-SA04)

313はやや肩を張る壺である。315は直口壺、317はやや小型の直口壺、321,322は複合口縁壺で、前者は口縁外面に櫛描波状文が施されている。327,328は石鐵の未成品と思われる。

積穴住居13(SA13)はo-13の調査区東側で一部が出土している。方形の積穴住居と思われる。南北辺は3.1m前後、検出面より遺構深度0.6mを測る。(旧C-SA01)

積穴住居14(SA14)と積穴住居15(SA15)はo-p-13で切り合っている。断面観察によるとSA14の方がSA15より古い。平面形態は両者とも円形と思われる。SA14は南側にベット状の張り出しをもつと思われる。

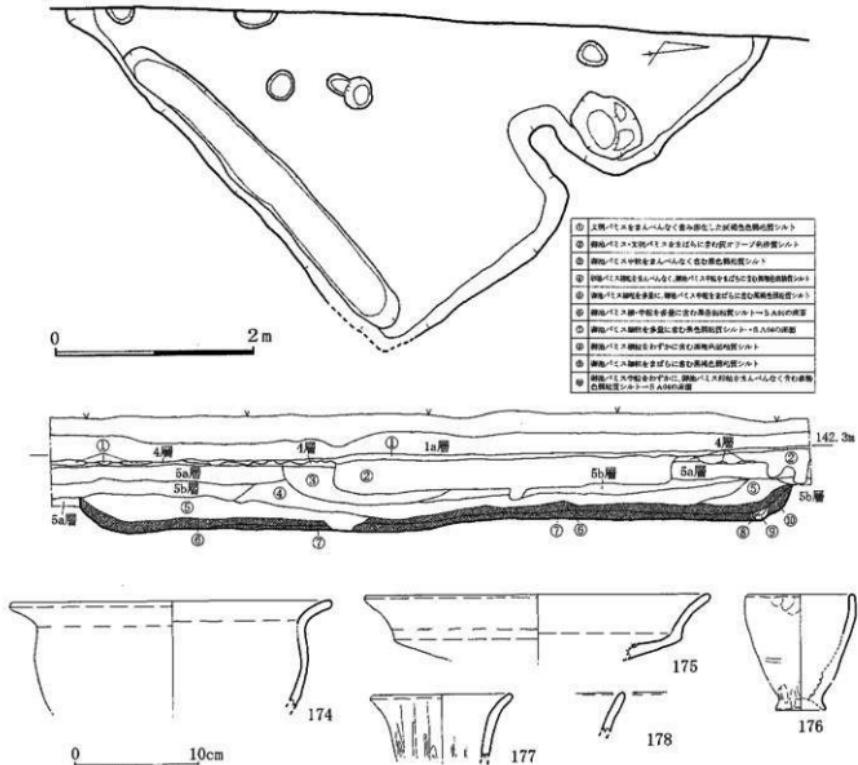
積穴住居14(SA14)はSA15も同様であるが、調査区外へ広がっている(未調査部分)方が検出面

より大きいため、遺構の全貌を把握することは難しい。SA14は短軸(辺)3.5m、長軸(辺)4.5mほどとの楕円形ないし隅丸方形プランで、遺構深度は検出面より推定0.5～0.6mほどと推定される。(旧C-SA02-1)

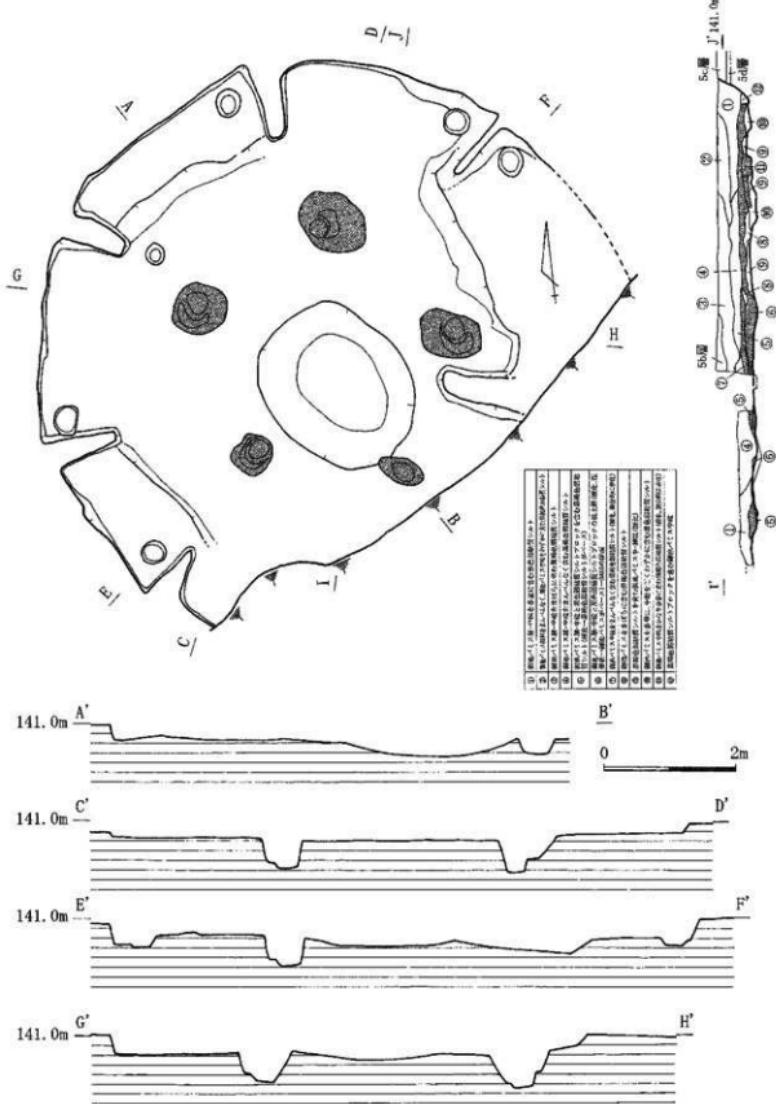
竪穴住居15(SA15)はSA14をひとまわり大きくしたもので、平面形態はSA14同様楕円形ないし隅丸方形状と思われるが、南側で最大2ヶ所の張出し部分が認められる。遺構深度は検出面より0.3～0.5mほどで、平面プランの数値については推定部分が大きいため言及を避けたい。(旧C-SA02-2)

331～334は最大径が口縁で、335は最大径が胴上部にある甕である。器壁は薄く、外面にスヌ状のものが付着する。339は小型の壺で肩部に7条の浅い沈線をめぐらす。底部は充実した台付状の平底である。342,343は体部が浅く口縁が大きく発達した浅鉢と思われる。

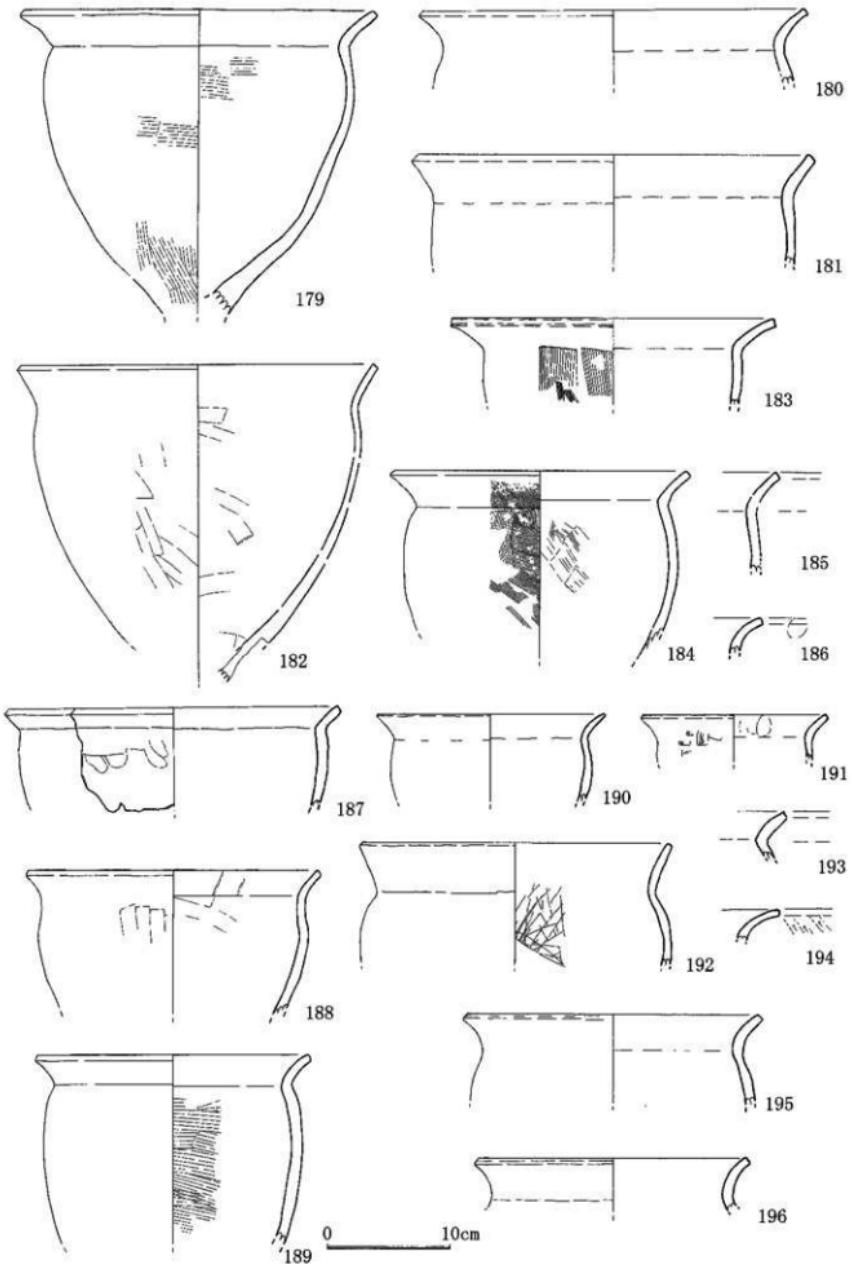
竪穴住居16(SA16)はp-12,13に位置する。東西辺4.6～4.9m、検出面より深さ0.5mほどの方形プランで調査区内に竪穴住居のほぼ半分が検出されている。主柱穴は推定2穴と思われる。(旧C-SA03)



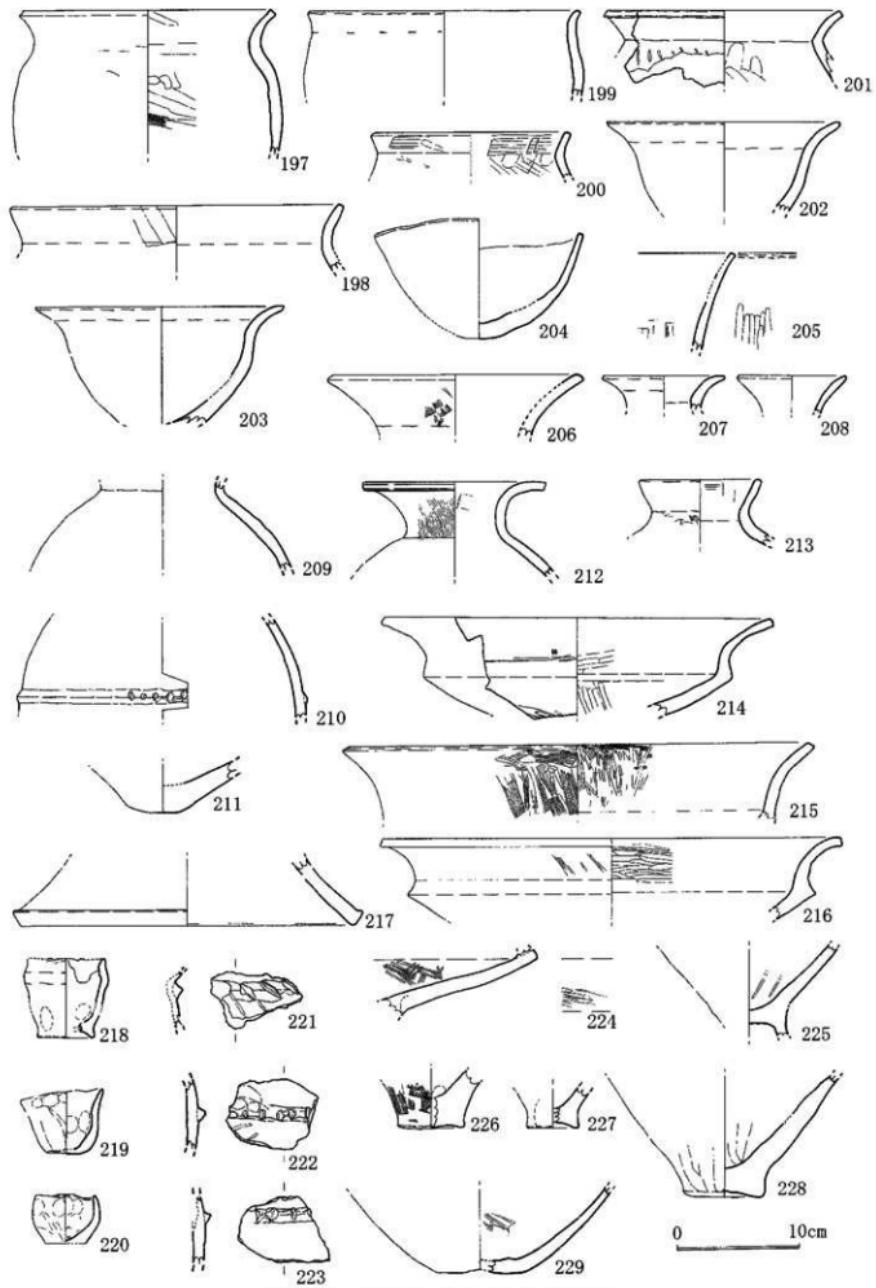
第19図 竪穴住居4(SA04)・同内出土遺物



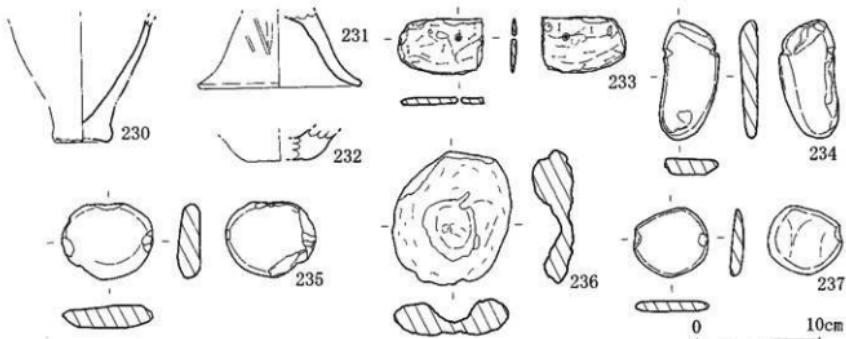
第20図 積穴住居5(SA05)



第21図 積穴住居5(SAO5)内出土遺物(1)



第22図 穂穴住居5(SA05)内出土遺物(2)



第23図 穂穴住居5(SAO5)内出土遺物(3)

355は高环の脚部で接合面からラッパ状に開く。4箇所に円形の透かしがあるがすべて同じ高さではない。367は壺の突起ないしは勾玉状土製品で突端に穿孔がある。

穂穴住居17(SA17)と穂穴住居18(SA18)はo, p - 10, 11で、切り合っている。土層断面では、断面中位に穂穴住居の床面が存在する住居(SA17)の方が新しいと思われる。

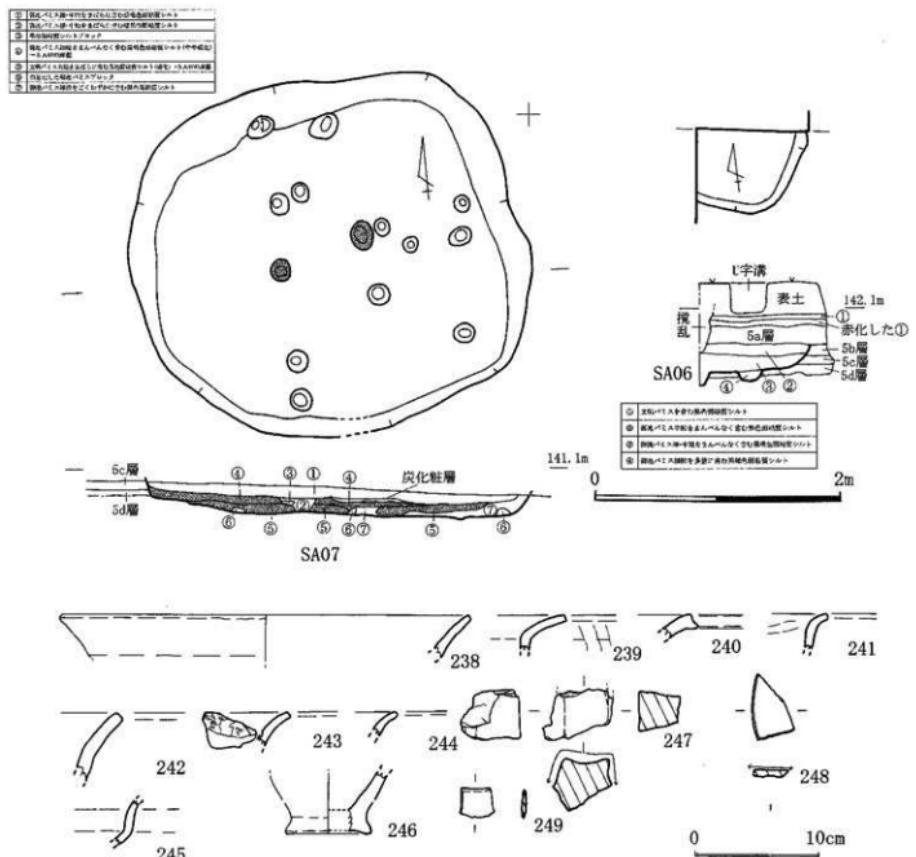
穂穴住居17(SA17)は全貌を把握していないため不明な点が多いが、基本的には方形と思われる。南北辺4.5mほど、東西は凹凸(ジグザク)があり、最大推定6.0m、最小4.0mほどである。遺構深度は検出面より0.2mほどで、断面観察で土層中位に硬化面(床面)が存在するためSA18より新しい。(旧C-SA04-1)

穂穴住居18(SA18)は東西方向が長い方形プランで長辺最大5.9m、短辺4.6mほどを測る。検出面から床面までは0.4mほどである。住居北側に一部落込みが確認されているが詳細は不明である。(旧C-SA04-2)

370～374は比較的小型の土器で、373は台付鉢である。375は小型の壺で、体部中央に孔を穿つ。376は高环の環部でやや丸く深みのある受部に外反する口縁が付くと思われる。

周溝状遺構1(ST01)はn, o - 17に位置する方形の周溝状遺構である。平面プランは略南北辺5.5m、略東西辺5.2m、溝幅0.8～0.6m、検出面より深さ0.2mほどで、断面は台形状である。内区に施設はない。(旧A-ST01)

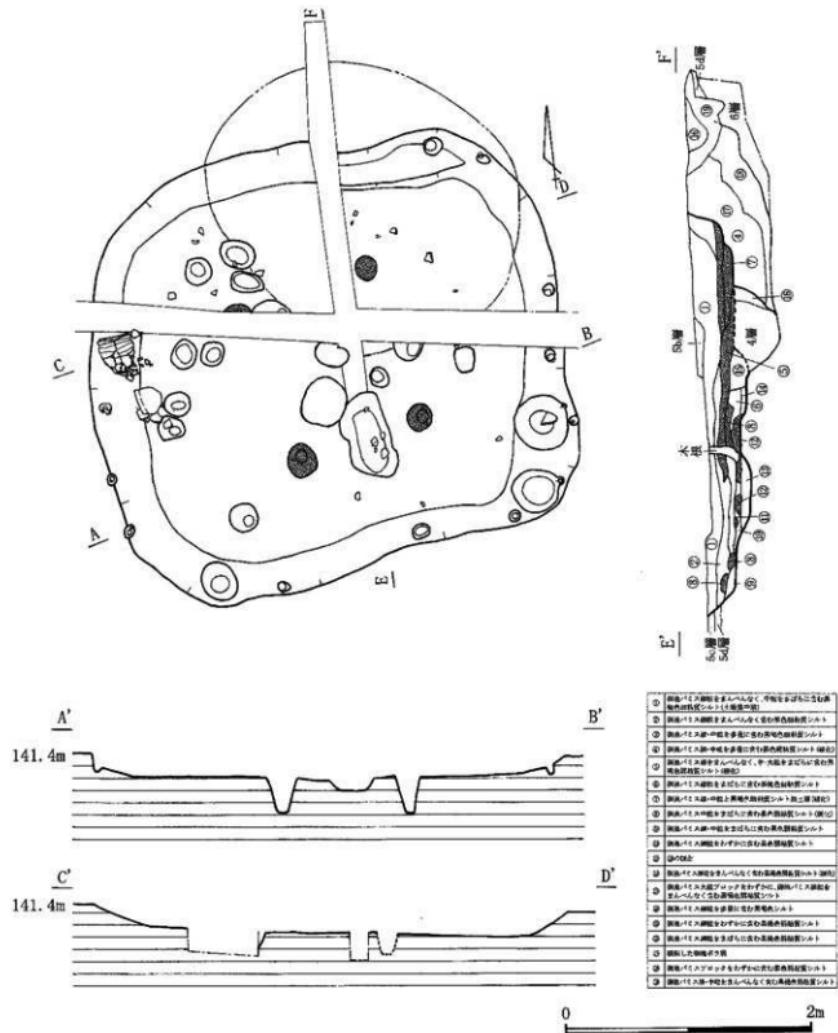
表形土器の出土割合がかなり高いと思われるが、400は口縁径が37cmほどで大型である。器形をみると、383は口縁が短く外反し、胴部は張らず充実した上げ底の底部へ繋がる。外面は縦方向の粗いハケメを施している。384,385は口縁屈曲部にカキアゲを施し屈曲を意識させている。397は口縁が「く」の字に明瞭に屈曲し胴部は球形をなす。最大径が胴中央にあり、全体にススの付着がみられる。色調も赤褐色を呈し、胎土に鉱石粒をかなり含んでいる。388,389は口縁部をカキアゲし屈曲を意識させている。405～409は浅鉢で体部がやや浅めで、口縁が大きく外反し発達している。410～412,414は短頸壺で、411はやや大型と思われる。



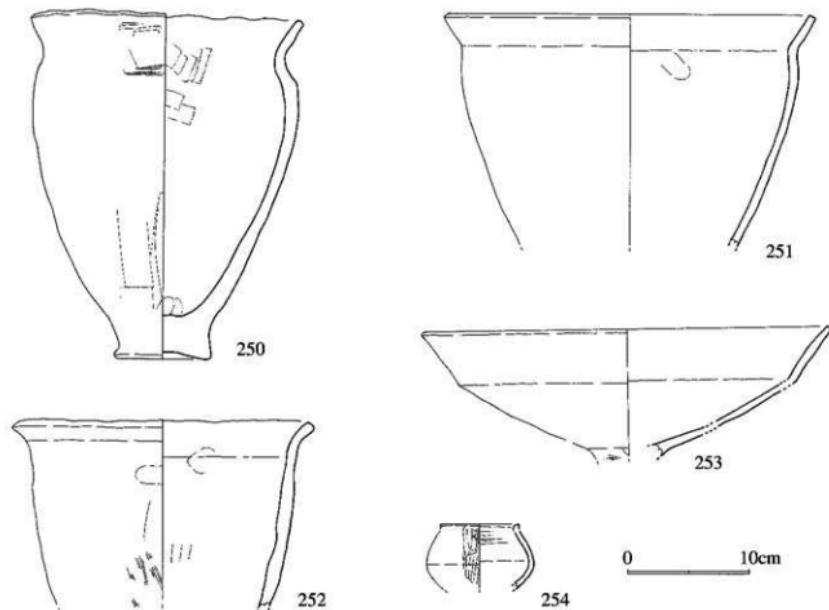
第24図 積穴住居6.7(SA06,7)・同内出土遺物

413は広口壺で、胴部最大径が中位にあり、その直上に2条の貼付突帯文を廻らす。415は複合口縁壺の口縁部で外面に粗い櫛描波状文を施している。416は器形不明で口縁に櫛描波状文をめぐらす。418は胴部最大径33cmほどの免田式の長頸壺である。421は鉢形有孔土器で、器壁はやや厚く口縁は倒L字状に屈曲すると思われる。

周溝状遺構2(ST02)はo.p-18とo.p-19に位置し、東側一部は破壊を受けている。平面形態は方形で、南北辺6.3m、東西辺6.1mである。溝幅は1.2~1.5m、検出面より最深0.5mを測る。なお、溝底は一部両端が落込んでいる範囲がある。内区に施設はない。(旧A-ST02)

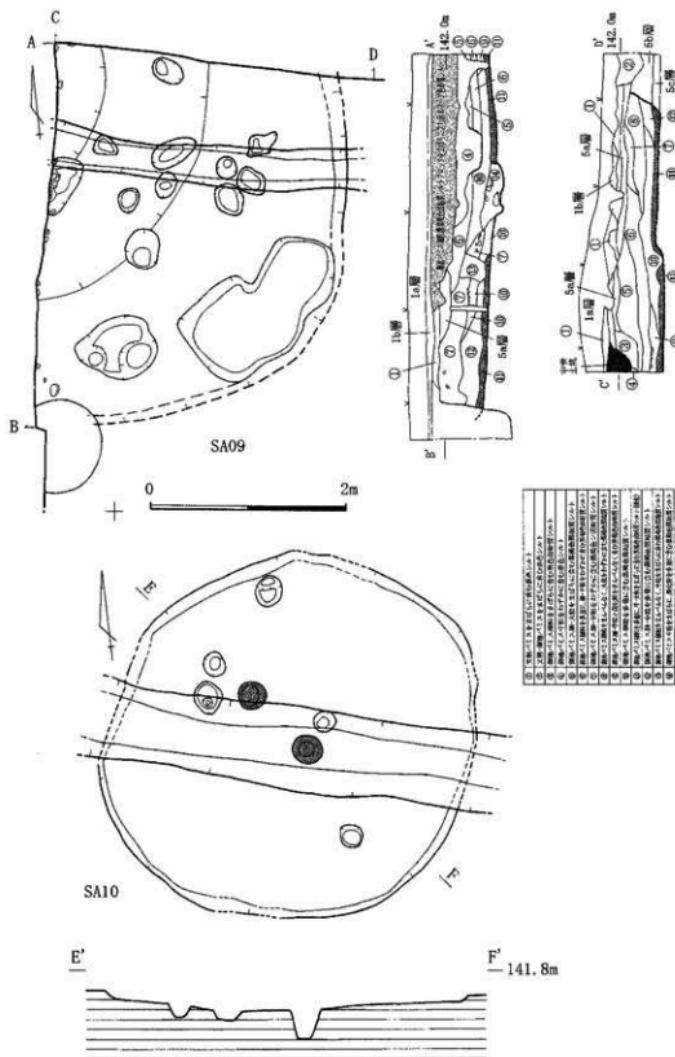


第25図 積穴住居8(SA08)

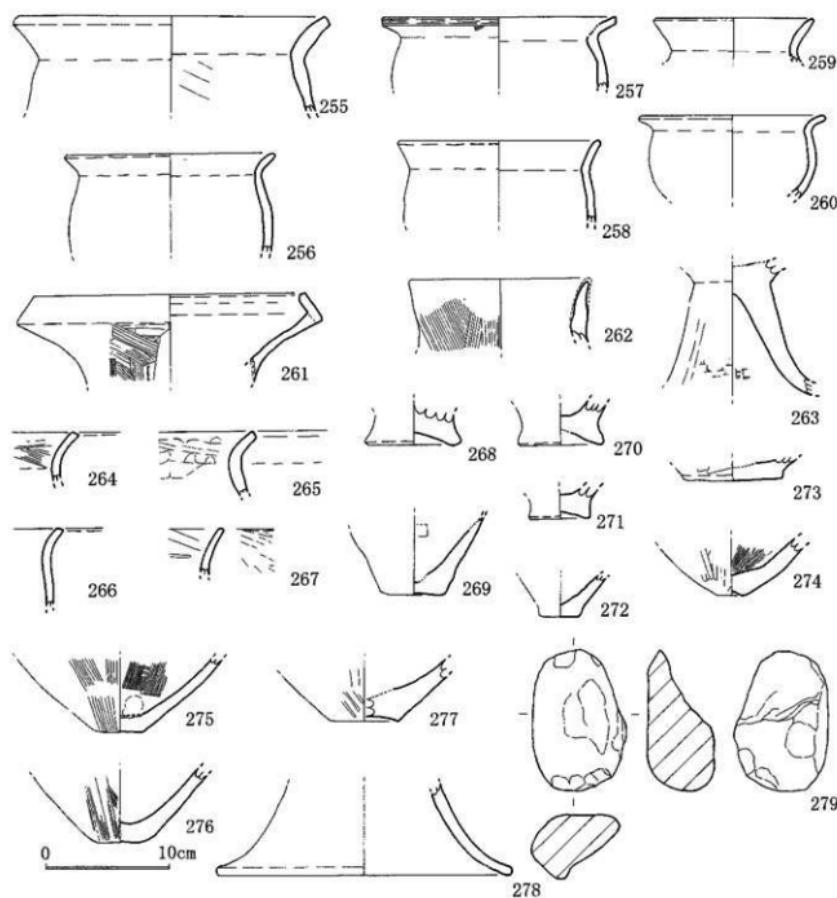


第26図 竪穴住居8(SA08)内出土遺物

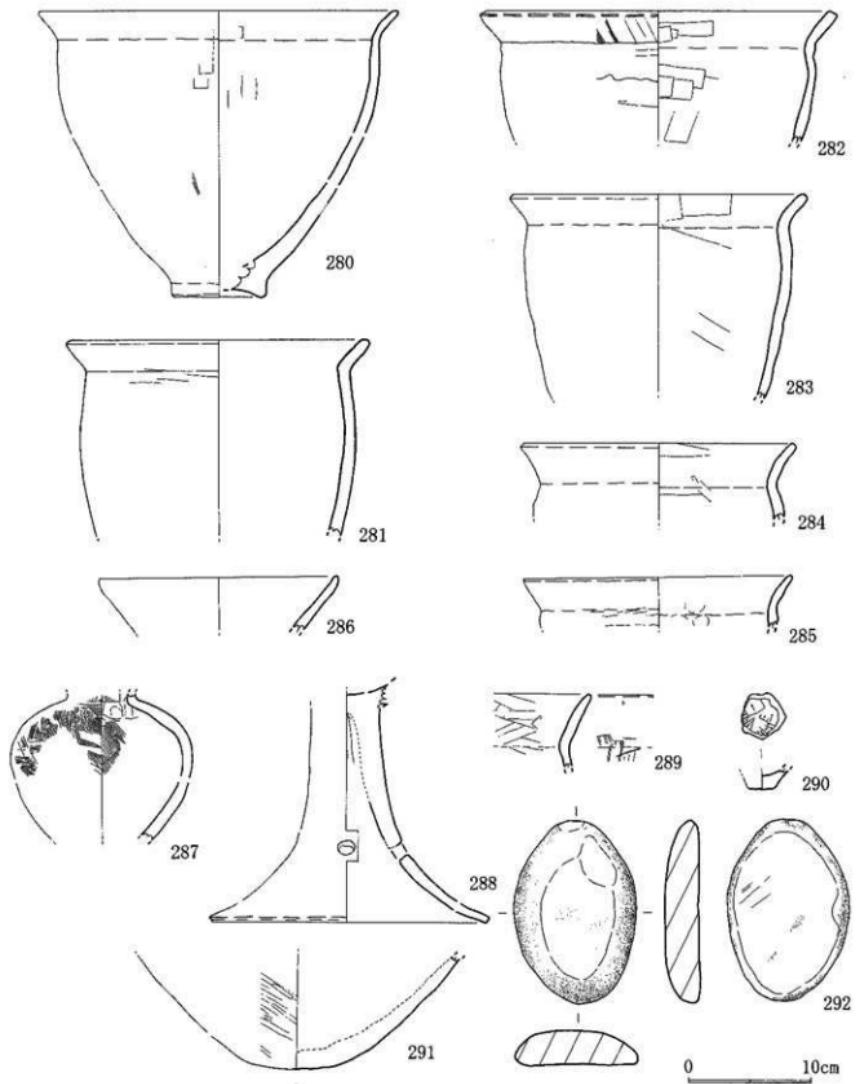
出土遺物は甕、壺、鉢、高坏、器台、軽石製品と幅広いが、甕(434～473)の出土割合が高い。器形をみると、口縁が「く」の字に折れるものの内、屈曲部に稜線をもつもの(434,436,437,440,441,443,445,446,447,449,452,454,456,457,458,459,460,463,464,465,466,468,472)、屈曲部が丸味を帯びているもの(435,438,442,444,448,450,451,455,461,467)、直口気味に立ち上がるるもの(439,453,454,462,471,473)に分けられる。プロポーションをみると、最大径が口縁部にあるもの(434,435,436,437,438,439,440,441,442,443,444,445,446,447,448,449,450,451,453,454,455,456,457,458,459,461,462,463,464,465,466)と、最大径が口縁と胴部で等しいか胴部が大きいもの(452,467,468,469,470,471,472,473)に分けられる。なお、胴部最大径が30cmを越えるものはない。483は広口壺で胴部最大径が中位である。494は倒卵形の長胴で、複合口縁外面はやや内傾している。497も同様にやや内傾気味に立ち上がり、外面に櫛描波状文を施す。496は小型の器形で端部は短く仕上げている。495は複合口縁(屈曲部)が鈍角に折れ、端部は外反してやや大きく立ち上がる。高坏(506)は坏部が浅く、口縁を屈曲させその後外反して立ち上がる。脚部はラッパ状に開き、円形の透かしを千鳥状に配置する。坏部を中心にはスの付着がみられる。542～547は器台で、鼓状をなし、柱部に数個の円径の透かしをもつ。531は底径4.2cmで内器面では1cm径の円形、外器面はやや梢円形状の穿孔のある鉢と思われる。



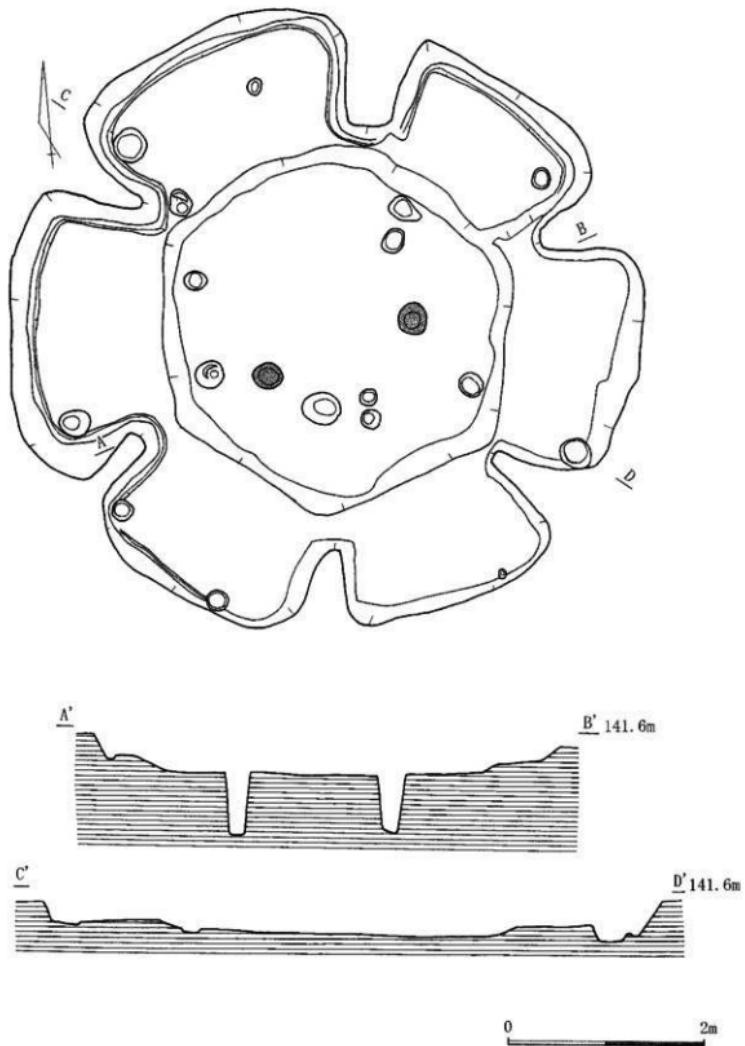
第27図 穂穴住居9,10(SA09,10)



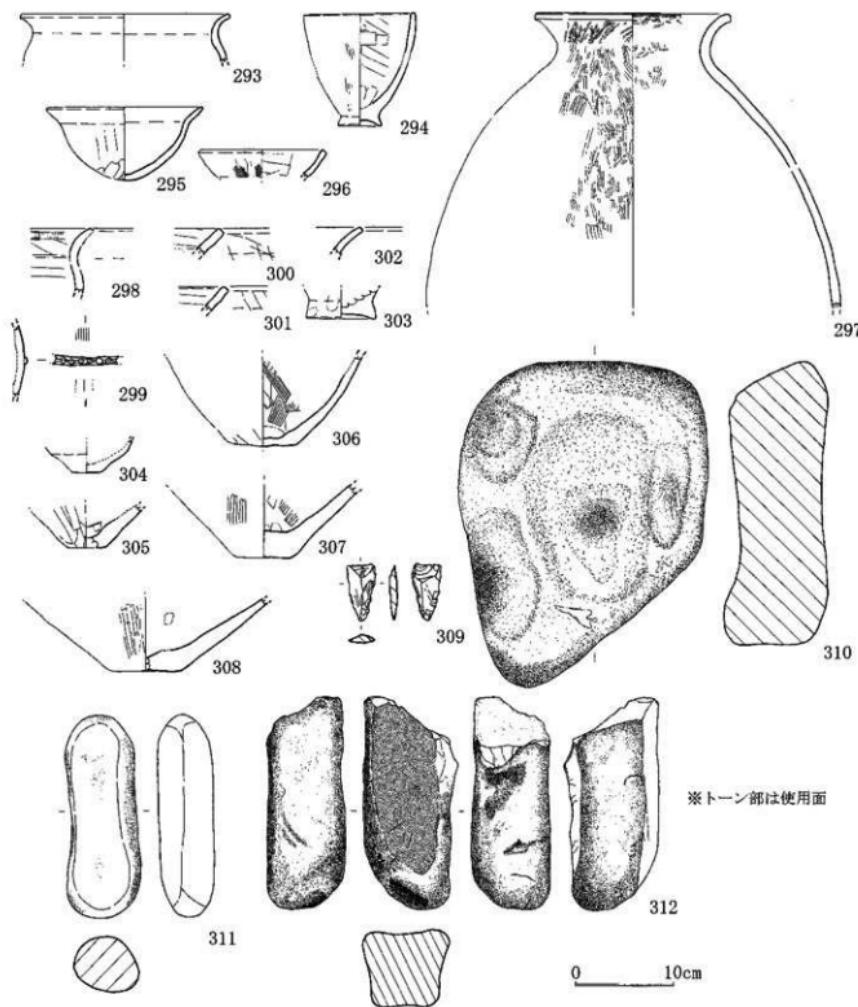
第28図 積穴住居9(SA09) 内出土遺物



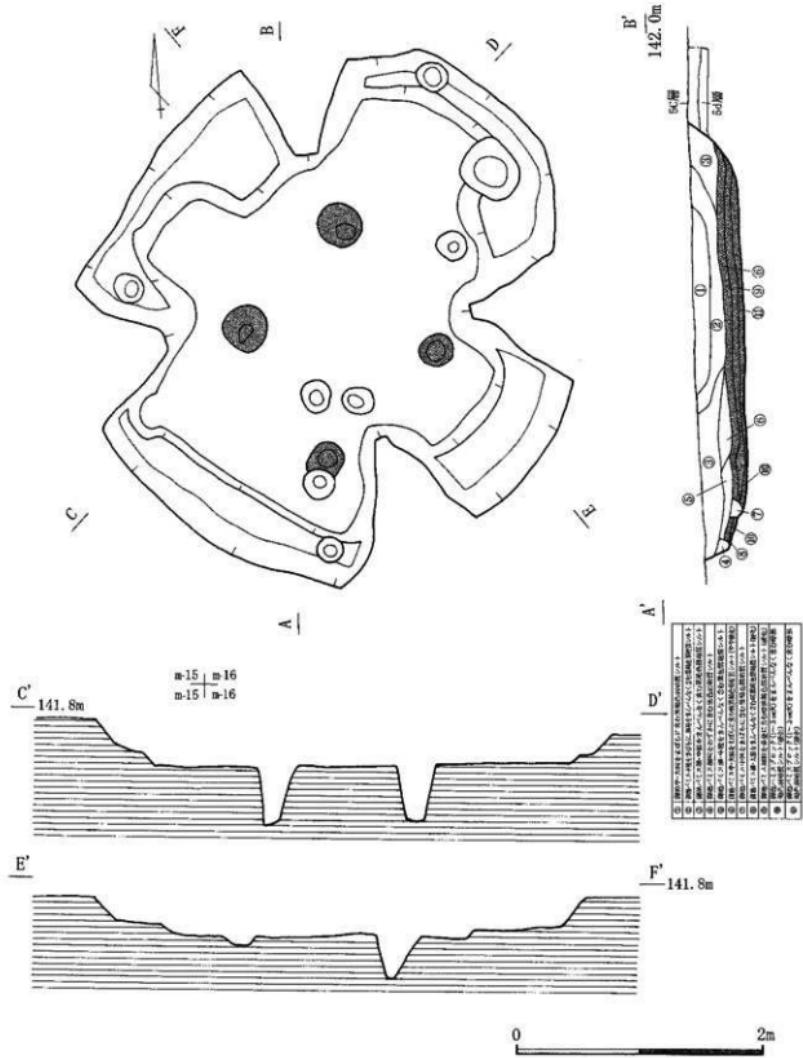
第29図 積穴住居10(SA10)内出土遺物



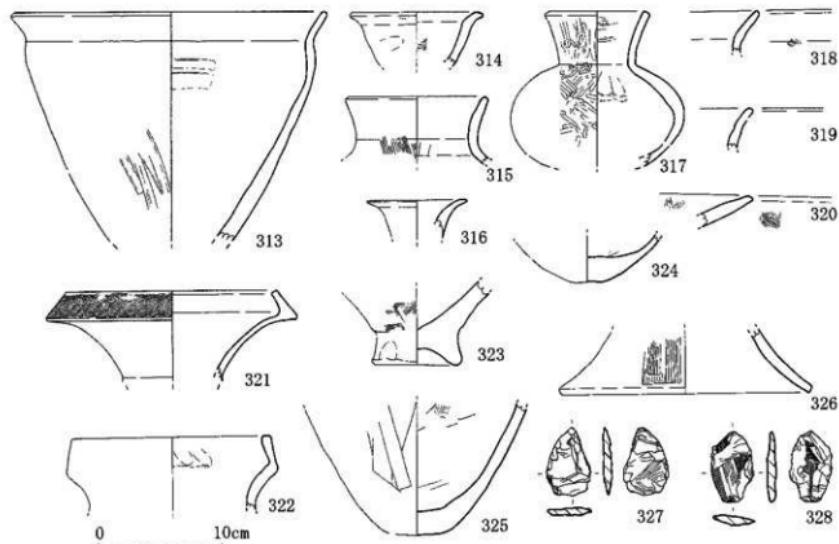
第30図 穫穴住居11(SA11)



第31図 積穴住居11(SA11)内出土遺物



第32図 積穴住居12(SA12)



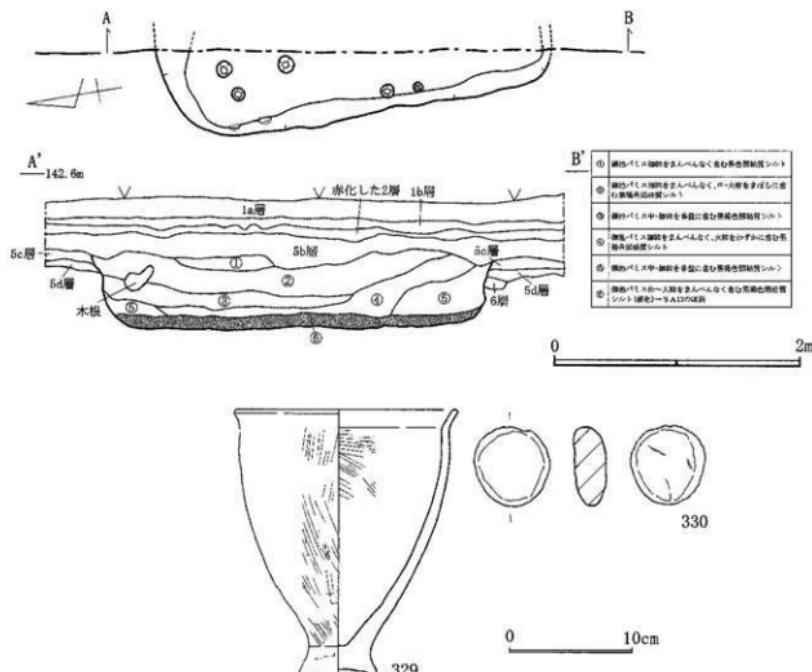
第33図 積穴住居12(SA12)内出土遺物

周溝状遺構3(ST03)はI-h-15とI-h-16にまたがる。平面形態は北東-西南辺5.4m、北西-東南辺5.1mほどを測る方形プランである。東側角が中世の土坑13(SC13)により破壊を受けている。溝幅0.8~0.9m、検出面より深さ0.3mほどで、断面形状は台形状である。内区に施設はない。なお、概要報告書の中で、調査担当は「周溝状遺構(D-ST01)の基底部付近からは大量的の土器片とともに灰状の堆積物が検出されている。今回の調査では、(旧)A地区の周溝状遺構でも炭化物の堆積が確認されており、周辺で火を用いた行為が行なわれたことはほぼ確実視できよう。…」と記載している。(旧D-ST01)

甕の特徴は腹部最大径が30cmを越え40cmに近づくもの(555)や長胴化したもの(560)などがあげられる。580は大型の鉢で口径40cmほどである。高環(587)は口径47.5cmほどの大型で、环部口縁は鋭く屈曲し外反しながら立ち上がる。脚裾部の広がりはそれほど大きくなく、脚柱部も短く寸詰まりの感がある。588は环部が割りと深く、口縁の曲がりは穏やかでそのまま外反しながら立ち上がる。586は長頸甕で肩部に4条の細沈線を横位に施し、沈線間に綫や斜めの細沈線で埋めている。

土坑8(SC08)はm-16区南側に位置する。径0.8m強、深さ0.2mほどを測る。埋土の基調は褐色弱粘質シルトである。上げ底状の甕の底部(629)が出土している。(旧D-SC02)

土坑9(SC09)はI-17区SD02北側すぐ位置する。長辺1.4m、短辺1.0mほどの方形状を呈する。深さは0.2mを越えない。埋土の基調は黒褐色弱粘質シルトである。(旧D-SC03)



第34図 積穴住居13(SA13)・同内出土遺物

中世

掘立柱建物1(SB01)はo-15で、棟方向が東西の桁行4間×梁行2間である。桁行間は1.3～1.5m、梁行間は1.4～1.6mとやや小ぶりである。柱穴径は30cmを越えるものはない。梁方向はSN線に対し西へ2°ずれている。

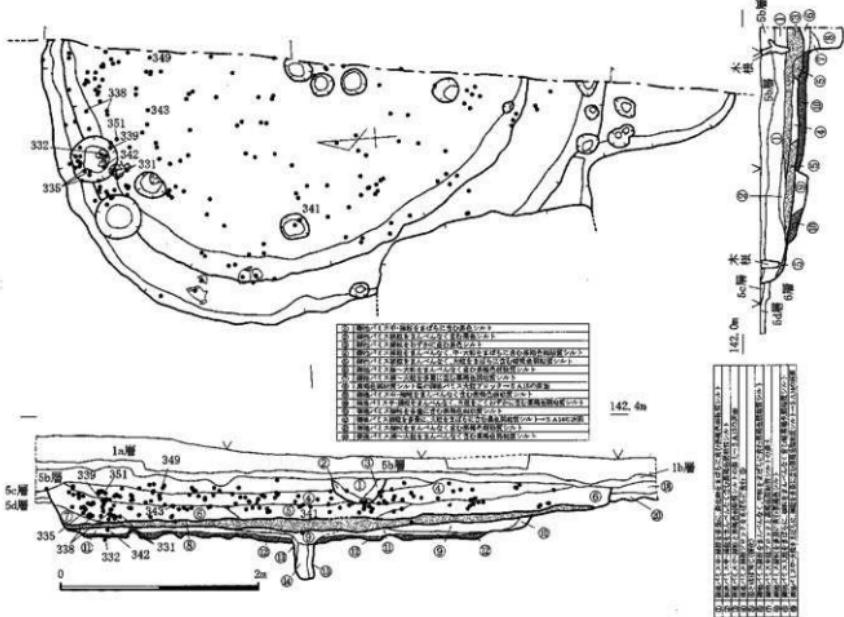
掘立柱建物2(SB02)はo,p-16東側に位置する。桁・梁行2間で北側と西側2面に庇が付く。身舎は2間×2間である。棟方向(軸線)はSN線にはほぼ一致する。

掘立柱建物3(SB03)はn-18,19で、3間×2間の総柱である。棟方向はほぼSN線に一致する。

掘立柱建物4(SB04)はSB03の東側、n-19に位置する。4間×2間である。棟方向はSN線に対し東へ12°ずれている。

掘立柱建物5(SB05)はm,n-19に位置し、SB04とSB05と一部重複する。身舎は3間×2間で北面に庇をもつ。棟方向はSN線に対し2°東へずれている。

掘立柱建物6(SB06)はSB04、SB05とSB07と一部重複する。身舎は4間×2間で北面に庇をもつ。梁方向がSN線に対し7.5°東へずれている。



第35図 積穴住居 14(SA14)・15(SA15)

掘立柱建物7(SB07)はSB04とSB06と一部重複する。SB05と共に存していると思われる。2間×2間である。

掘立柱建物8(SB08)はm-17に位置する。2間×1間である。長辺方向はSN線より5°東へずれている。

豊穴状遺構1(SX01)はp-12,13に位置し、一部西側調査区外へ延びている。東西辺が長い方形の豊穴状遺構と思われる。南北(短)辺2.4~2.6m、東西(長)辺(2.8+ α)m、深さは検出面より0.7mほどを測る。

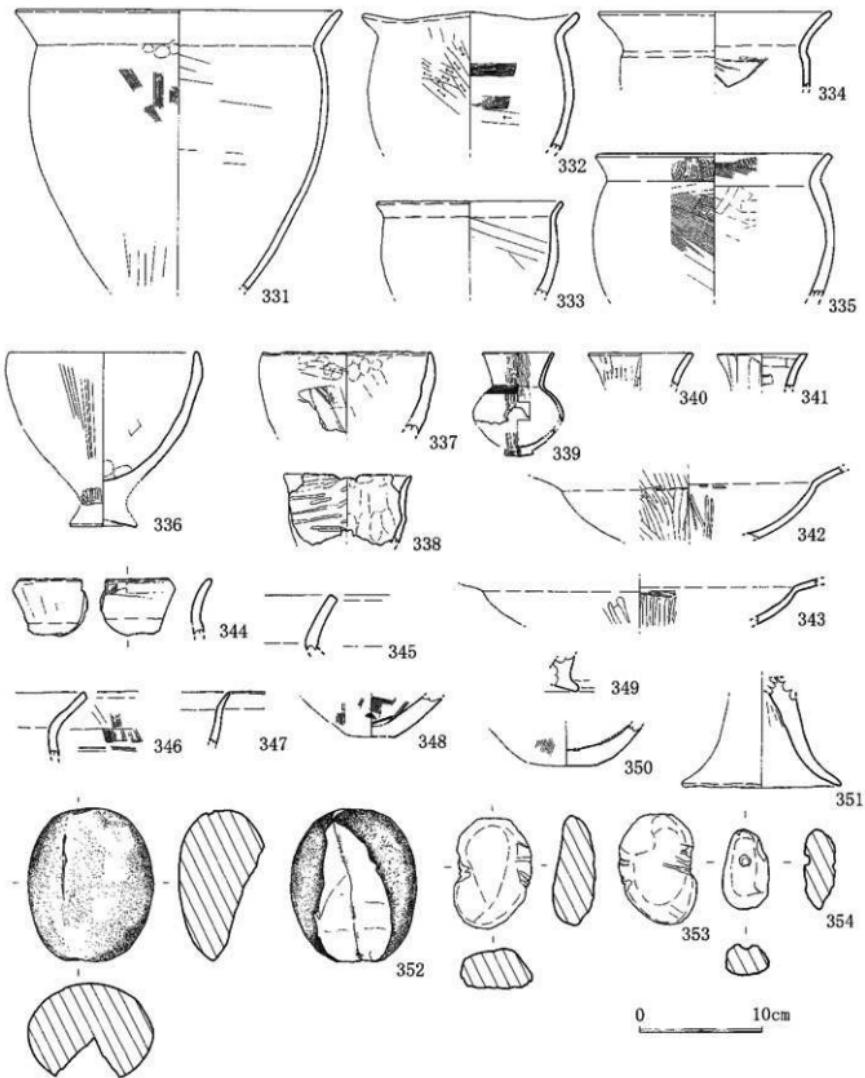
土坑10(SC10)はSA02の東側側壁を一部破壊している。平面は東西方向1.45m、南北0.6m、深さ0.7mほどの方形である。埋土は黒色弱粘質シルトが基調である。(旧A-SC01)

土坑11(SC11)はSB03の略南に位置している。プランは長辺2.9m、短辺0.8m、深さ0.15mほどである。埋土は黒褐色弱粘質シルトである。(旧A-SC09)

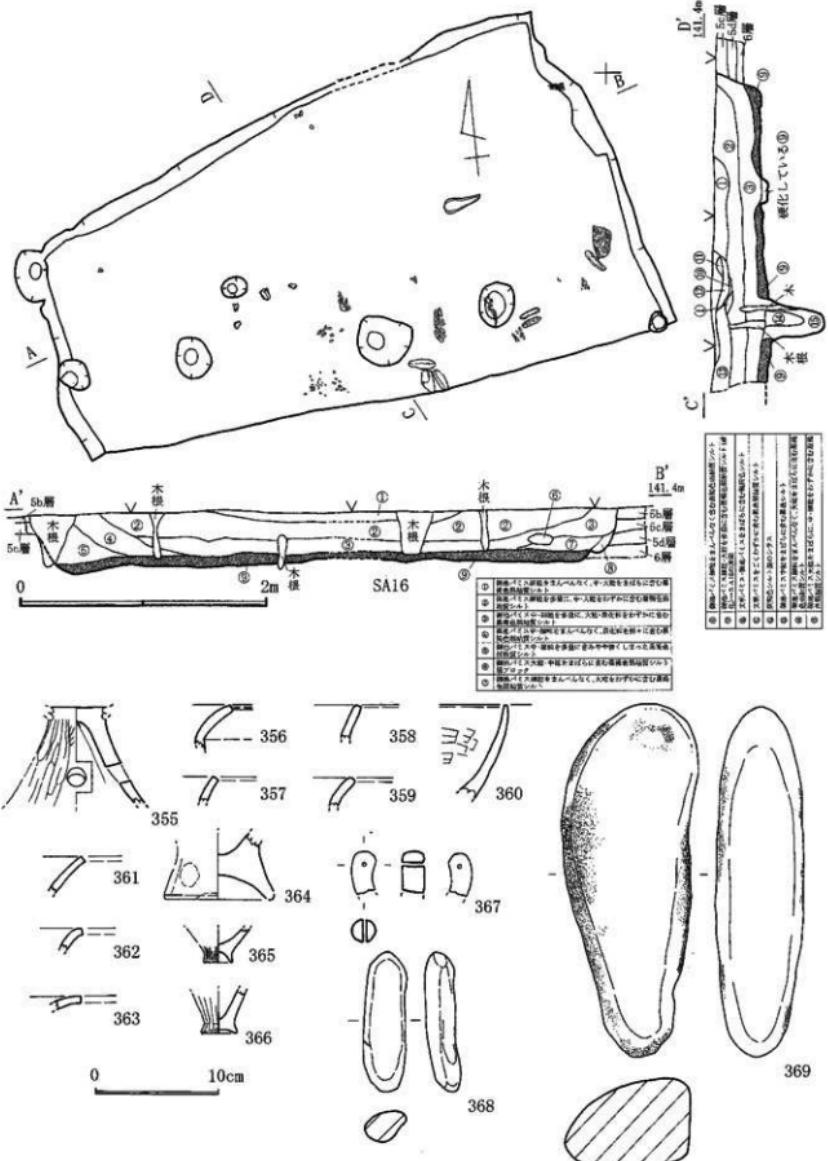
土坑12(SC12)はSA09に接している。プランは0.9m強、深さ0.75mの円形だが一部調査区域外である。(旧D-SC01)

土坑13(SC13)はST03東側コーナーを破壊している。長辺(略東西方向)1.9m強、短辺1.75m、深さ0.3~0.4mほどの方形を呈している。埋土の基調は黒色弱粘質シルト層(第4層)と黒褐色弱粘質シルト層(第5層)が混在する。(旧D-SC09)

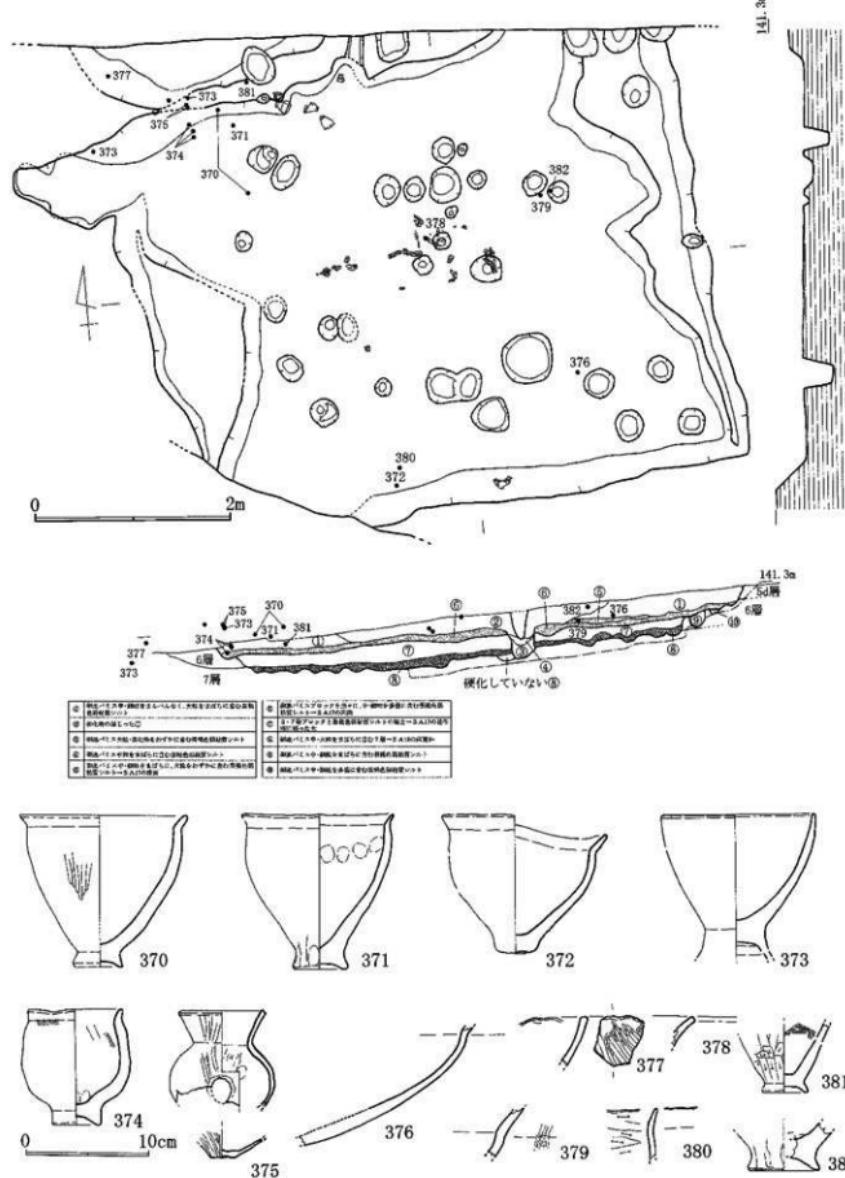
土坑14(SC14)はSX01内にある。径0.7mの円形で、深さは0.75mほどを測りやや深い。埋



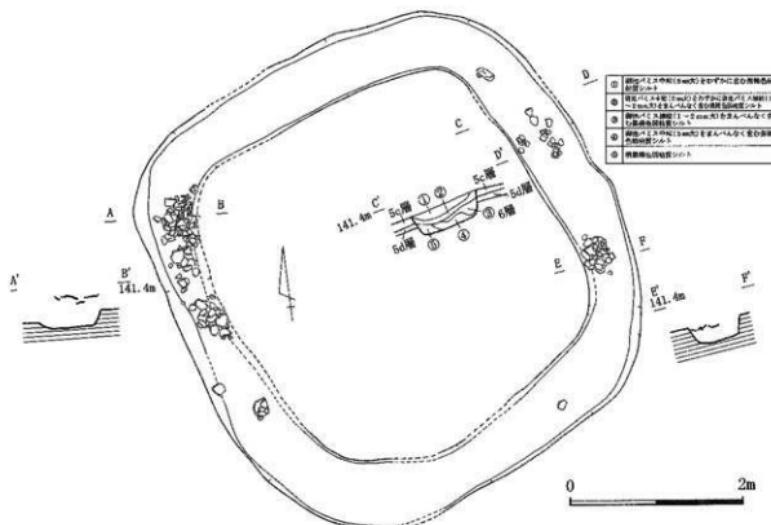
第36図 積穴住居 14,15(SA14,15) 内出土遺物



第37図 竪穴住居16(SA16)・同内出土遺物



第38図 竪穴住居 17,18(SA17,18)・同内出土遺物



第39図 周溝状遺構1(ST01)

土の基調は黒褐色弱粘質シルトである。(旧C-SC01)

土坑15(SC15)はp-12区、SA16の西側に位置する。遺構の一部は南壁調査区外に延びている。方形の土坑と思われるが、深さ0.1mほどと浅く、規模は不明である。(旧C-SC02)

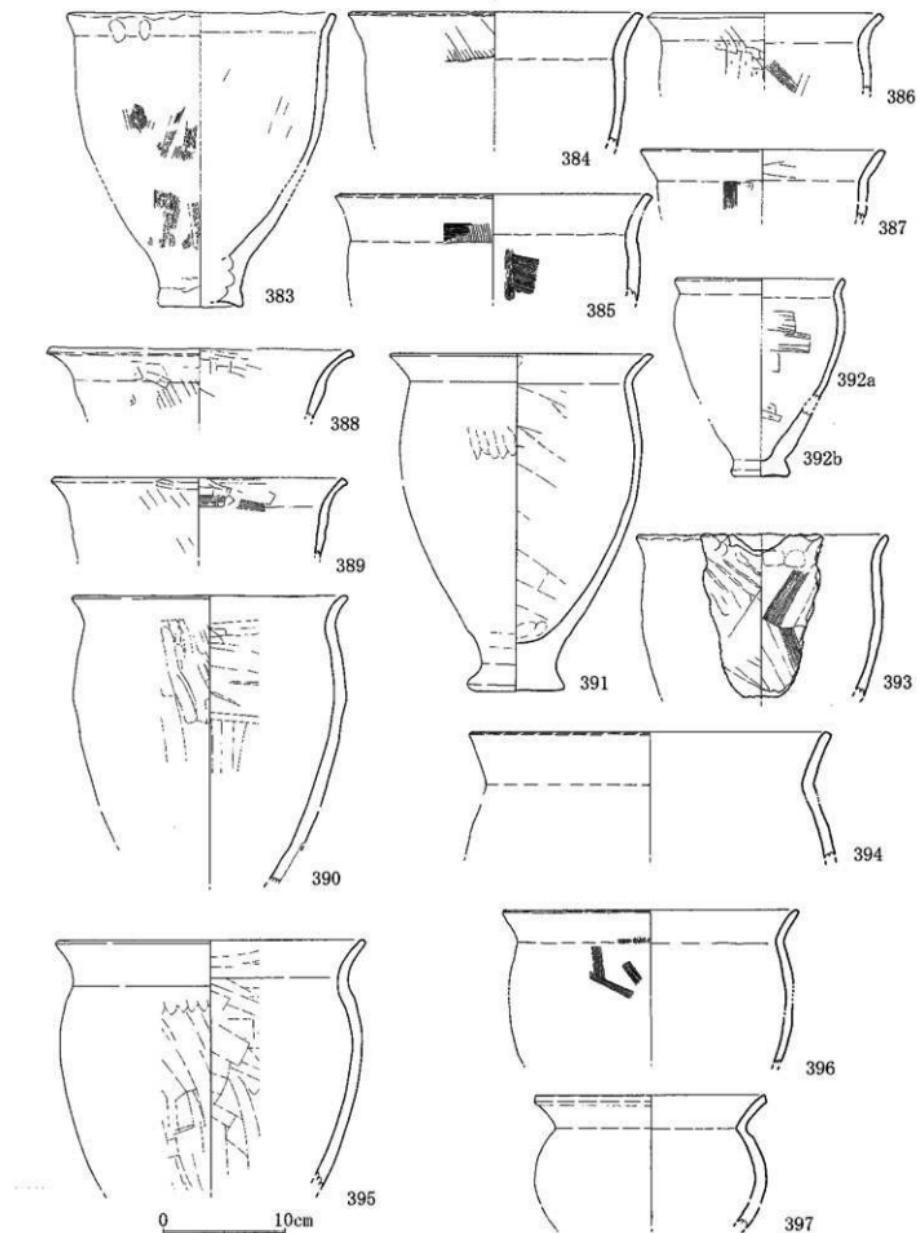
土坑16(SC16)はp-11、SD05の東側に位置する。SC02同様遺構の一部しか検出していない。深さ0.1mほどと浅く、プランは不明である。(旧C-SC03)

土坑17(SC17)はp-11、SD05の西側に位置する。略南北方向(長辺)1.0m、東西方向(短辺)0.6mほどの方形土坑で、北側で深さ0.35mのピットを伴う。検出面より深さ0.15mほどである。(旧C-SC04)

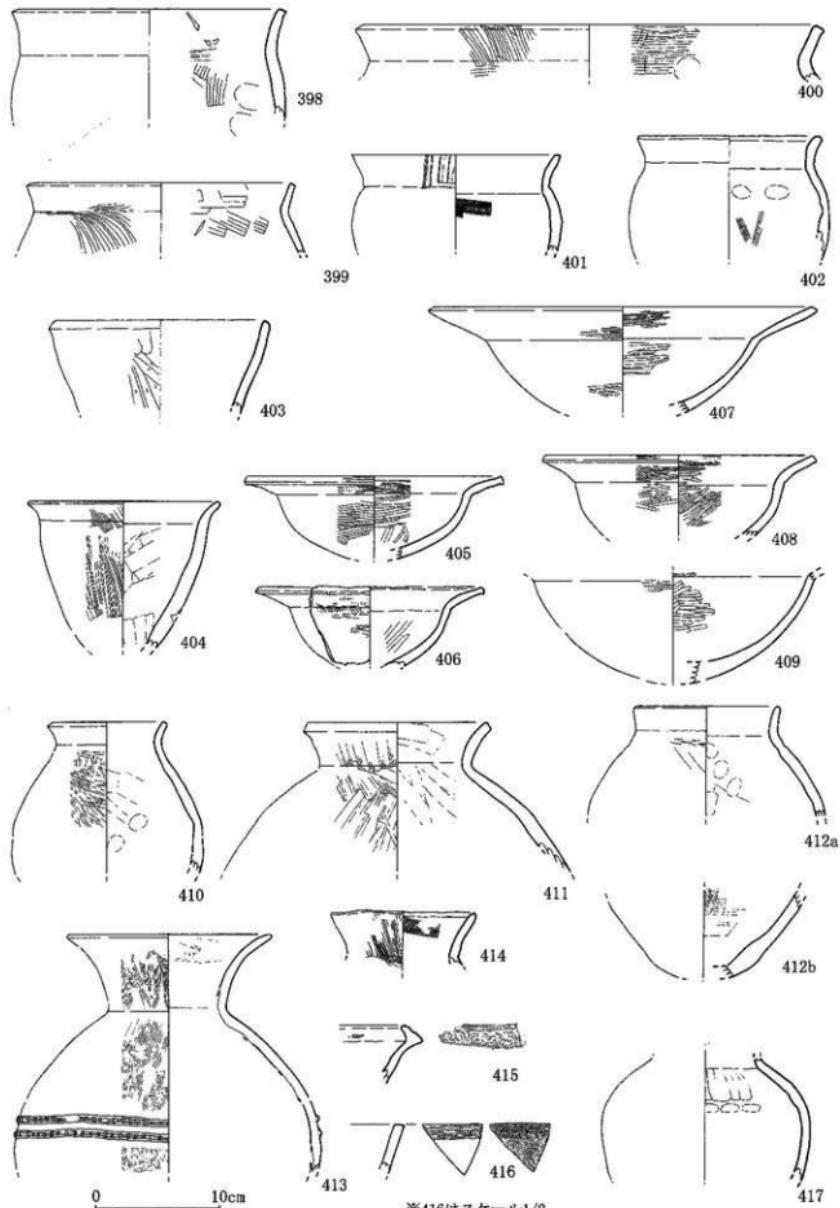
土坑18(SC18)はp-11、SA17、18内に位置する。東西方向が長辺の方形ないし楕円形状で西側にピットを伴う。1.7m×0.7m(推定)で、深さ0.15m前後、ピットの深さは床面より0.5mほどを測る。(旧C-SC05)

土坑19(SC19)はp-13、SD04の南に位置する。1.3×0.8m、深さ0.2mほどの楕円形状で、断面形状は浅いすり鉢状をなし、南側にピットを伴う。(旧C-SC06)

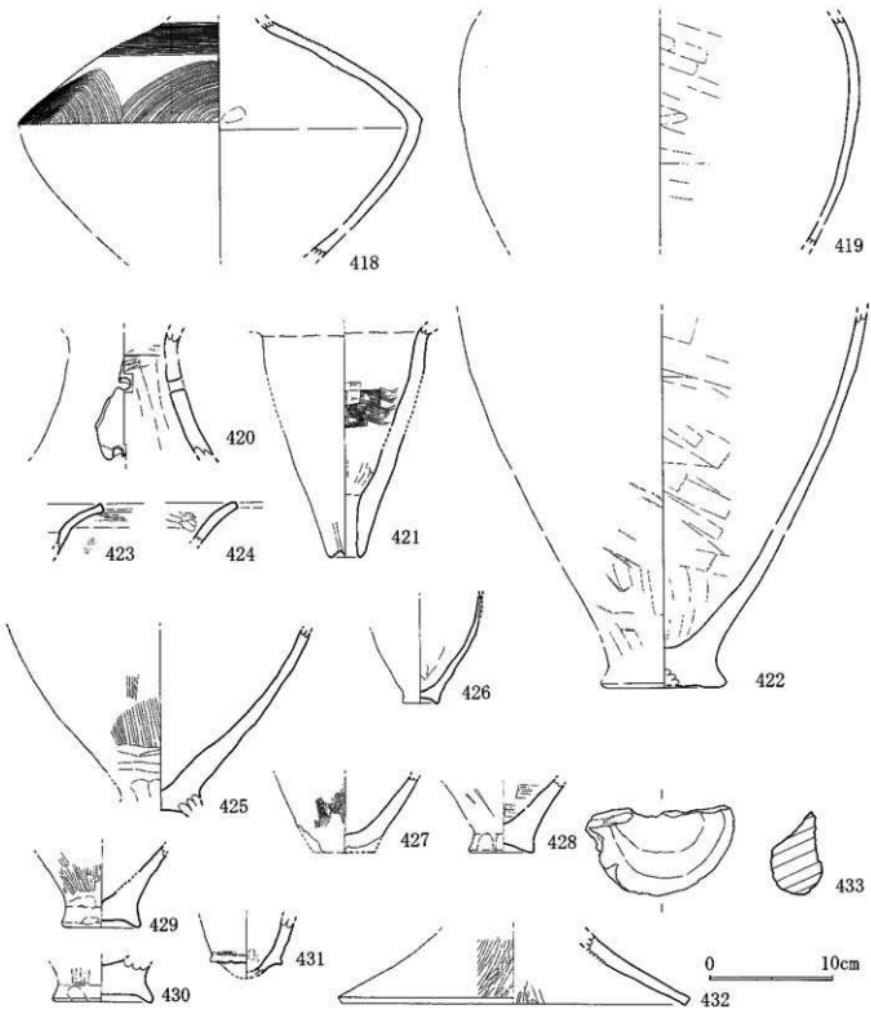
溝1(ST01)は20.21区の境界を南北に走行する。溝幅1.8m前後、検出面より深さ0.5mほ



第40図 周溝状遺構1(STO1) 内出土遺物(1)



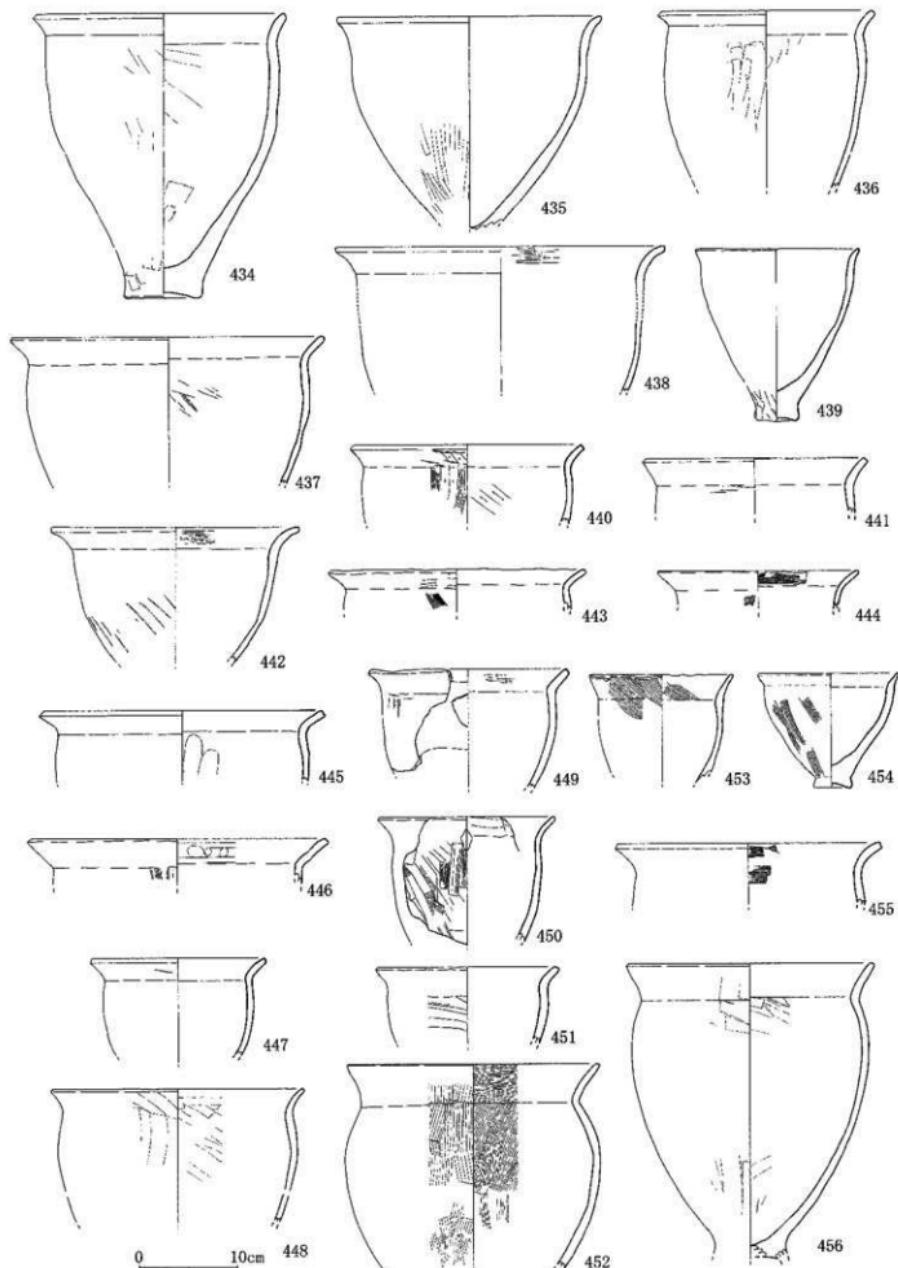
第41図 周溝状遺構1(STO1)内出土遺物(2)



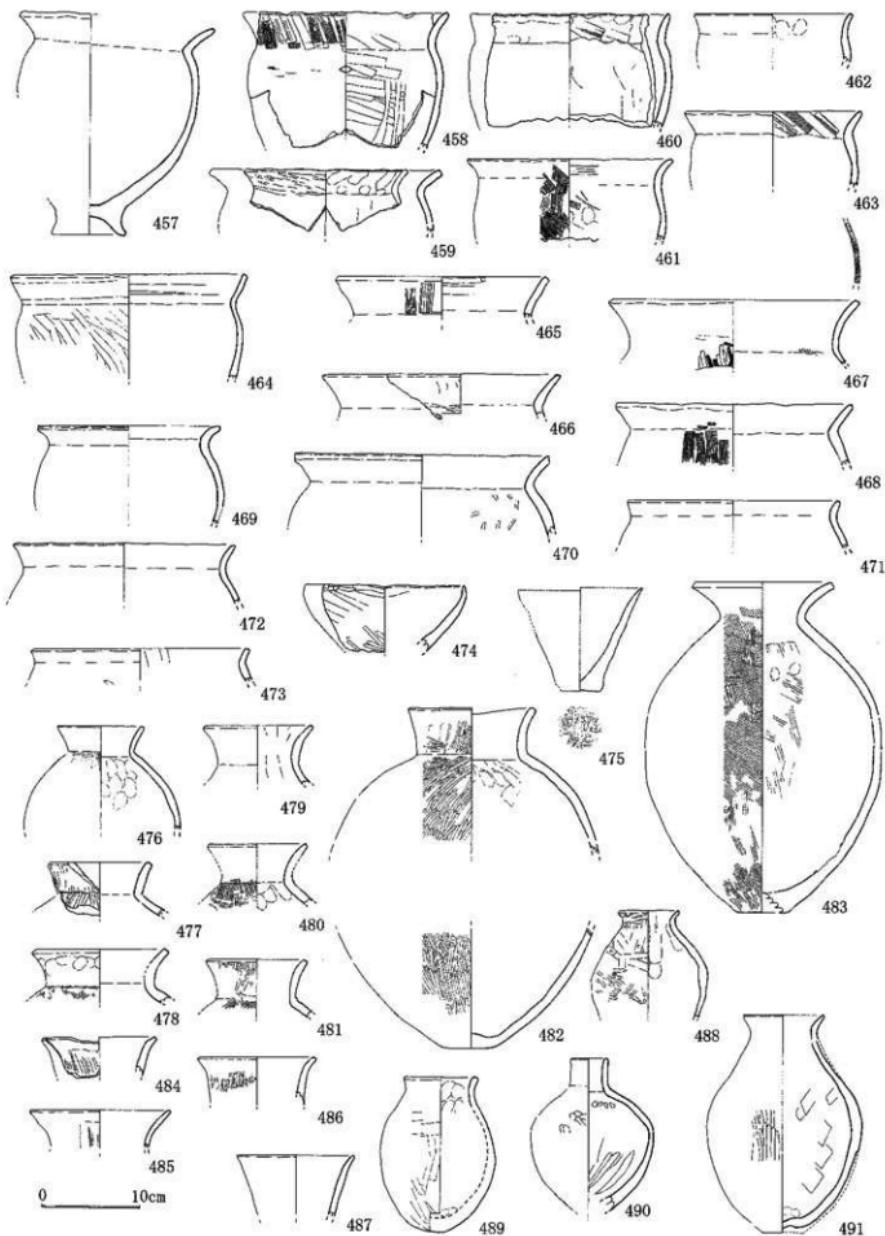
第42図 周溝状遺構1(STO1)内出土遺物(3)



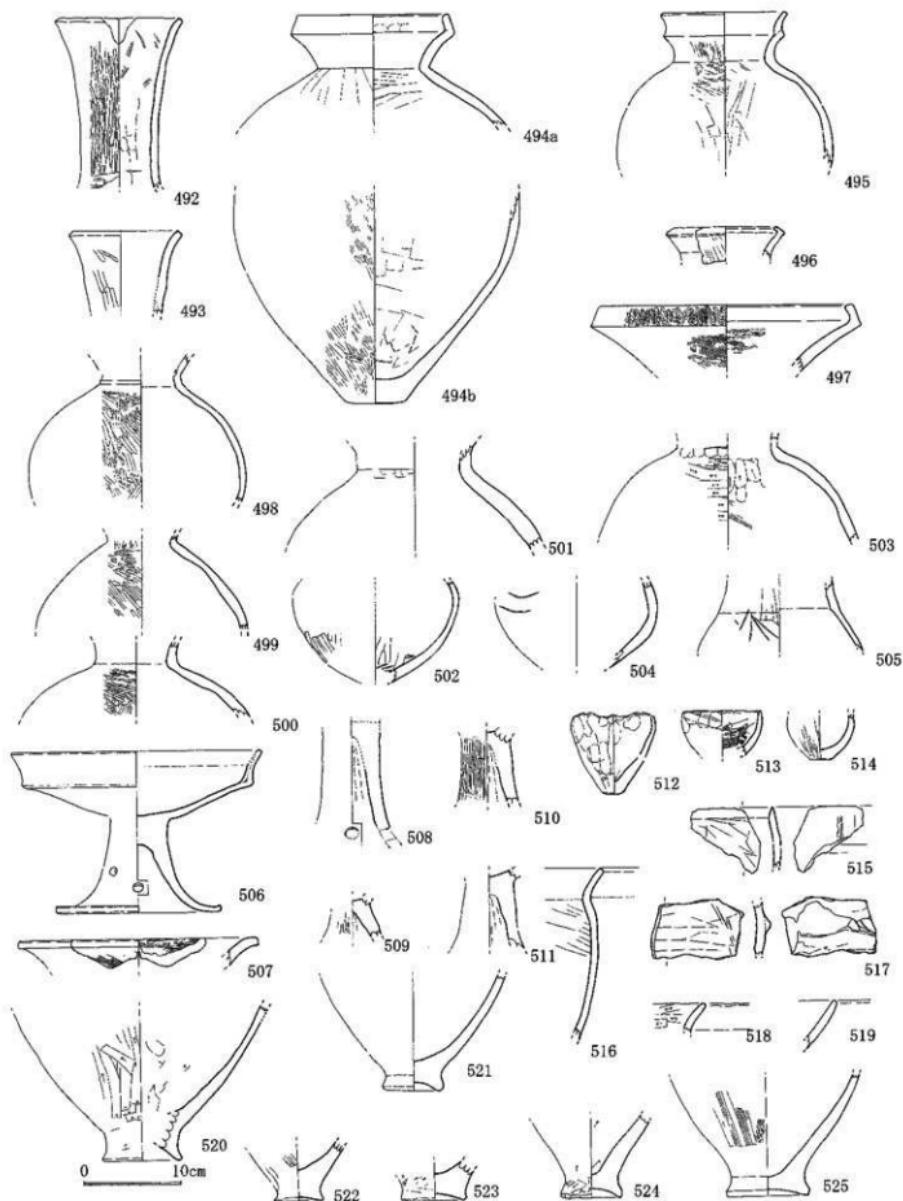
第43図 周溝状遺構2(ST02)



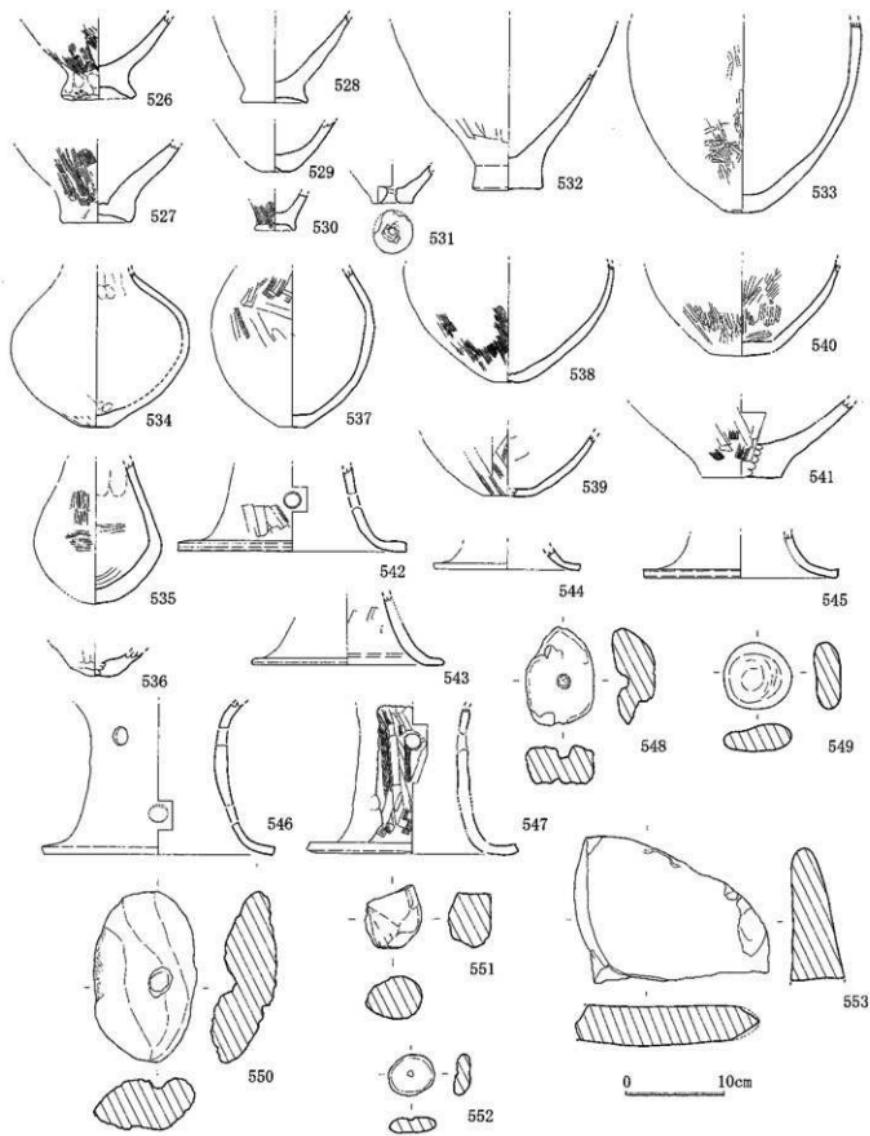
第 44 図 周溝状遺構 2(ST02) 内出土遺物 (1)



第45図 周溝状遺構2(ST02)内出土遺物(2)



第46図 周溝状遺構2(STO2) 内出土遺物(3)



第47図 周溝状遺構 2(ST02) 内出土遺物(4)

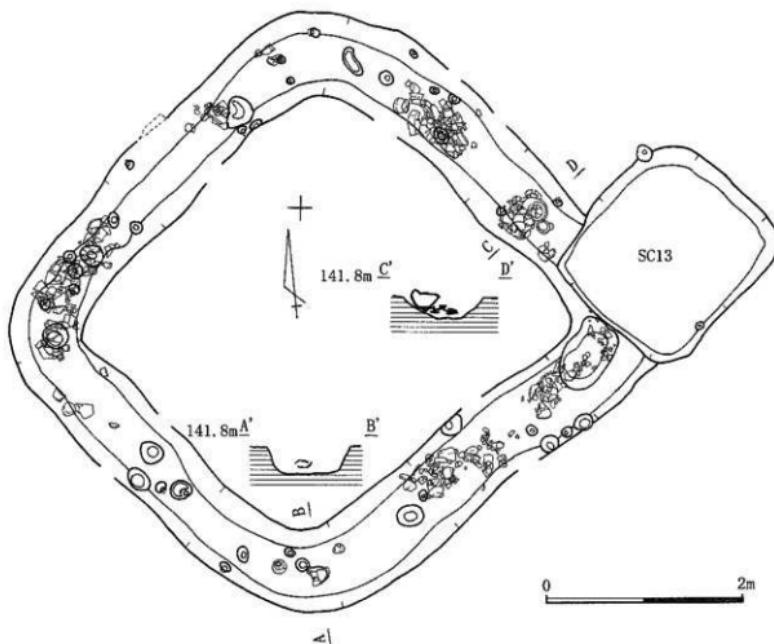
どを測る。溝の埋土は下位が黒褐色土、上位が灰褐色砂質土を基調とする。調査区域北壁断面断割りによる埋土観察では東側で溝1より古手の溝が確認されている。(旧 A-SD01,D-SD01)

溝2(SD02)は旧D地区北側を略東西方向に一直線に走行する。溝は東端付近で溝の切り合いがみられる。溝幅は0.5弱~1.3m、深さ(検出面より)0.2~0.4mである。今房遺跡第2次調査の4号溝(SD04)に接続するものと思われる。(旧 D-SD01)

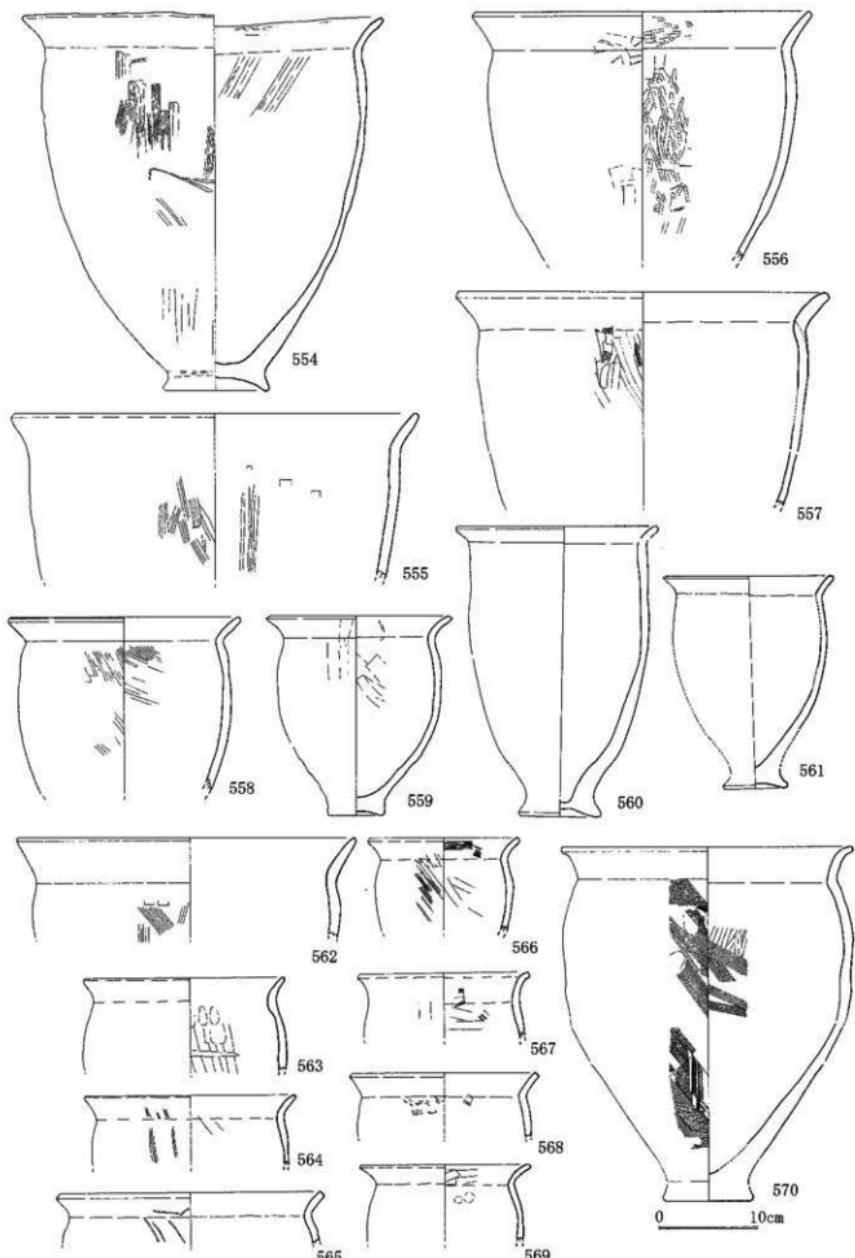
溝3(SD03)はp-13区、SA14, SA15を切る形で東西方向に走行している。溝幅0.5~0.2m、深さ(検出面より)0.2~0.25mを測る。埋土は黒色粘質シルトである。(旧 C-SD01)

溝4(SD04)はSD03同様p-13区南半に位置し、東西方向に走行する。溝幅0.75~0.5m、深さ(検出面より)0.2m前後を測る。埋土は黒褐色弱粘質シルトである。(旧 C-SD02)

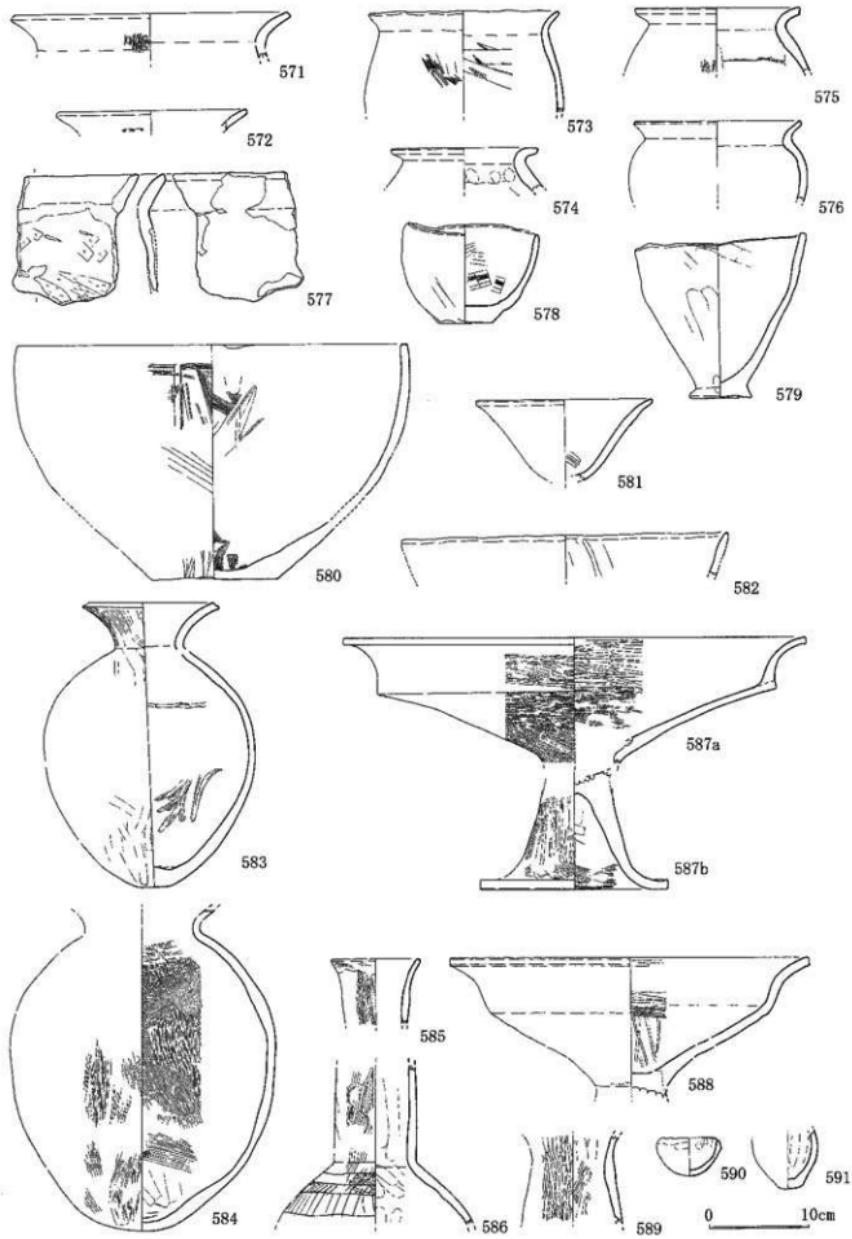
溝5(SD05)はo.p-11を南北方向にややアールをもって走行する。溝幅1.5~1.2m、深さ(検出面より)0.65~0.4mを測る。埋土の基調は黒褐色弱粘質シルトで7、14層(一部13層)が



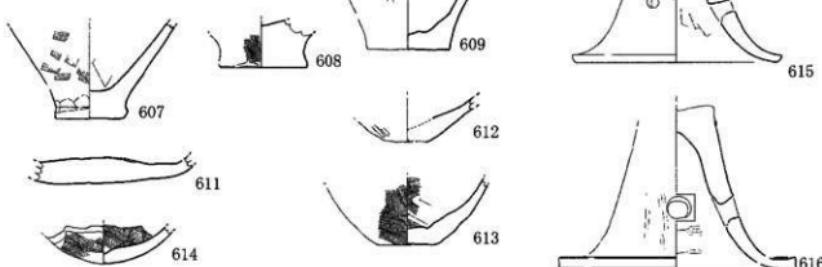
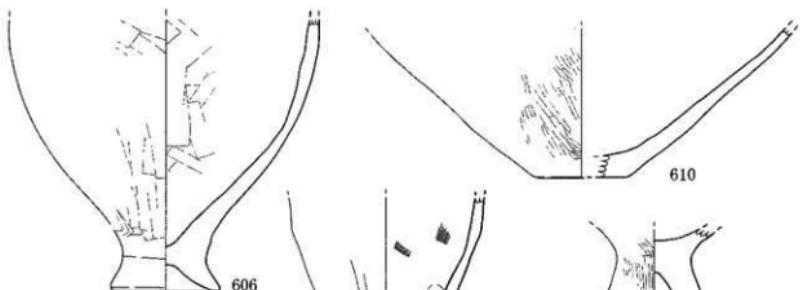
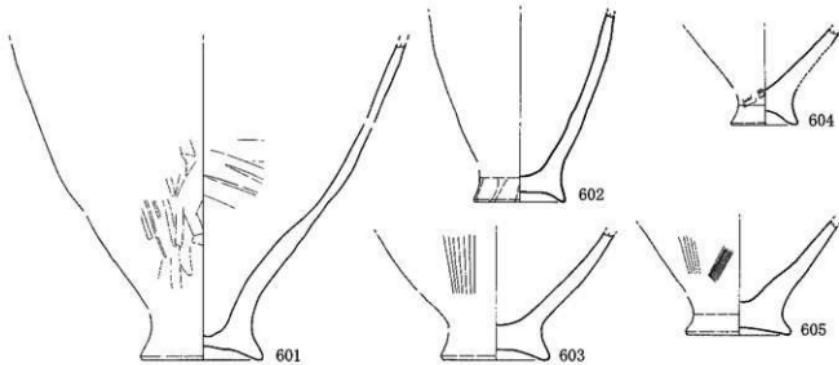
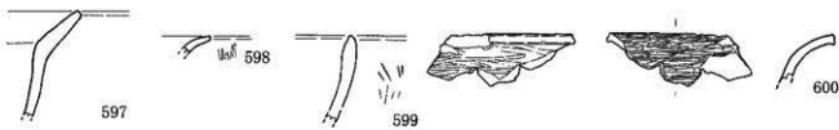
第48図 周溝状遺構 3(ST03)



第49図 周溝状遺構3(ST03)内出土遺物(1)

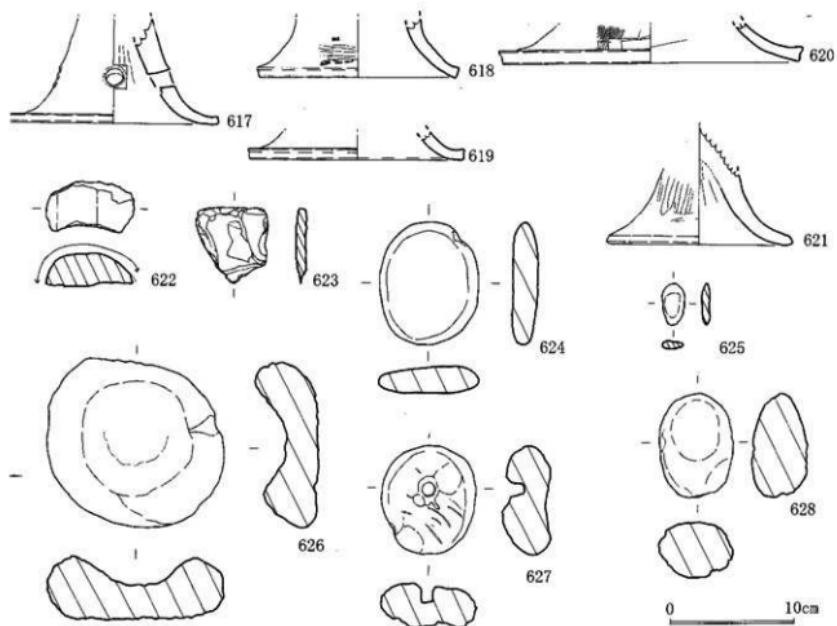


第 50 図 周溝状遺構 3(STO3) 内出土遺物 (2)

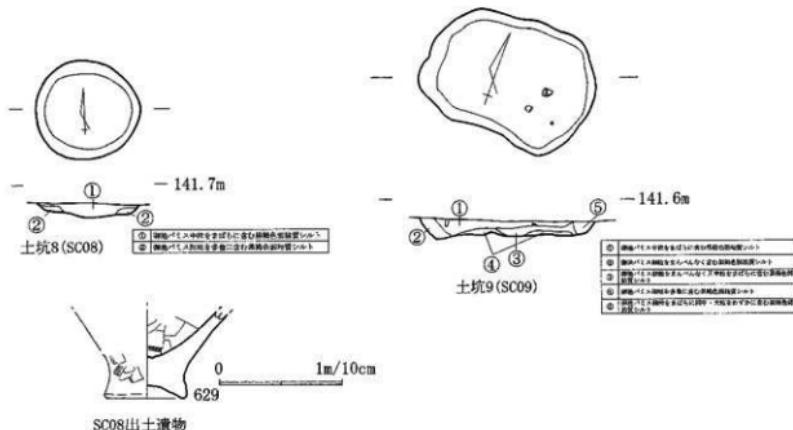


0 10cm

第51図 周溝状遺構3(ST03)内出土遺物(3)



第52図 周溝状遺構3(ST03)内出土遺物(4)



第 53 図 弥生時代の土坑

硬化している。また、東側で SD05 より古い溝 (SD05-b) を検出している。埋土は黒褐色弱粘質シルトである。(旧 C-SD03)

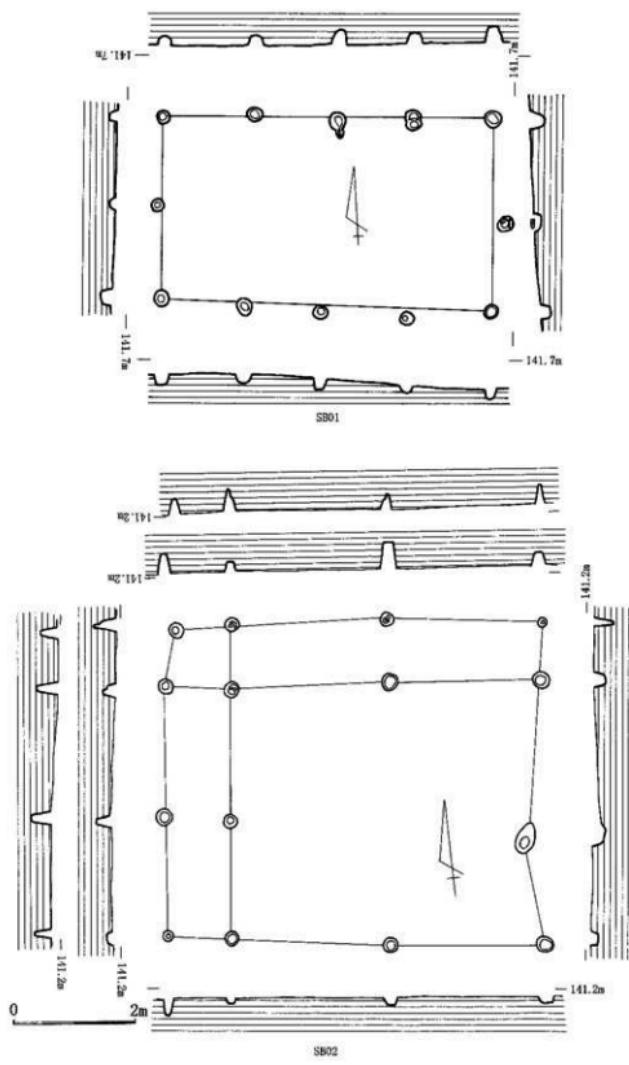
溝 6 (SD06) は o-13, SA16 の北東に位置する。全長が 1 m 前後、幅 0.2 m 強、深さ 0.15 m ほどを測る。細長い土坑とも思われるが溝(状遺構)とした。(旧 C-SD06)

溝 7 (SD07) は o-10 調査区西端を走行し、SD08 に切られている。溝幅 0.5 m 前後、深さ 0.4 m ほどを測る。埋土は黒褐色弱粘質シルトが基調である。(旧 C-SD04)

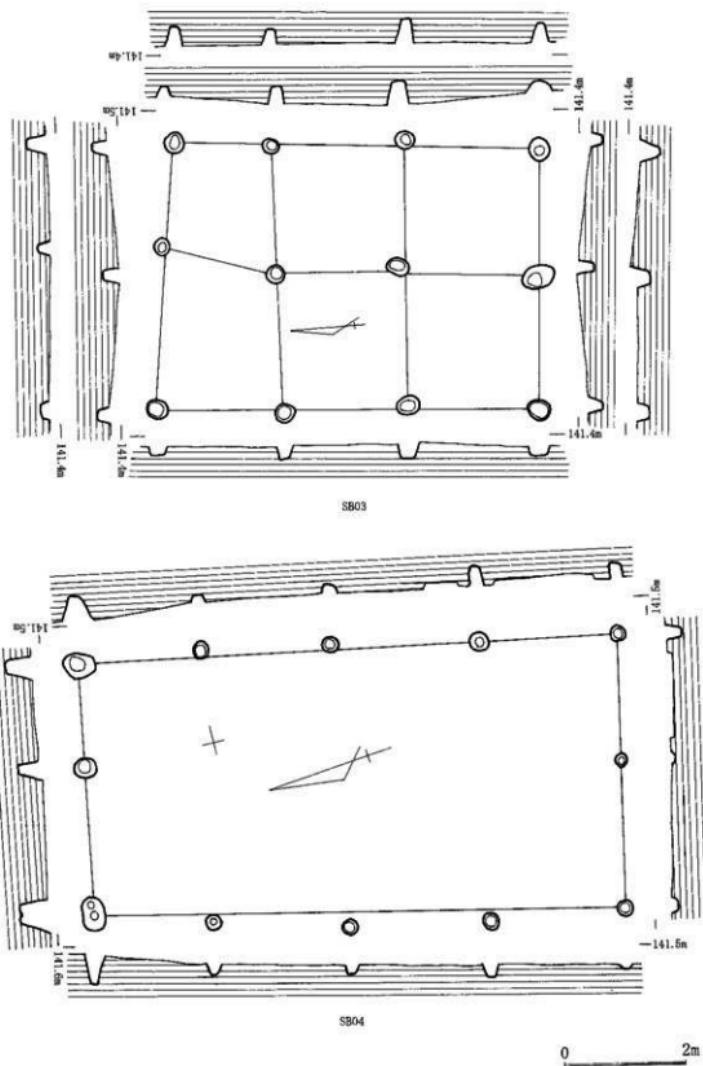
溝 8 (SD08) は o-10 調査区西端を走行する。溝幅は南壁で 0.5 m 前後、深さ 0.2 m 以上を測る。埋土の基調は黒褐色弱粘質シルトである。(旧 C-SD05)

包含層出土遺物

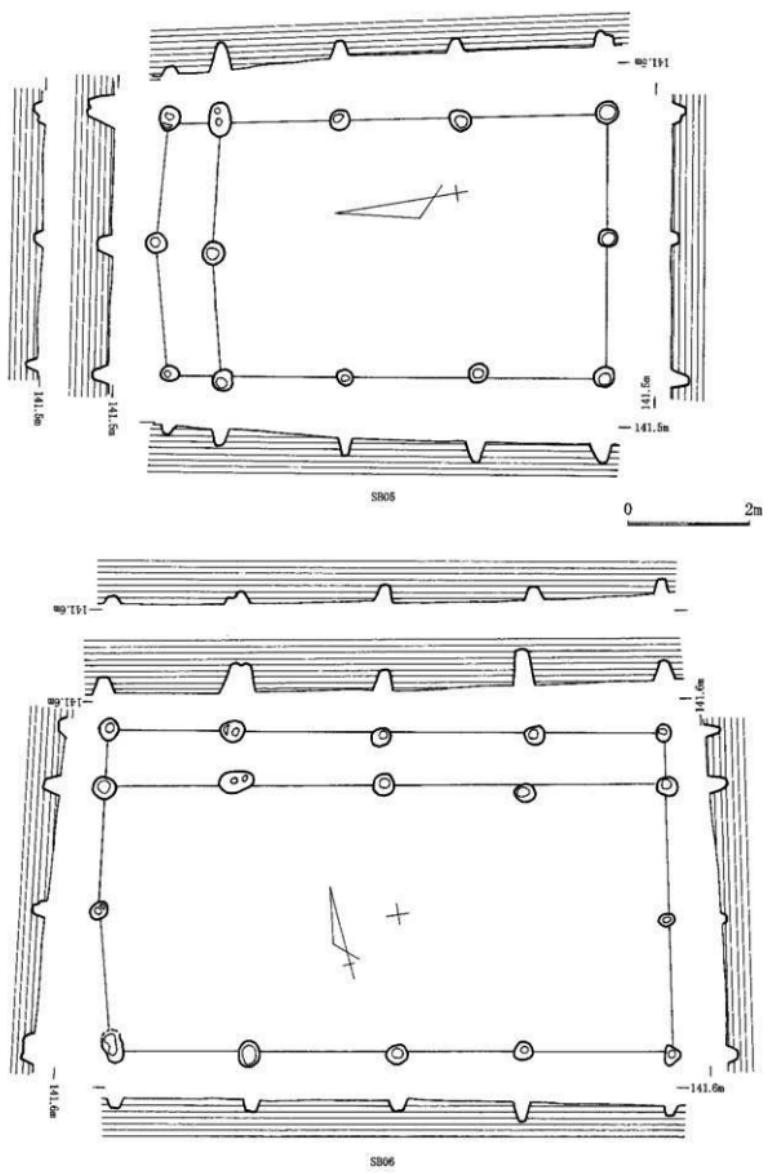
653 は高环の环部で口縁は鋭く屈曲し外反しながら立ち上がる。654,655 は器台で大きく開く环(受)部に細い柱部がともなうと思われる。662 は口縁下に 1 条の貼付突帯を廻らす。665,666 は複合口縁壺の口縁外面で粗細い波状文を施す。古代の遺物は須恵器瓶 (682)、土師器碗 (678)、中世の遺物は鎌蓮弁文の青磁碗 (679,680) や白磁皿 (681) である。



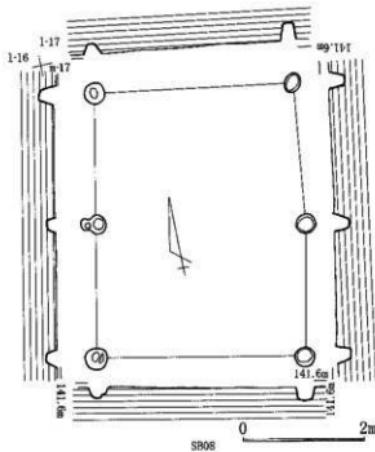
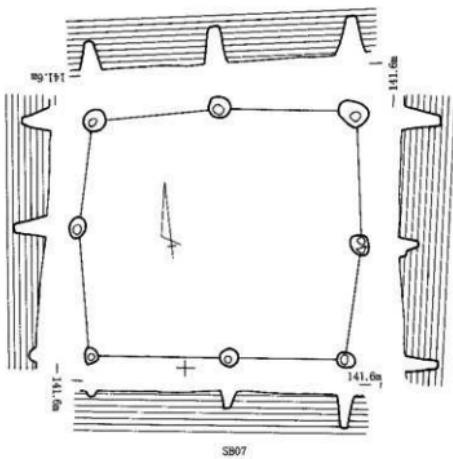
第54図 堀立柱建物 1.2(SB01,SB02)



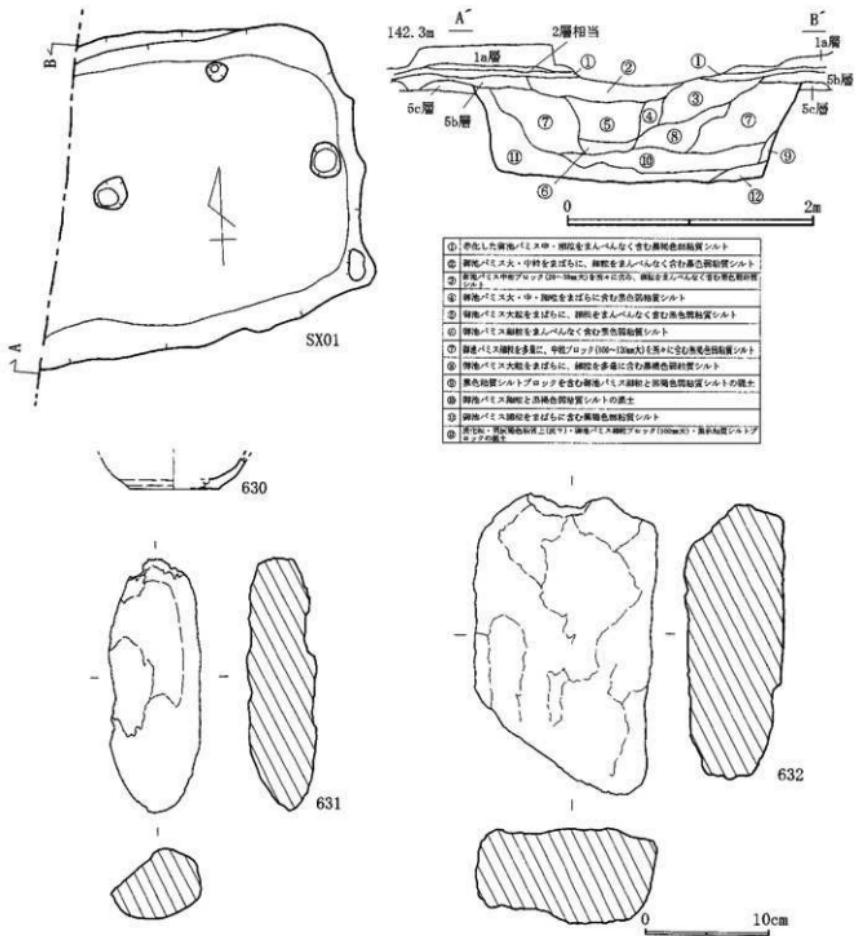
第55図 堀立柱建物 3,4(SB03,SB04)



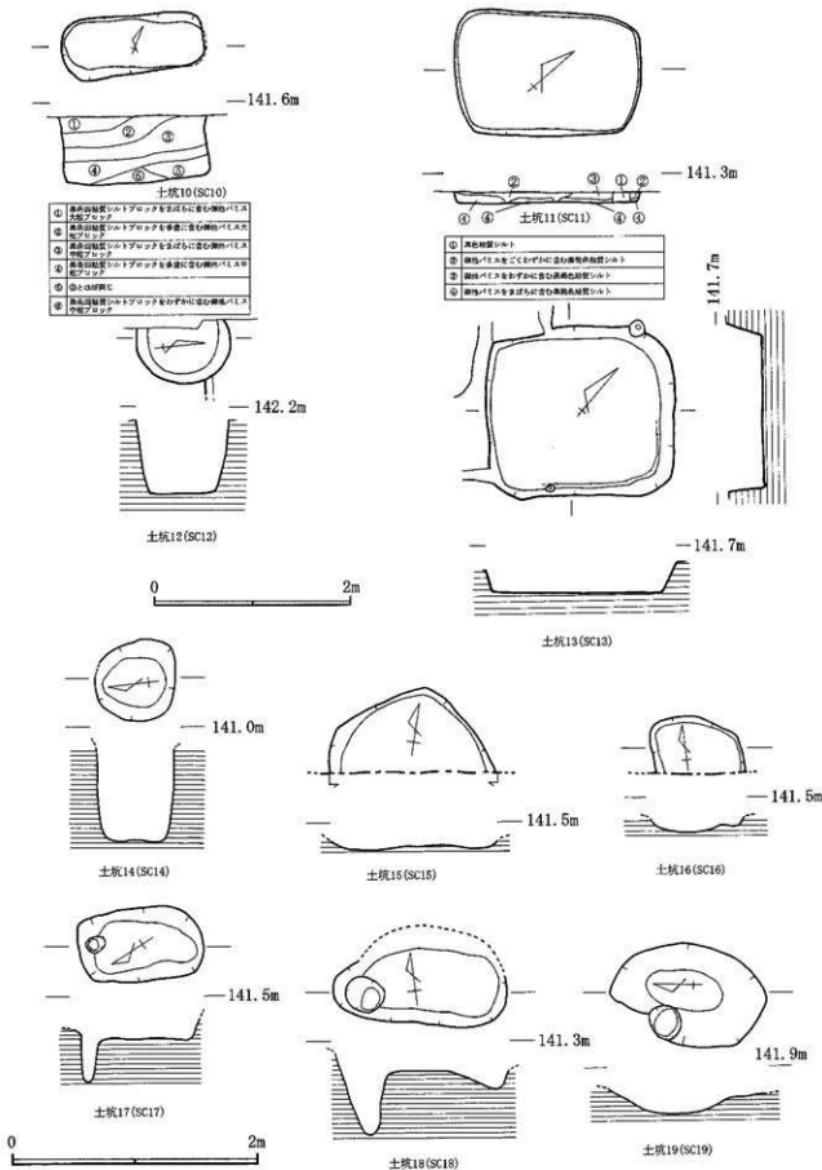
第 56 図 堀立柱建物 5,6(SB05,SB06)



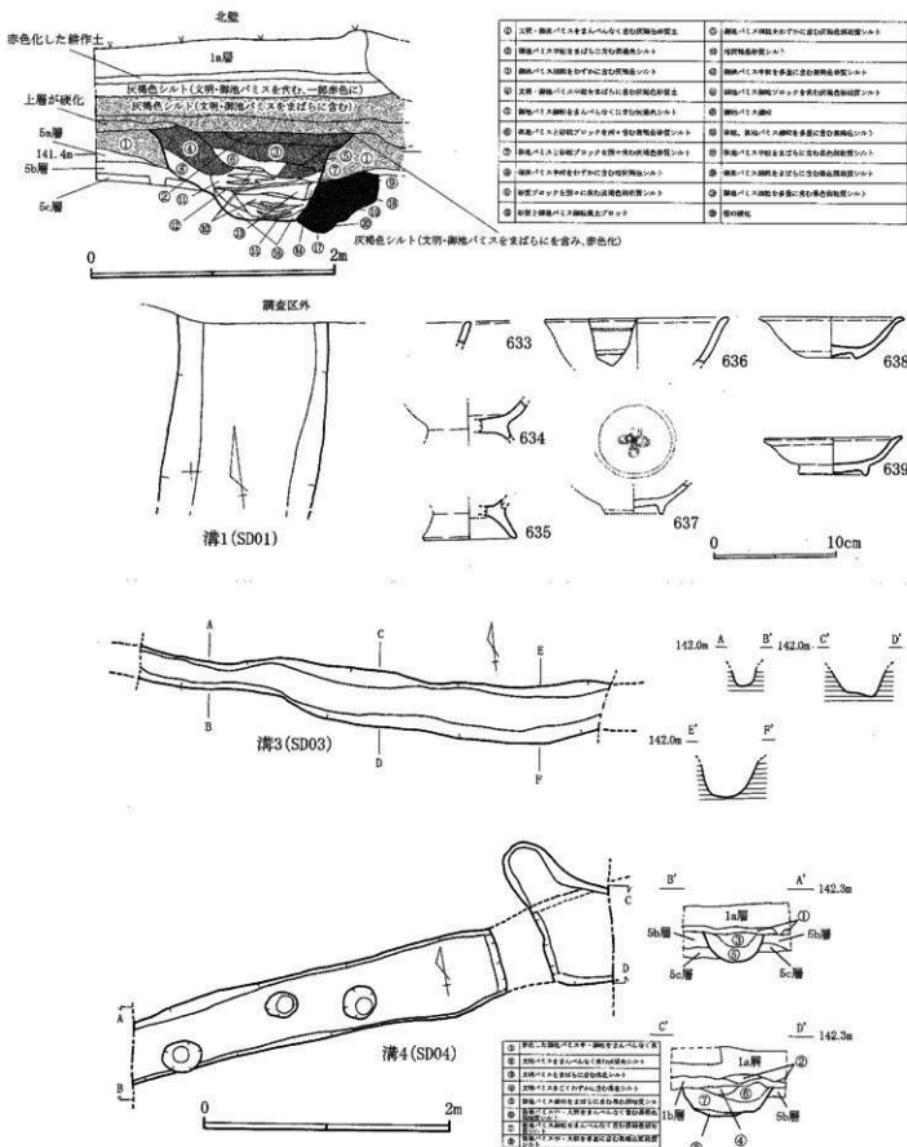
第 57 図 堀立柱建物 7,8(SB07,SB08)



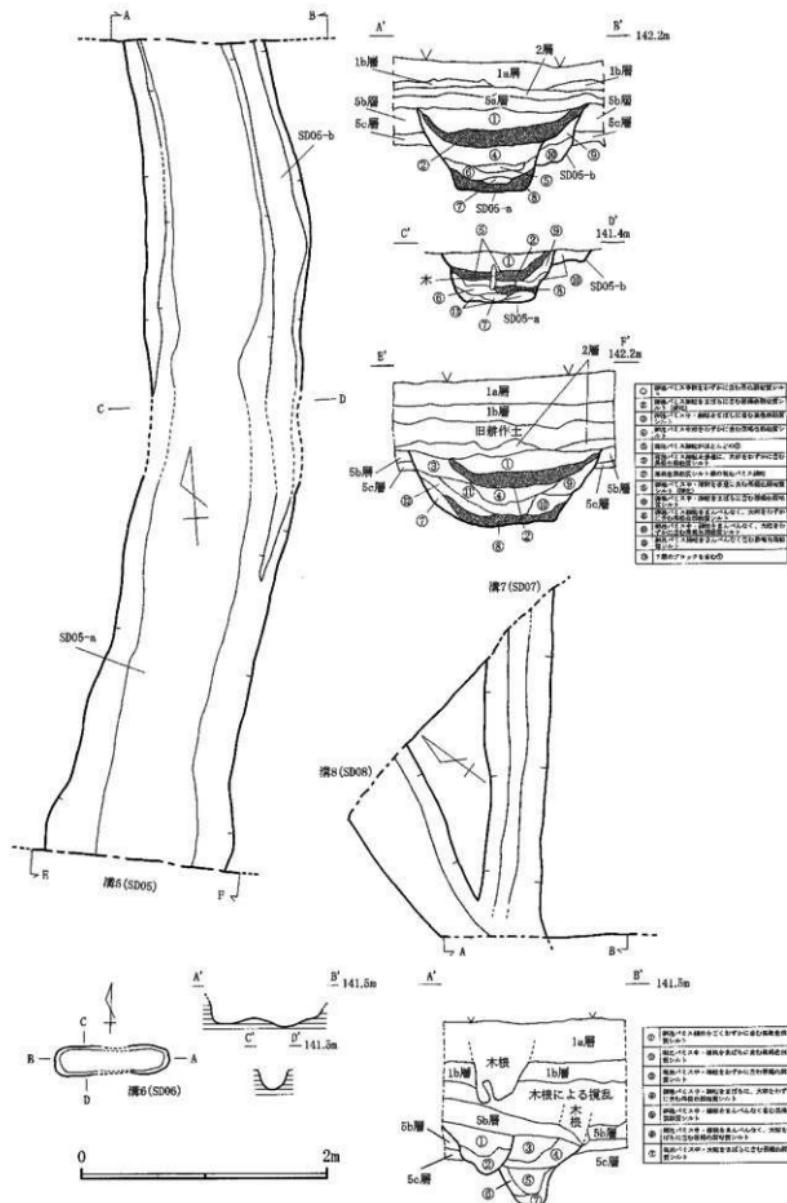
第58図 穴状遺構1(SX01)・同内出土遺物



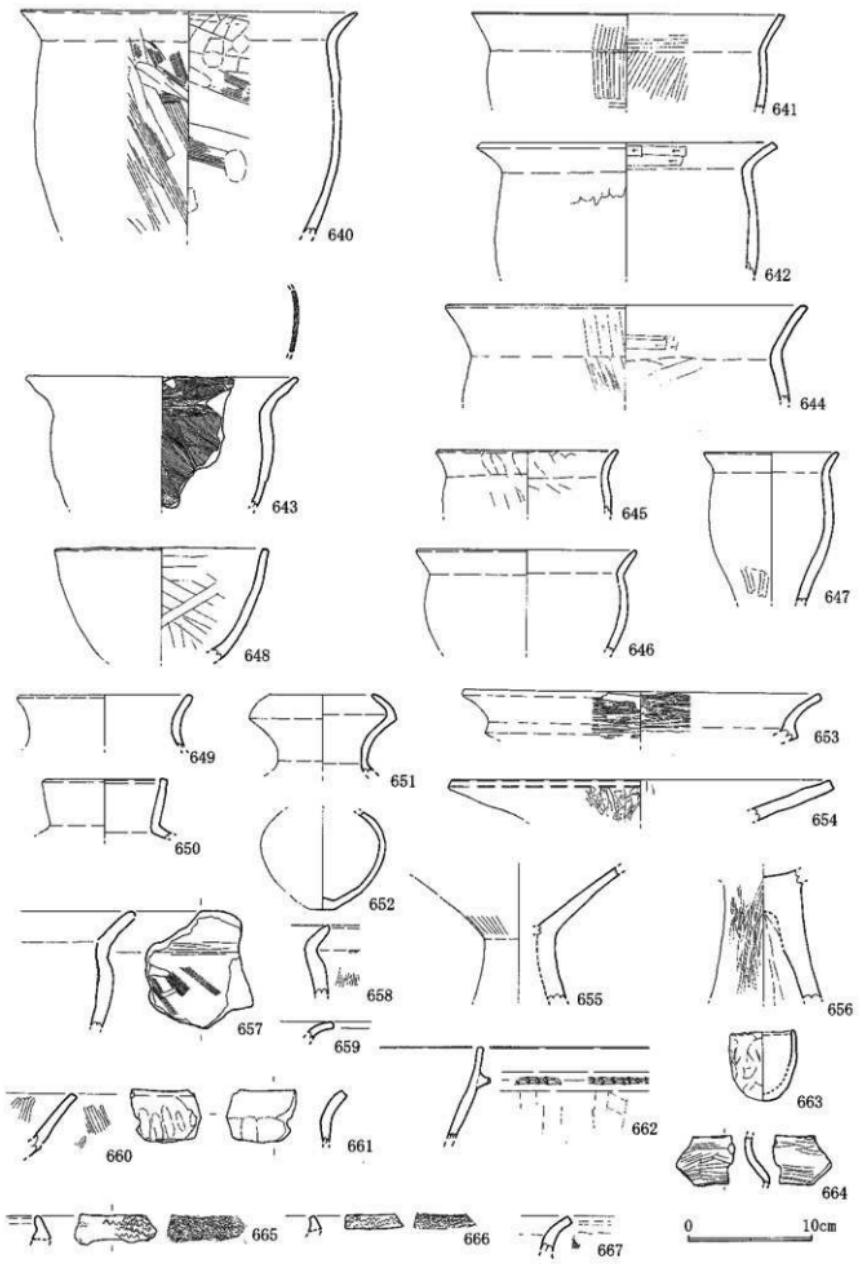
第59図 主な中世の土坑



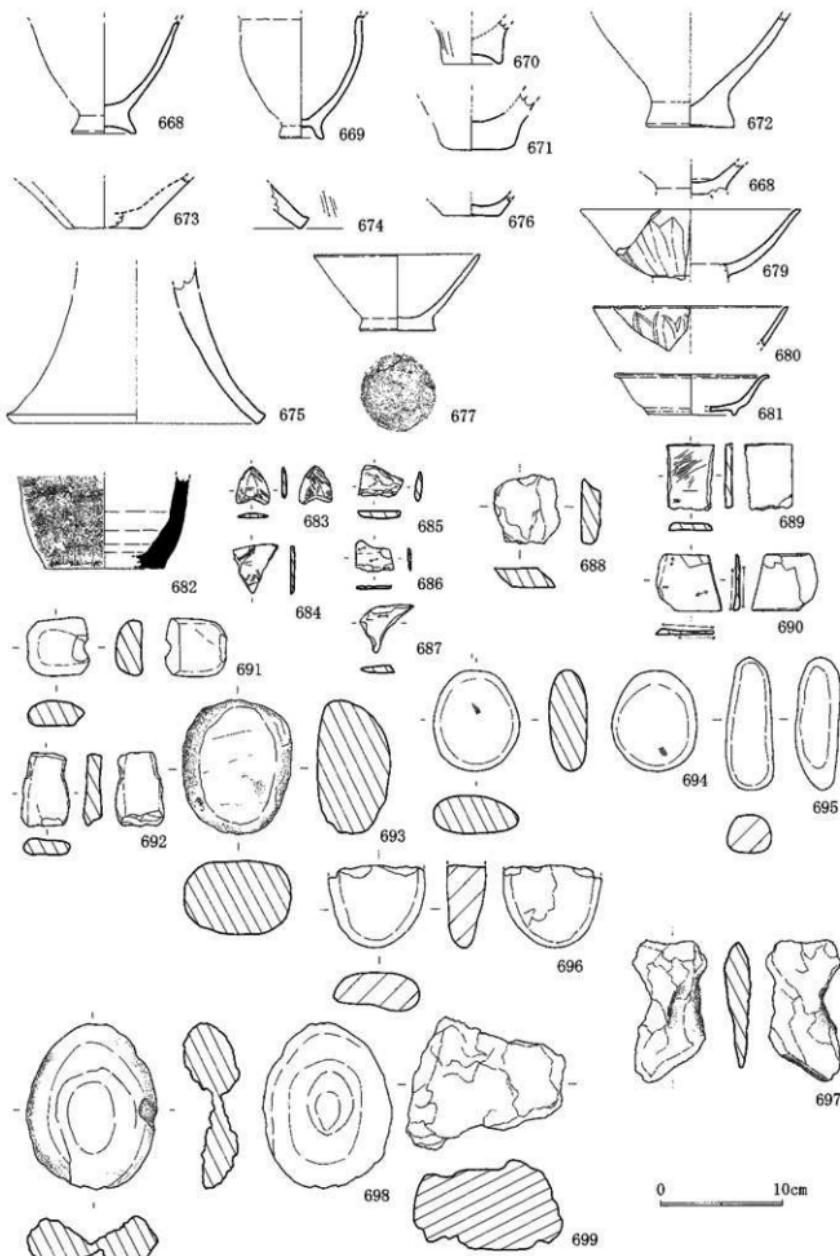
第60図 溝(1)



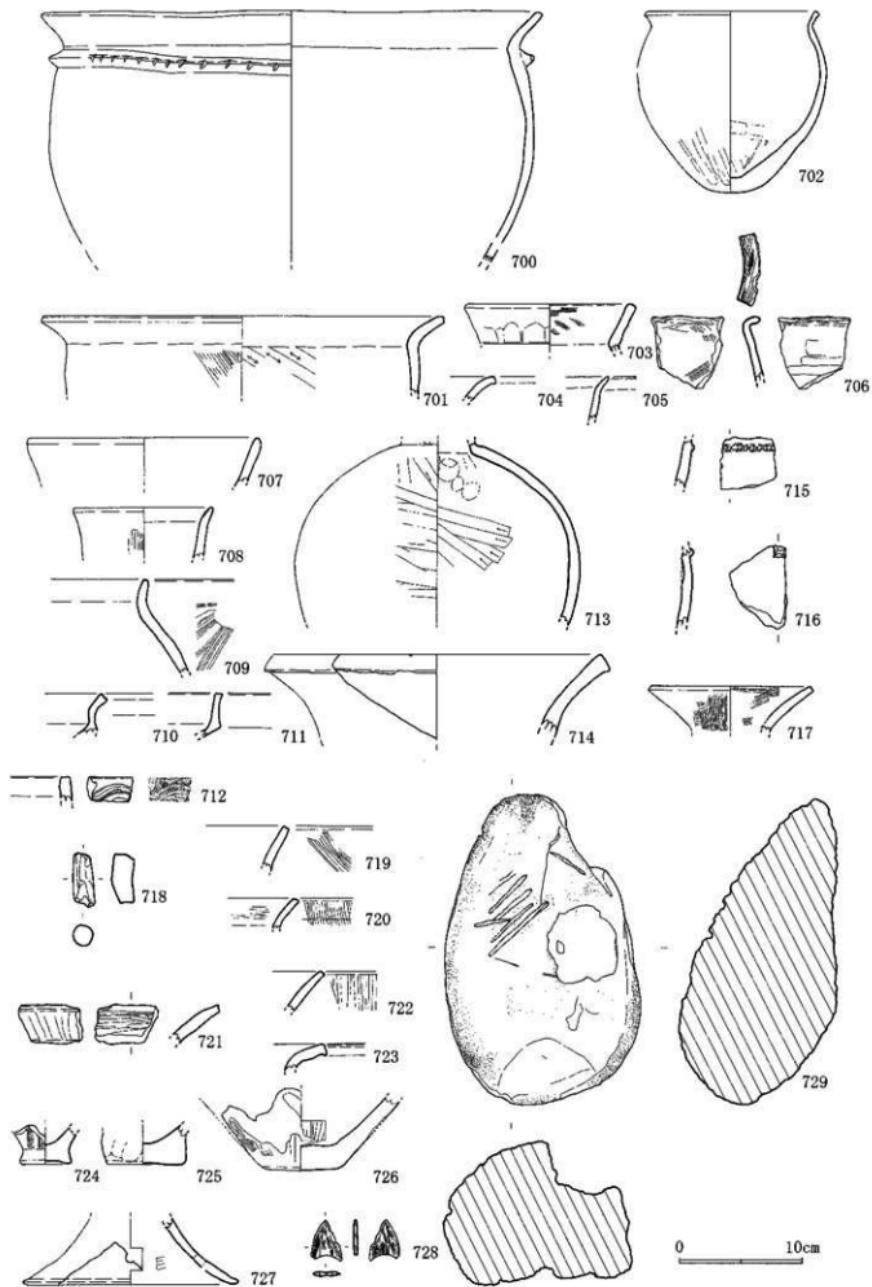
第 61 図 溝 (2)



第62図 その他遺物(1)



第63図 その他遺物(2)



第64図 その他遺物(3)

(4) B 区の遺構と遺物

B 区は南北に長い調査区である。遺構検出面である第6層(霧島御池降下軽石層)およびその上面の堆積は、調査区北西端から南・東方向へ緩やかに傾斜している。しかし、その中央に谷地形が入っているため、南北方向は馬ノ背状の地形を呈している。

この谷地形を中心として南北をみると、北側に中世後半の水田と畝状遺構、縄文時代後・晩期に帰属する2基(SC03・04)を含む土坑5基、古代末～中世にかけての溝3基が検出されている。また、南側には溝2基が検出されている。なお、概要報告では、縄文時代以外の時期に帰属する土坑を4基と記しているが、本報告作成にあたり3基と訂正する。

基本層序はA区とほぼ同じである。しかし、谷地形以南の断面を観察すると、基本層序とは異なる堆積が見受けられる。

遺構に伴う遺物は僅少であり、その大多数は包含層中より出土している。出土遺物の帰属時期をみると、そのほとんどが古代末から中世後半に収まるものである。

土坑(第68図)

土坑1(SC01)は調査区の北端、g-2区に位置する。平面プランは、円形を呈すると考えられるが、SC02と切り合っているため判然としない。南北0.96m、東西1.05m、深さ0.5mを計る。埋土は御池降下軽石を含む黒褐色弱粘質シルトである。遺物は出土していない。

土坑2(SC02)はg-2区のSC01の南側に位置し、SC01と切り合い関係にある。平面プランは円形を呈すると考えられる。南北1.75m、東西1.85m、深さ0.65mを計る。埋土は御池降下軽石を含む黒褐色弱粘質シルトである。断面を観察した結果、SC01を切っているため、SC01より新しい時期の土坑といえる。しかし、遺物が出土していないため、その時期差は不明である。

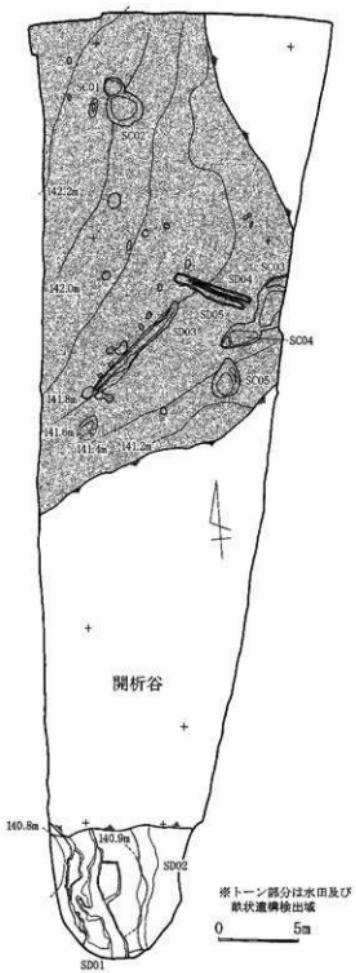
土坑3(SC03)は調査区の東側に接し、h-2～h-3区にかけて位置する。平面プランは、南北2.35m、東西1.0m、深さ0.2mを計る。しかし、東半分は調査区外にのびており、南端部もSC04と切り合い関係にあるため判然としない。埋土は御池降下軽石を含む黒褐色弱粘質シルトである。出土遺物はないが、SC04に切られているため、SC04より古い縄文時代の土坑と考えられる。

土坑4(SC04)はi-2区に位置し、SC03と切り合い関係にある。平面プランは楕円形を呈すると考えられる。南北1.15m、東西2.20m、深さ0.35mを計る。埋土は御池降下軽石を含む黒褐色弱粘質シルトである。

遺物は2点出土している。730は縄文土器の胴部片である。731は縄文土器の鉢である。これらの出土遺物から、SC04は縄文時代後期～晩期に帰属する土坑だと考えられる。

土坑5(SC05)はSC04の南側、i-2区に位置している。平面プランはいびつな楕円形を呈し、南北2.0m、東西1.4m、深さ0.25mを計る。埋土は御池降下軽石を含む黒褐色弱粘質シルトである。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

溝(第69図)



第65図 B区遺構分布図

溝1 (SD01) は k-1・2 ~ l-1・2 区にかけて位置する。SD02 と平行に隣接し、南北方向へのびている。北端は開析谷へ、南端は調査区外へのびているため、その全長は判然としない。また、遺構自体も蛇行するようにのびているため、遺構計測値はおおよそのもので、溝幅約 1.75m、深さ約 0.5m を計る。出土遺物はない。

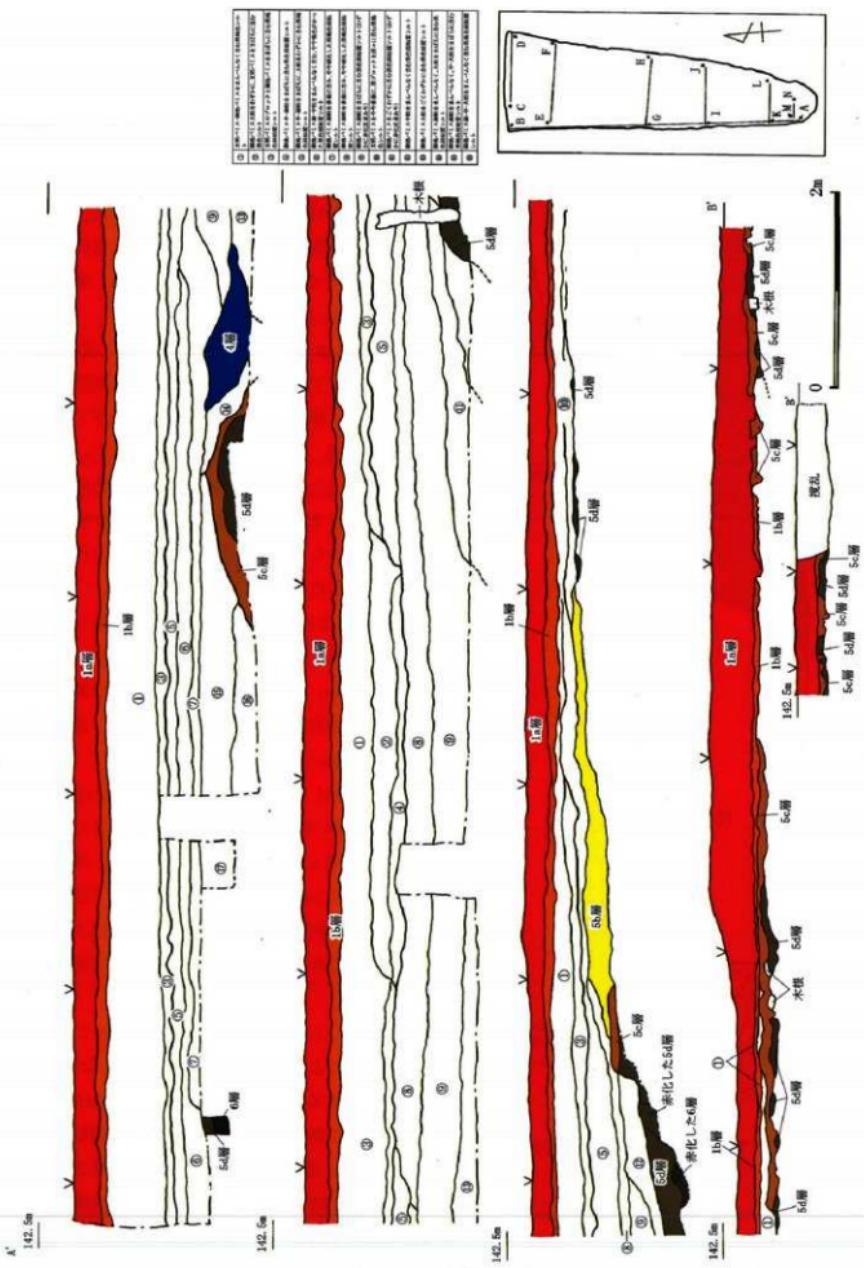
溝2 (SD02) は k-2・l-2 区に位置する。SD01 同様南北にのびているものの、その全長は判然としない。また、溝の東半分も調査区外にのびており、正確な溝幅、深さ、埋土は確認できない。

遺物は 2 点出土しており、ともに土師器の壺の底部片である。733 の外底面にはヘラ切り技法の痕跡がみとめられる。遺構の帰属時期は古代末であると考えられる。

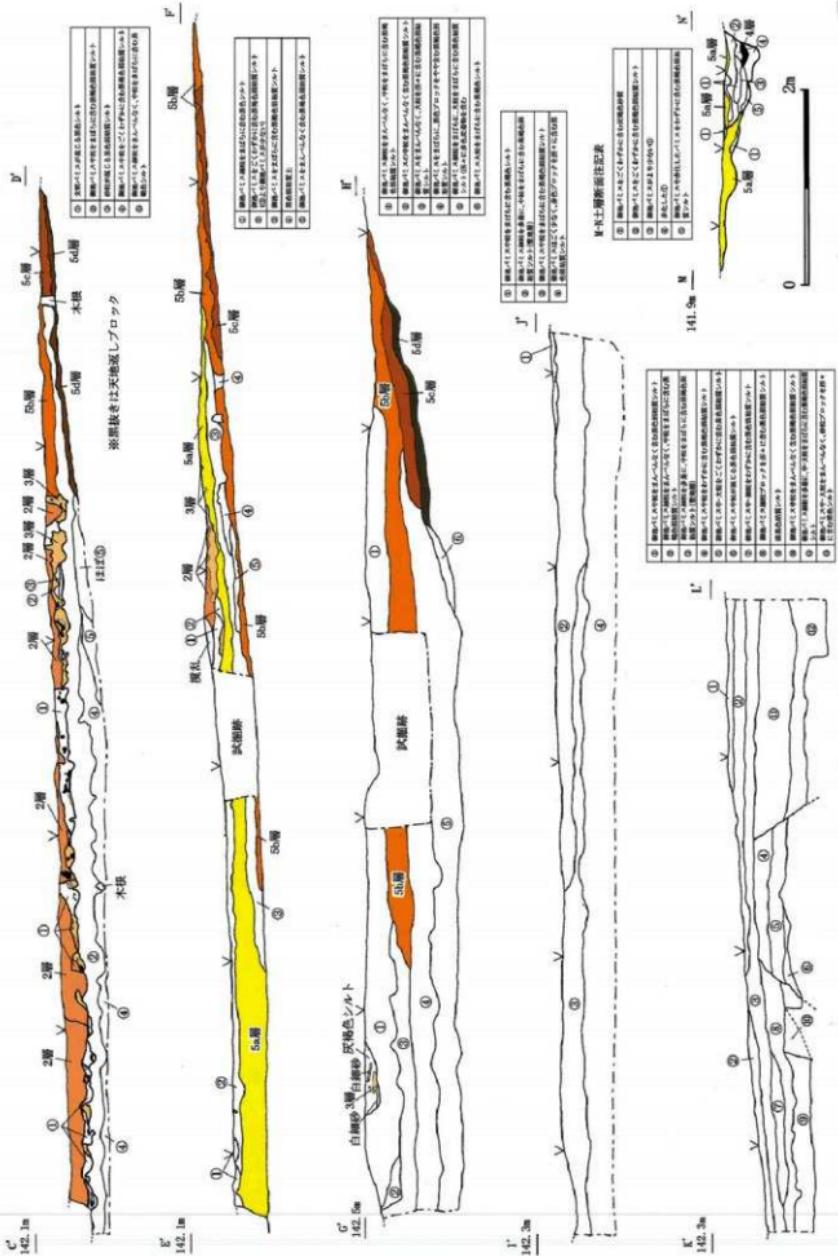
溝3 (SD03) は h・i-2 区に位置し、北東から南西方向へのびている。全長は 5.05m である。溝幅 0.5 ~ 0.65m、深さ 0.1m を計る。埋土は御池降下軽石を含む黒褐色弱粘質シルトである。遺物は出土していない。

溝4 (SD04) は h-2 区に位置し、その西端が SD05 と切り合い関係にある。そのため本来の全長は判然としない。残存面を計測すると、溝幅 0.4m、深さ 0.15m を計る。埋土は御池降下軽石を含む黒褐色弱粘質シルトである。遺物は出土していない。断面からは SD04 との新古関係を確認できなかった。

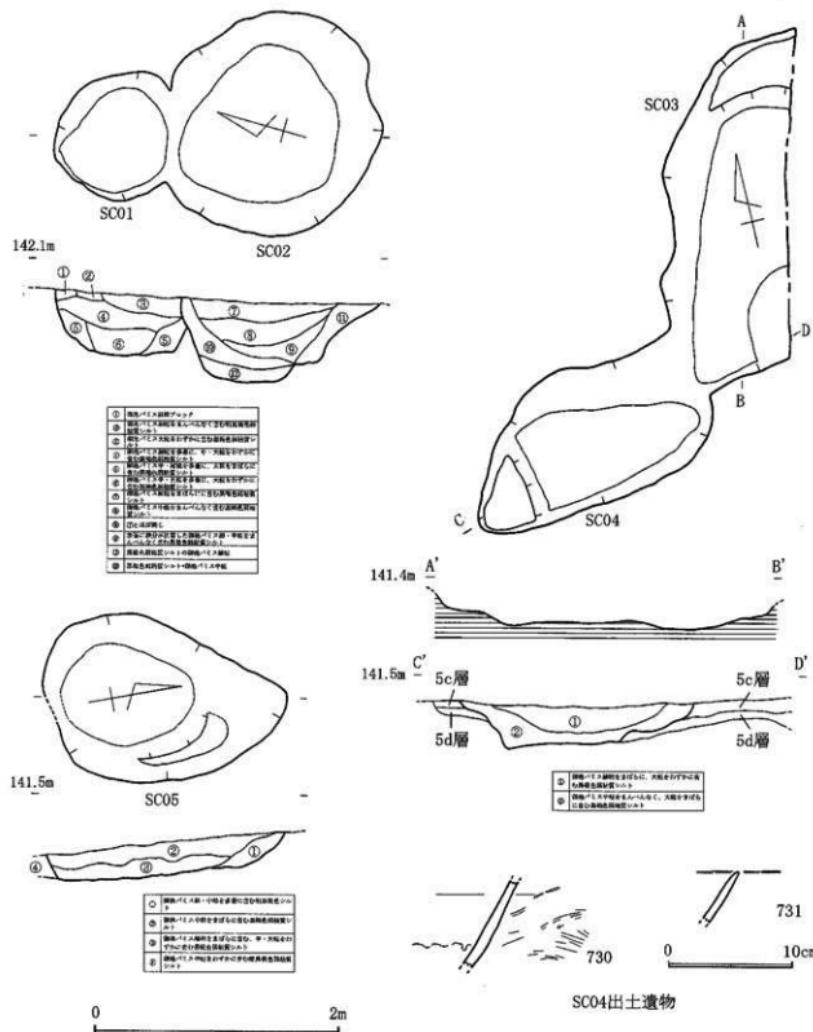
溝5 (SD05) は h-2 区に位置する。SD04 との切り合い関係により、本来の全長は判然としない。残存面を計測すると、溝幅 0.3m、深さは 0.08m である。埋土は御池降下軽石を含む黒褐色弱粘質シルトである。遺物は出土していない。深さが 10cm にも満たないほど浅いことから、本来溝としての機能をもっていたのか疑問が残る。



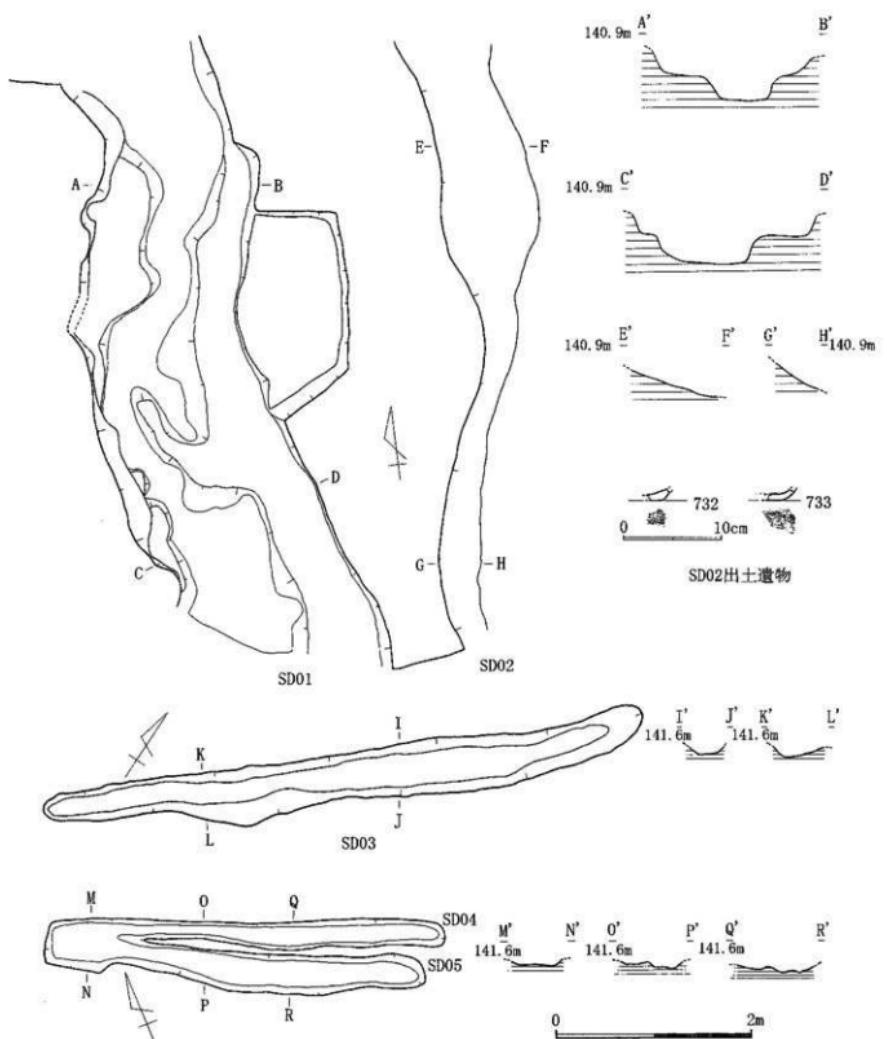
第 66 図 土層断面図(1)



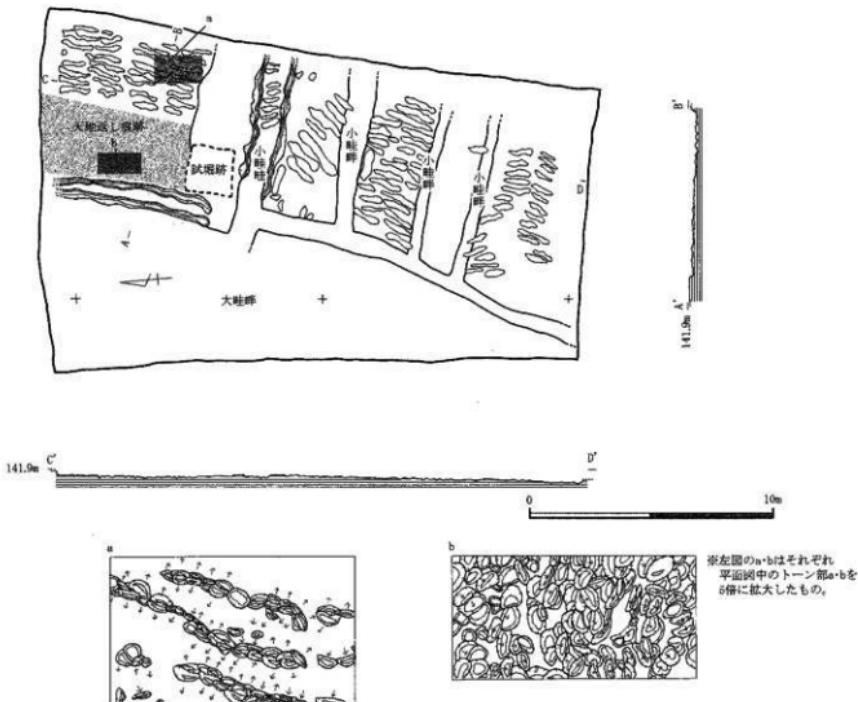
第 67 図 土層断面図(2)



第68図 土坑・同内出土遺物



第69図 溝・同内出土遺物

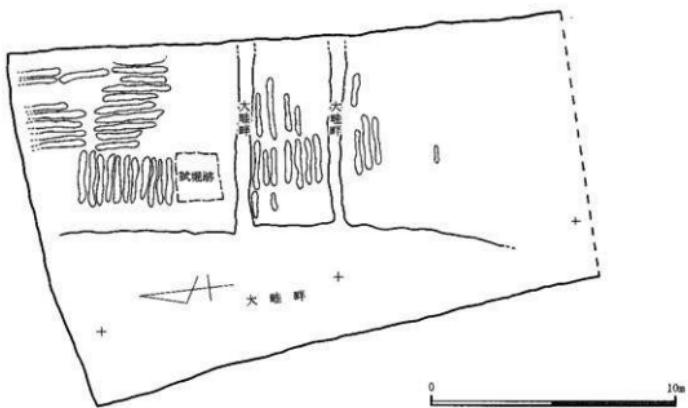


第 70 図 北側水田跡

水田・畝状遺構(第 70・71 図)

水田跡および畝状遺構は、調査区中央の谷地形より北側、g ~ i・1 ~ 3 区一帯の第 3 層(桜島文明降下軽石層)下部において検出された。面的にみると、北東部に土坑状の落ち込みとそれに沿うように畝状遺構がみとめられた(第 70 図 a)。これは一時的に畑地として利用した可能性を考えられるが、断定はできない(4.まとめ参照)。また、その西側では耕起具(鎌・鋤)による掘り起こし痕とみられる楕円状の窪みが繁雑な状況で検出された(第 70 図 b)。これは天災からの復旧を目的とした天地返しの痕跡だと考えられる。以上のことから、15 世紀後半頃の桜島噴火による災害から復旧するため天地返しをおこない、その一部を畑地として利用していたことが推察できる。このほかに、調査区東半部一帯では東西方向へのびる小畦跡やそれに連なる溝状遺構、天地返しの痕跡と考えられる土坑状の連なりが確認された(第 70・71 図)。

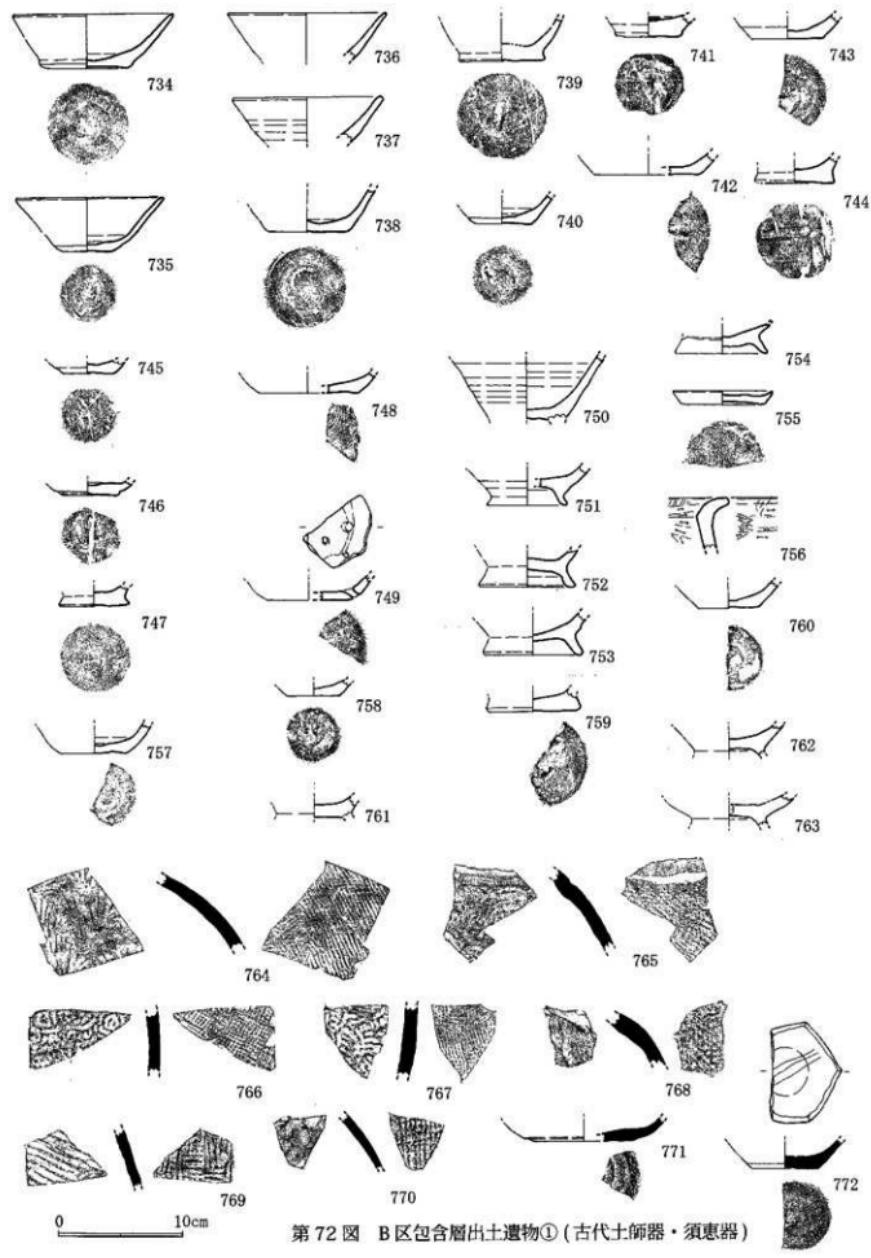
以上のように、面的にみると調査区北東部では当時の痕跡がみとめられた。しかし、表土から第 6 層までの層厚が比較的薄い調査区北西部では、後世の耕作などによって削平を受けているため遺構全体の詳細は確認できなかった。



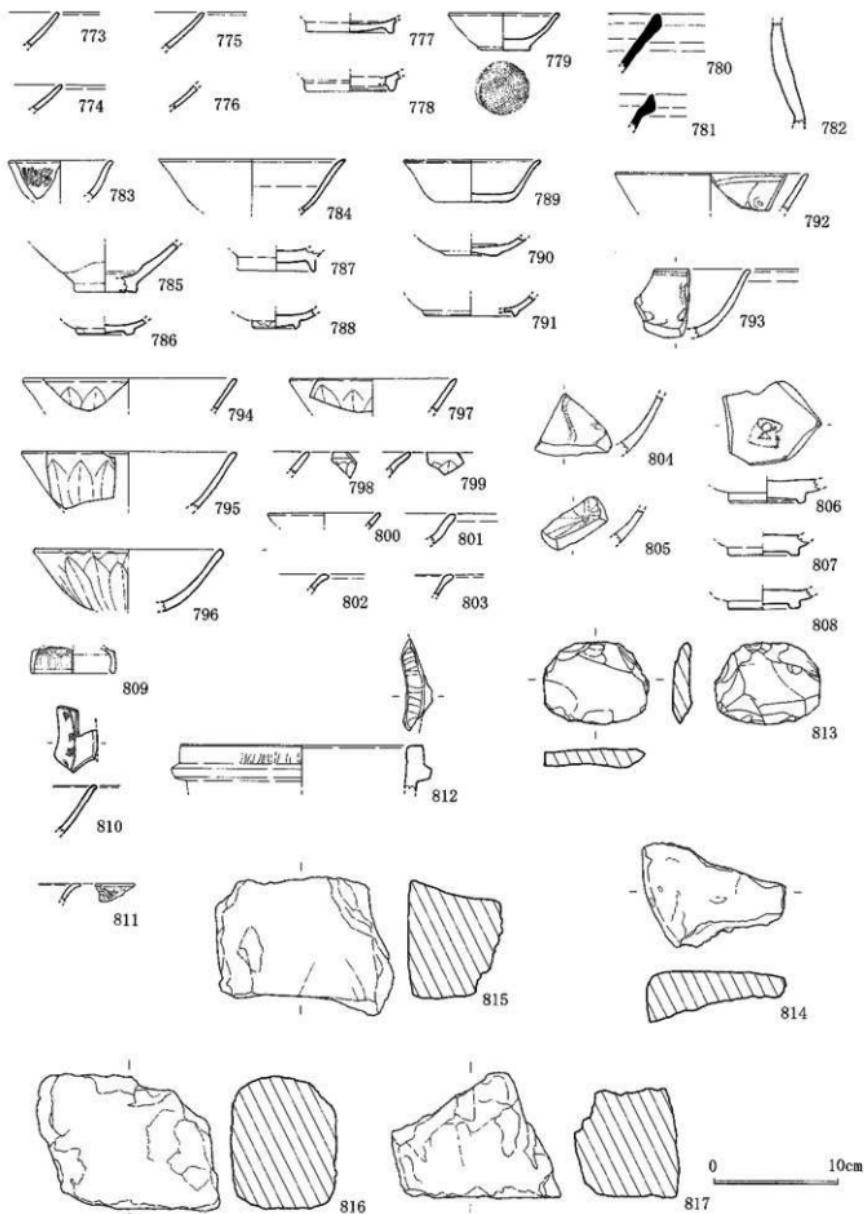
第71図 文明バミス上の歓状遺構

包含層出土遺物（第72・73図、表18・19・20）

B区における遺物の大半は包含層から出土している。詳細は表18・19・20にゆずるとして、特記事項について以下に記す。734～763は土師器である。底部切り離し技法をみると、大半はヘラ切り技法によるものである。749の壺は底部や体部に穿孔が施されており、底部の切り離しは糸切りである。764～772は須恵器である。全て胴部破片資料であり、全形をうかがえるものはない。773～776は越州窯系の青磁である。全て小片であるが、施釉にムラがあり、粗悪な胎土であることから、大宰府編年の椀II類に該当し9世紀末から10世紀初頭に帰属すると考えられる。777～779は綠釉陶器で、777・778は畿内（洛西・洛北）産、779は防長産のものである。前者は9世紀前半、後者は9世紀前半～後半に帰属すると考えられる。780・781は東播系須恵器の片口鉢の口縁部片とおもわれる（捏鉢の可能性もある）。森田氏の編年によると、第III期第1段階に該当し、13世紀代の所産である（森田1995）。784～791は白磁である。このうち、784の椀と789の皿は口禿げの口縁部を有す。大宰府分類に依るとそれぞれ椀IX類と皿IX類に該当し、13世紀後半から14世紀前半の所産のものである。792～808は龍泉窯産の青磁である。このうち、794～799の椀外面には鏡蓮弁文が施されている。また、806の椀内面見込みには印文が入っている。大宰府編年に依ると、それぞれII・III類とI類に該当し、12世紀中頃～後半の所産であると考えられる。809は青白磁の合子の蓋である。812は滑石製の石鍋で、木戸氏の編年によると12～13世紀の所産である（木戸1995）。この他に軽石加工品を含めた石器が数点出土している（813～817）。B区包含層の出土遺物中に完形品はほとんどなく、帰属時期を述べるのは困難である。よって、一部のメルクマールとなる遺物で判断した結果、帰属時期は9～14世紀の範疇に収まるものと考えられる。



第72図 B区包含層出土遺物①(古代土師器・須恵器)



第73図 B区包含層出土遺物②(国产・貿易陶磁器)

(5) 自然科学分析

I. 今房遺跡における放射性炭素年代測定

1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No 1	SAO1(住居跡)	炭化材(クリ)	酸-アルカリ-酸洗浄, ベンゼン合成	β 線計数法

2. 測定結果

試料名	^{14}C 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代(西暦)	測定No (Beta-)
No 1	2090 ± 60	-27.0	2060 ± 60	交点: cal BC55 1 σ : cal BC165~AD5 2 σ : cal BC200~AD65	137693

1) ^{14}C 年代測定値

試料の ^{14}C / ^{12}C 比から、単純に現在(1950年 AD)から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は 5,568 年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 ^{14}C / ^{12}C 比を補正するための炭素安定同位体比(^{13}C / ^{12}C)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 ^{14}C / ^{12}C の測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を較正することにより算出した年代(西暦)。較正には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、サンゴの U-Th 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された補正曲線を使用した。最新のデータベース("INCA198 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al. 1998, Radiocarbon 40(3))により、約 19,000 年 BPまでの換算が可能となっている。暦年代の交点とは較正 ^{14}C 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 σ (68% 確率)・2 σ (95% 確率)は、較正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

II. 今房遺跡から出土した炭化材の樹種同定

1. 試料

試料は、SA01(住居跡) から出土した炭化材(柱材) 1点である。

2. 方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面(木材の横断面、放射断面、接線断面)を作製し、落射顕微鏡によって 75 ~ 750 倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

3. 結果

結果を表1に示し、以下に同定根拠となった特徴を記す。また、各断面の顕微鏡写真を示す。

表1 今房遺跡から出土した炭化材の樹種同定結果

試料	樹種(和名/学名)
SA01(住居跡柱材)	クリ <i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科

横断面: 年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面: 道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面: 放射組織は単列の同性放射組織型である。

4. 所見

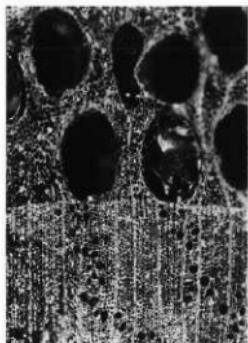
分析の結果、SA01(住居跡) から出土した炭化材(柱材)は、クリと同定された。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する落葉の高木で、通常高さ 20m、径 40cm ぐらいであるが、大きいものは高さ 30m、径 2m に達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。遺跡においては、柱材などの建築材として比較的よく使われる樹木である。なお、本試料は落射顕微鏡の観察において著しく反射光をもち、変形も認められるため、燃焼して炭化したものとみなされる。

文献

佐伯浩・原田浩(1985)針葉樹材の細胞。木材の構造、文永堂出版、p.20-48.

佐伯浩・原田浩(1985)広葉樹材の細胞。木材の構造、文永堂出版、p.49-100.

島地謙・伊東隆夫(1988)日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣、296p.



横断面—————:0. 4mm
SA01(住居跡)クリ



放射断面—————:0. 2mm



接線断面—————:0. 4mm

III. 今房遺跡におけるリン・カルシウム分析

1. はじめに

今房遺跡の発掘調査では、縄文時代晩期とされる土坑(SC06)が検出された。ここでは、同遺構内の土壤について分析を行い、人骨などの生物遺体の有無について検討を試みた。

2. 試料

分析試料は、SC06(土坑)の埋土から採取された試料0～試料4、比較試料として土坑底(地山)から採取された試料5の計6点である。

3. 分析方法

エネルギー分散型蛍光X線分析システム(日本電子㈱製、JSX3201)を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法(FP法)による定量分析を行った。試料の処理法は次のとおりである。

1) 試料を絶乾(105°C・24時間)

2) メノウ製乳鉢を用いて試料を粉碎

3) 試料を塩化ビニール製リング枠に入れ、圧力15t・でプレスして鉛剤試料を作成

4) 測定時間300秒、照射径20mm、電圧30keV、試料室内真空の条件で測定

なお、X線発生部の管球はロジウム(Rh)ターゲット、ベリリウム(Be)窓、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。

4. 分析結果

各元素の定量分析結果(wt%)を表1に示し、リン酸(P2O5)とカルシウム(CaO)の含量を図1に示す。

5. 考察

土壤中に含まれるリン酸やカルシウムの起源としては、土壤の母材、動物遺体、植物遺体などがあり、未耕地の土壤中におけるリン酸含量は通常0.1～0.5%程度、耕地土壤でリン酸肥料が投入された場合は1.0%程度である。農耕地では施肥による影響が大きいため、目的とする試料の分析結果のみから遺構・遺物内における生物遺体の存在を確認するのは困難であることから、比較試料(遺物・遺構外の試料)との対比を行う必要がある。

SC06(土坑)の埋土(試料0～4)のリン酸含量は0.50～0.75%と比較的高い値であり、比較試料(試料5)の2倍前後の値を示している。また、埋土下部(試料3、4)では埋土上部(試料1、2)よりもリン酸含量が比較的高い値である。以上のことから、SC06(土坑)の内部にリン酸を多く含む生物遺体が存在していた可能性が考えられる。

カルシウム含量については、目的とする試料とその比較試料との間にとくに明瞭な差異は認められなかった。リンは土壤中の鉄やアルミニウムと強く結合して水に難溶性の化合物となるため、水の作用により流出することは考えにくい(竹追、1993)。これに対して、カルシウムは一般に溶解性が大きいことから、土壤中でカルシウムが拡散・移動した可能性が考えられる。

文献

竹追竜(1993)リン分析法. 日本第四紀学会編. 四紀試料分析法. 2. 研究対象別分析法. 東京大学出版会, p.38-45.

表1 今房遺跡における蛍光X線分析結果
単位:wt (%)

原子No.	地点・試料 化学式	A区SC06					
		0	1	2	3	4	
11	Na2O	1.61	1.54	1.45	1.23	1.13	2.76
12	MgO	0.57	0.67	0.76	0.80	0.70	0.64
13	Al2O3	28.50	28.36	29.23	27.85	29.18	20.16
14	SiO2	54.63	54.83	51.04	53.52	57.01	63.88
15	P2O5	0.63	0.50	0.60	0.75	0.69	0.30
16	S03	0.39	0.41	0.35	0.29	0.28	
19	K2O	1.73	1.70	1.15	0.98	1.11	2.34
20	CaO	2.74	2.81	2.87	3.01	2.69	2.75
22	TiO2	0.77	0.83	0.94	1.02	1.00	0.62
23	V2O5	0.03	0.01	0.04	0.03	0.00	0.01
25	MnO	0.45	0.35	0.93	0.37	0.20	0.12
26	Fe2O3	7.90	7.94	10.56	10.09	5.94	6.35
38	SrO	0.03	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03
40	ZrO2	0.05	0.04	0.04	0.03	0.03	0.04

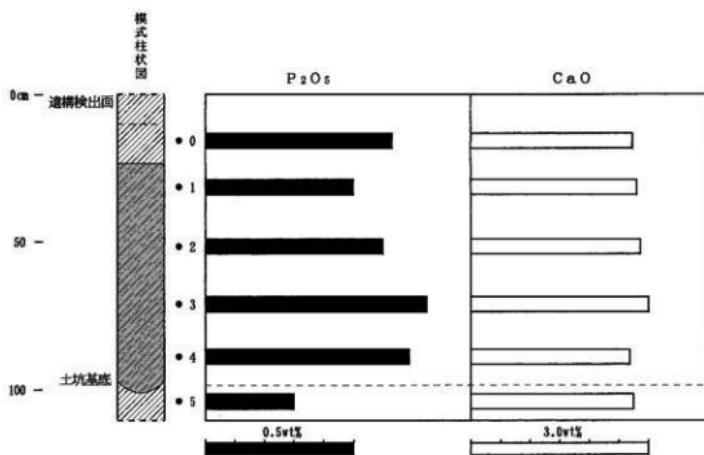


図1 SC06におけるリン・カルシウム含量

表1. 今房遺跡出土遺物観察表(縄文・弥生土器 1)

擇因	番号	器種	出土遺物 場所	基準(例) [残存] (復元)		調査	色調	胎土	備考	
				口径	底径					
第7回	1	鉢	SC01	(27.2)	[18.0]	外:ミガキ 内:ナデ	赤褐色 内:赤褐色	4mm (白・褐)	縄文土器	
	2	鉢	SC01		[7.6]	外:ミガキ 内:ミガキ	赤褐色 内:赤褐色	2mm (白)	縄文土器	
	3	鉢	SC01		[2.4]	外:ミガキ 内:ミガキ	赤褐色 内:赤褐色	2mm (白)	縄文土器	
	4	鉢	SC01		[3.1]	外:ミガキ 内:ナデ	赤褐色 内:赤褐色	2mm (白・透明)	縄文土器 朱痕?	
	5	鉢	SC01		[4.0]	外:ミガキ 内:ナデ	赤褐色 内:褐	2mm (白・褐・藍母)	縄文土器 淡芯	
第9回	9	鉢	SC05	(30.0)	[8.6]	外:ミガキ (厚輪)	外:にぶい黄褐色 内:ミガキ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	縄文土器 厚輪 (外)	
	10	鉢	SC05	(28.0)	[7.9]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:黒褐色 内:黒褐色	薄少 (黑)	縄文土器 浅芯	
	11	鉢	SC09		[6.4]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:灰褐色 内:黑	0.5mm	縄文土器 浅芯	
	12	鉢	SC05	(44.6)	[9.0]	外:素面 内:ミガキ	外:黒褐色 内:黒褐色	2mm (白)	縄文土器 淡芯	
	13	鉢	SC06		[5.3]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:暗灰黃 内:暗灰黃	ごく薄少 (黑)	縄文土器 灰斑 (外)	
	14	鉢	SC06		[5.7]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい褐 内:にぶい褐	3mm (白・褐)	縄文土器 淡芯 (外)	
	15	鉢	SC07		[13.2]	外:ナデ 内:ナデ	外:浅黃 内:灰褐色	1mm (白・褐)	縄文土器 淡芯 (外)	
	16	鉢	SC07		(10.4)	[16.6]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい褐 内:褐	縄文土器 (透明) (内)	
	23	鉢			[2.6]	外:不明 (蒙被) 内:不明 (蒙被)	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	2mm (白・褐)	縄文土器 山形口縫 (山形・蒙被)	
	24	鉢			[1.6]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい褐 内:にぶい褐	1mm (白・透明)	縄文土器 貴通原丸	
	25	鉢			[7.3]	外:ナデ 内:ミガキ	外:培養物 内:伊那物	3mm (白・灰)	縄文土器 山形口縫 (山形・蒙被)	
	26	鉢			[6.7]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰褐色 内:灰褐色	2mm (白・褐)	縄文土器 盛 (外)	
	27	鉢			[1.8]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	1mm (白・褐)	縄文土器 淡芯	
	28	鉢			[1.4]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	薄少 (白・褐)	縄文土器 蒙被	
	29	鉢			[2.6]	外:ナデ 内:ナデミガキ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	1mm (白・褐・青白)	縄文土器 淡芯 (内) 黑斑 (外)	
	30	鉢			[8.3]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰褐色 内:灰褐色	薄少 (白・透明)	縄文土器 黑斑 (外)	
	31	鉢			[3.6]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	1mm (白・褐)	縄文土器 灰 (外) 暗化物 (内)	
	32	鉢			[19.5]	外:ミガキ 内:ナデ・ハケメ	外:灰褐色 内:にぶい黄褐色	3mm (白・褐)	縄文土器 淡芯	
	33	鉢			[2.0]	外:ミガキ (蒙被) 内:ミガキ (蒙被)	外:にぶい褐 内:灰褐色	1mm (白・透明)	縄文土器 灰斑 (外)	
	34	破片			[3.5]	外:不明 (蒙被) 内:六明 (蒙被)	外:にぶい褐 内:灰褐色	1mm (白・褐)	縄文土器 押引文? (外)	
第10回	35	甌	SA01	(27.0)	6.7	外:ナデ 内:不明 (剥離)	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	5mm (白・褐・黑)	縄 (外) 暗化物 (内)	
	36	甌	SA01	21.56	[23.0]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	2mm (灰・米褐色)	縄 (内)	
	37	甌	SA01	(36.0)	[6.5]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰褐色 内:灰褐色	2mm (白・褐)	縄 (外) 黑斑 (内)	
	38	甌	SA01	(26.0)	[12.9]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰褐色 内:灰褐色	4mm (白・褐)	縄 (外) 黑斑 (内)	
	39	甌	SA01	(24.0)	[11.9]	外:ナデ 内:ナデ・ハケメ	外:灰褐色 内:灰褐色	微少 (白・透明)	縄 (外)	
	40	甌	SA01	(23.6)	[10.2]	外:ナデ・ハケメ 内:ナデ	外:灰褐色 内:灰褐色	8mm (白・透明)	縄 (外)	
	41	甌	SA01	(20.6)	[6.8]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	2mm (白・褐)	縄 (外)	
	42	甌	SA01	(17.8)	[6.0]	外:ナデ・ハケメ 内:ナデ・ハケメ	外:灰褐色 内:灰褐色	2mm (白・透明)	縄 (外)	
	43	甌	SA01	(18.0)	[5.1]	外:ナデ・ハケメ 内:ナデ	外:灰褐色 内:灰褐色	4mm (白・褐)	縄 (外)	
	44	甌	SA01	(18.0)	[4.9]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰褐色 内:灰褐色	2mm (白・褐)	縄 (外)	
	45	甌	SA01	24.3	[5.3]	外:ナデ・ハケメ 内:ナデ・ハケメ	外:灰褐色 内:灰褐色	5mm (褐)	縄 (外) 黑斑 (内)	
	46	甌	SA01	13.4	(4.5)	[13.55]	外:ミガキ 内:ハケメミガキ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	6mm (白・透明)	同心円状土手 (外底) 黑斑 (内)
	47	甌	SA01	(14.0)	(6.0)	[11.35]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰褐色 内:灰褐色	3mm (白・褐)	縄 (外) 黑斑 (内)
	48	甌	SA01	16.5	3.6	[12.6]	外:ハケメ 内:ナデ・ケメリ	外:灰褐色 内:灰褐色	2mm (白・褐)	縄 (外)
	49	甌	SA01	17.8	6.6	[14.7]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰褐色 内:灰褐色	4mm (白・褐)	縄 (外)
	50	甌	SA01	31.3		[26.2]	外:ナデ 内:ナデ・指捺痕	外:灰褐色 内:灰褐色	5mm (白・褐)	縄 (外)
	51	甌	SA01	(22.7)		[9.8]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰褐色 内:灰褐色	3mm (白・透明)	縄 (内)
	52	甌	SA01	(24.4)		[9.3]	外:ナデ・ハケメ 内:ナデ	外:灰褐色 内:灰褐色	5mm (白・褐)	縄 (外) 黑斑 (内)

表2.今房跡出土遺物調査表(縄文・弥生土器2)

53	甌	SA01	25.6	[18.3]	外:ハケメ 内:ハケメ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	3mm (赤褐色)	区(外) 黒斑(内)	
54	甌	SA01	(22.8)	[14.7]	外:ナデ・ハケメ 内:ナデ・指頭底	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	2mm (白・褐色)	区(外)	
55	甌	SA01	(26.0)	[11.9]	外:ナデ 内:ナデ	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	6mm (白・褐色)	区(外)	
56	甌	SA01	(26.2)	[31.8]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:洗黄褐色	2mm (赤褐色)	区(内外) 黒斑(内)	
57	甌	SA01	(22.6)	[13.2]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	3mm (白・透明)	区(外)	
58	甌	SA01	17.9	[11.2]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:洗黄褐色	5mm (白・褐色)	区(外)	
59	甌	SA01	(16.1)	[16.2]	外:ナデ・ケズリ 内:ナデ	外:洗黄褐色 内:にぶい黄褐色	9mm (白・褐色)		
60	甌	SA01	(23.1)	[7.7]	外:ナデ・ハケメ 内:ナデ	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	4mm (白・褐色)	区(外)	
61	甌	SA01	(20.0)	[6.1]	外:ナデ 内:ナデ	外:褐 内:にぶい褐色	3mm (白・褐色)	区(外)	
62	甌	SA01	(21.1)	[3.1]	外:ナデ 内:ナデ	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	4mm (白)	区(外) 黑斑(内)	
63	甌	SA01	(12.8)	[4.7]	外:ナデ 内:ナデ	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	3mm (白・褐色)	区(外)	
64	甌	SA01	(16.4)	[5.4]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰白 内:灰白	3mm (白・褐色)	区(外)	
65	甌	SA01	(24.9)	[4.9]	外:ナデ 内:ハケメ	外:褐 内:褐	4mm (白・褐色・黑)		
66	甌	SA01	(12.0)	[2.6]	外:ナデ・ハケメ 内:ハケメ	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	3mm (白・褐色)		
67	甌?	SA01	(16.0)	[2.1]	外:ナデ 内:ナデ	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	3mm (白・褐色)	区(内)	
68	甌?	SA01	(17.2)	[1.8]	外:ナデ 内:ナデ	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	3mm (白・褐色)	区(外)	
69	甌	SA01	25.2	10.1	外:ナデ 内:ナデ	外:褐 内:黄褐色	2mm (赤褐色)	区(内) 黑斑(内外)	
70	紳	SA01	(22.6)	[10.9]	外:ナデ・工具柄 内:ナデ	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	8mm (白・灰・赤褐色)	洗柄 区(外)	
71	甌	SA01	(30.5)	[3.8]	外:ナデ 内:ナデ	外:褐 内:にぶい黄褐色	3mm (白・褐色)	黑斑(内)	
72	紳	SA01	(17.4)	[9.2]	外:ナデ・ミガキ 内:ナデ・ミガキ	外:浅灰褐色 内:洗黄褐色	2mm (赤褐色・角閃石)	洗柄 区(外) 黑斑(内)	
73	紳	SA01	12.5	[11.2]	外:ナデ・ミガキ 内:ナデ・ミガキ	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	3mm (透明)	黑斑(内外)	
74	甌	SA01		[21.2]	外:ミガキ・工具柄 内:ナデ	外:褐 内:にぶい黄褐色	3mm (白・黑)	鍛削(外) 区(外)	
75	甌	SA01		[16.8]	外:不明(断続) 内:不明(断続)	外:灰白 内:洗黄褐色	5mm (白・褐色)	区(外)	
76	甌	SA01	(12.4)	[11.4]	外:ナデ・ミガキ 内:ナデ	外:褐 内:灰黑色	3mm (水褐色)		
77	甌	SA01		[6.8]	外:ミガキ 内:ナデ・ハケメ	外:灰白 内:灰	微少 (白・褐色)	疏削(外) 黑斑(内)	
78	甌	SA01		2.4	[12.9]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:洗黄褐色	2mm (赤褐色)	
79	甌	SA01	(11.9)		[14.9]	外:ナデ 内:ナデ	外:洗黄褐色 内:灰褐色	4mm (赤褐色)	区(内外)
80	甌	SA01		4.8	[10.3]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	2mm (白・赤褐色)	黑斑(内)
81	甌	SA01		[9.4]	外:不明(断続) 内:不明(断続)	外:黄褐色 内:灰	2mm (赤褐色)		
82	甌	SA01		4.4	[17.8]	外:ナデ・ミガキ 内:ナデ	外:褐 内:にぶい黄褐色	2.6mm (赤褐色)	長爆轟 区(外) 黑斑(外)
83	甌	SA01			[14.3]	外:ハケメ・ミガキ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	5mm (黑)	長爆轟
84	高坪	SA01	34.0		[10.1]	外:ハケメ・ヘラミガキ 内:ヘラミガキ	外:褐 内:灰	1mm (赤褐色)	区(内外) 黑斑(外)
85	高坪	SA01	22.3	12.5	16.6	外:ナデ 内:ナデ	外:洗黄褐色 内:灰褐色	3mm (赤褐色)	区(内外) 黑斑(外)
86	高坪	SA01	(34.4)		[8.8]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	5mm (赤褐色・角閃石)	黑斑(内)
87	高坪	SA01	(28.0)		[4.9]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	2mm (白・褐色)	
88	甌	SA01	(3.0)	(2.4)	9.7	外:ナデ・性體底	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	1mm (透明)	手握ね土器
89	甌	SA01	(5.7)	1.9	(10.25)	外:ナデ 内:ナデ	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	3mm (白・透明)	手握ね土器 灰斑(外) 黑斑(外)
90	紳	SA01	(9.4)	3.4	6.6	外:ミガキ 内:ナデ・ハケメ	外:褐 内:洗黄褐色	2mm (透明)	手握ね土器
91	紳	SA01	8.7	2.7	6.6	外:ナデ・ハケメ 内:ナデ	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	3mm (白・褐色)	手握ね土器 黑斑(外)
92	甌	SA01			[6.8]	外:ハケメ 内:ハケメ	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	4mm (白・褐色)	区(外) 黑斑(外)
93	甌	SA01			[7.6]	外:ハケメ 内:ハケメ	外:灰白 内:洗黄褐色	3mm (白・褐色)	区(外)
94	甌	SA01			[3.8]	外:ナデ 内:ナデ	外:初赤褐色 内:褐	2mm (白・褐色)	区(外)
95	甌	SA01			[3.7]	外:ナデ 内:ナデ	外:明黄褐色 内:明黄褐色	2mm (白)	区(外)
96	紳	SA01			[3.8]	外:ナデ 内:ナデ	外:洗黄褐色 内:洗黄褐色	2mm (白・褐色)	

表3.今房遺跡出土遺物観察表(調文・弥生土器3)

第14回	97	SA01		[6.2]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色 (白)	1mm			
	98	SA01		[6.2]	外:ナデ 内:ナデ	外:淡黄褐色 内:淡黄褐色 (白・透明)	5mm			
	99	SA01		[3.4]	外:ハケメ 内:ナデ	外:灰白 内:灰白 (白・透明)	3mm			
	100	鉢	SA01	[4.7]	外:ナデ 内:ナデ	外:淡黄褐色 内:淡黄褐色 (白・褐色・透明)	3mm	底(外)		
	101	鉢	SA01	[3.25]	外:ナデ 内:ミガキ	外:褐 内:褐 (透明)	2mm	聯合口縫合		
	102	皿	SA01	[2.95]	外:ナデ 内:ミガキ	外:にぶい褐 内:にぶい褐 (白・褐色)	2mm	联合口縫合		
	103	皿	SA01	[2.2]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰白 内:褐 (白・褐色・透明)	3mm	強縫合文(外)		
	104	皿	SA01	6.4	[16.6]	外:ハケメ 内:ハケメ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色 (白・褐色)	6mm	馬糞(外)	
	105	皿	SA01	(7.15)	[6.1]	外:ハケメ・ナデ 内:ナデ	外:淡黄褐色 内:淡黄褐色 (白・透明)	2mm	同心円状ナデ(外底)	
	106	皿	SA01	6.7	[7.1]	外:ナデ・ハケメ 内:ナデ	外:淡黄褐色 内:淡黄褐色 (白・褐色・透明)	4mm	馬糞(外)	
	107	皿	SA01	(5.6)	[19.6]	外:不明(摩耗) 内:不明(摩耗)	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色 (白・褐色)	4mm	馬糞(外)	
	108	皿	SA01	8.1	[19.17]	外:ナデ・ハケメ 内:ナデ	外:淡黄褐色 内:淡黄褐色 (白・褐色)	3mm	焦(外底)	
	109	皿	SA01	6.1	[19.7]	外:ナデ→ハケメ 内:ナデ	外:灰白 内:灰白 (白・褐色)	3mm	馬糞(外底)	
	110	皿	SA01	8.4	[8.6]	外:ナデ 内:ナデ	外:暗 内:暗 (白・透明)	4mm		
	111	皿	SA01	(7.6)	[7.7]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰白 内:灰白 (白・褐色・透明)	3mm		
	112	皿	SA01	6.2	[6.23]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色 (白・褐色)	3mm		
	113	皿	SA01	10.3	[5.1]	外:ナデ 内:ナデ	外:暗 内:暗 (白・褐色)	4mm		
	114	皿	SA01	6.8	[6.7]	外:ナデ 内:ハケメ	外:淡黄褐色 内:にぶい黄褐色 (白・褐色・透明)	2mm		
	115	皿	SA01	(6.2)	[4.7]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:暗台 (白・褐色・透明)	3mm		
	116	皿	SA01	(7.9)	[3.7]	外:ナデ 内:ナデ	外:淡黄褐色 内:にぶい黄褐色 (白・褐色)	5mm		
	117	皿	SA01	6.1	[6.2]	外:ハケメ・クズリ 内:ナデ	外:淡黄褐色 内:淡黄褐色 (白・褐色・透明)	4mm		
	118	皿	SA01	6.5	[3.9]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい赤褐色 内:にぶい赤褐色 (白・透明)	3mm		
	119	皿	SA01	6.4	[4.8]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい褐 内:にぶい褐 (白・褐色・透明)	7mm		
	120	皿	SA01	7.4	[6.5]	外:ナデ 内:ナデ	外:褐 内:褐 (白・透明)	2mm	同心円状ナデ(外底)	
	121	皿	SA01	6.2	[4.6]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色 (白・褐色)	4mm		
	122	皿	SA01	(7.8)	[4.7]	外:ハケメ 内:ハケメ	外:にぶい黄褐色 内:明黄褐色 (白・褐色・透明)	4mm		
	123	皿	SA01	6.7	[3.4]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい褐 内:にぶい褐 (白・褐色)	4mm		
	124	鉢	SA01	4.3	[2.7]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰白 内:灰白 (透明)	1.5mm	手握ね土器	
	125	鉢	SA01	5.3	[2.3]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰白 内:灰白 (透明)	3mm	手握ね土器	
	126	皿	SA01	6.3	[3.8]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい赤褐色 内:にぶい赤褐色 (白・褐色)	2mm	水滴模(外底) 水(外)	
	127	皿	SA01	(7.7)	[8.2]	外:ミガキ 内:ナデ	外:にぶい褐 内:にぶい黄褐色 (白・褐色)	5mm	馬糞(外)	
	128	皿	SA01	(8.5)	[8.0]	外:ハケメ 内:ナデ	外:淡黄褐色 内:淡黄褐色 (白・褐色)	5mm	辺縁吹正直(外底) 底(外)	
	129	皿	SA01	(6.0)	[10.2]	外:ハケメ→ミガキ 内:ナデ	外:淡黄褐色 内:灰白 (白・褐色)	4mm	底(外) 馬糞(外)	
	130	皿	SA01	(6.2)	[4.2]	外:ハケメ 内:ナデ	外:淡黄褐色 内:灰白 (白・褐色)	2mm	底(外)	
	131	皿	SA01	5.3	[7.2]	外:ナデ 内:ナデ→ハケメ	外:灰黄褐色 内:灰黄褐色 (白)	2mm	馬糞(外)	
	132	皿	SA01	4.6	[3.6]	外:ハケメ 内:ナデ	外:成葉 内:淡黄褐色 (白・褐色)	4mm	底(外) 馬糞(外)	
	133	皿	SA01	4.9	[2.6]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰黄褐色 内:灰黄褐色 (白)	4mm	馬糞(外)	
	134	皿	SA01	(23.0)	[6.56]	外:不明(摩耗) 内:不明(摩耗)	外:淡黄褐色 内:淡黄褐色 (白・褐色)	3mm	底口盤	
	135	高杯	SA01		(14.6)	[10.8]	外:ミガキ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい褐 (白・褐色)	3.5mm	
	136	高杯	SA01		(17.7)	[12.03]	外:ミガキ 内:ナデ	外:にぶい褐 内:褐 (角閃石)	3mm	底(外) 馬糞(内)
	145	皿	SA02	(27.0)	7.9	[32.8]	外:ナデ・ハケメ 内:ナデ・ハケメ	外:淡黄褐色 内:淡黄褐色 (白・褐色)	5mm	底(外)
	146	皿	SA02	(25.2)	[5.7]	外:ハケメ 内:ナデ	外:淡黄褐色 内:灰白 (白・褐色)	4mm	底(外)	
	147	皿	SA02	32.0	[18.65]	外:ハケメ→ナデ 内:ナデ	外:淡黄褐色 内:褐 (角閃石)	4mm	底(外) 馬糞(内)	
	148	皿	SA02	(23.0)	[11.8]	外:ナデ・ハケメ 内:ハケメ(摩耗)	外:灰白 内:淡黄褐色 (白・褐色)	3mm	底(外)	

表 4. 今房遺跡出土遺物観察表 (縦文・弥生土器 4)

16 回	148 環	SA02	(17.8)	[6.6]	内: ナメ→ハケメ 内: ナデ・ハケメ	外: 洗黄櫻 内: 洗黄櫻	2mm (白・薄)	体 (外) 灰 (外) 廉化物 (外) 輪櫻形 (外)	
	150 環	SA02	(23.0)	[17.5]	内: ナデ 内: ハケメ (摩擦)	外: 淡青 内: にぶい黄櫻	3mm (白・透明・薄)	灰 (外) 廉化物 (外) 輪櫻形 (外)	
	151 環	SA02	(24.8)	[17.6]	内: ナデ 内: ナデ	内: にぶい黄櫻 内: にぶい黄櫻	2mm (白・薄)	灰 (外)	
	152 環	SA02	(17.4)	[6.3]	内: ナデ 内: ナデ・指頭底	内: 洗黄櫻 内: 洗黄櫻	3mm (白・薄・透明)	灰 (外) 黒底 (内)	
	153 壺	SA02		(8.2)	内: ナメ 内: ナメ (剥離)	内: 一 内: 一	2mm (白・薄)	黒底 (内)	
17 回	154 壺	SA03	(34.6)	[23.5]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい黄櫻 内: 明葉模	1mm (白・薄)	体 (外) 黑底 (内)	
	155 壺	SA03	(24.0)	[26.4]	外: ナデ 内: ナデ	外: 明葉 内: 明葉	3mm (厚模・茎部)	灰 (外) 黑底 (外)	
	156 壺	SA03	(27.8)	[14.3]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい黄櫻 内: にぶい黄櫻	5mm (白・薄・透明)	灰 (外)	
	157 壺	SA03	(28.6)	[19.65]	内: ナメ 内: ナデ	外: 洗黄櫻 内: 洗黄櫻	2mm (白・薄)	体 (外) 黑底 (内)	
	158 壺	SA03	(32.6)	[17.3]	内: ナメ 内: ナデ	外: にぶい黄櫻 内: 洗黄櫻	2mm (白・薄)	灰 (外)	
18 回	159 壺	SA03	(30.5)	[3.8]	外: ナメ 内: ナデ	外: にぶい黄櫻 内: にぶい黄櫻	2mm (白)	沈殿状痕 (外) 灰 (外)	
	160 壺	SA03	(20.8)	[4.2]	外: ナメ・ハケメ 内: ナデ・ハケメ	外: 灰模 内: にぶい黄櫻	3mm (白・薄・透明)	模 (外)	
	161 高杯	SA03	(23.4)	[5.1]	外: 不明 (剥離)	外: 洗黄櫻	3mm	模 (外)	
	162 壺	SA03	15.8	[26.7]	外: ナギ 内: ナデ・指頭底	外: にぶい黄櫻 内: にぶい黄櫻	5mm (白・薄)	長頸瓶	
	163 壺	SA03	(8.4)	[13.5]	外: ナデ 内: ナデ	外: 模 内: 模	2mm (赤褐色)	模 (外)	
19 回	164 壺	SA03	(9.0)	[6.0]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい模 内: にぶい模	3mm (白・薄・透明)	灰化物 (内)	
	165 壺	SA03	(8.4)	[16.0]	外: ナメ・ハケメ 内: ナデ	外: にぶい模 内: にぶい模	2mm (白・薄)	模 (外)	
	166 壺	SA03	(6.9)	[7.1]	外: ナデ・ハケメ 内: ナデ	外: にぶい模 内: 洗黄櫻	5mm (白・透明)	模 (外)	
	167 壺	SA03	5.6	[5.0]	外: ナメ 内: 不明 (摩擦)	外: 淡白 内: 洗黄櫻	3mm (白・薄・透明)	模 (外)	
	168 壺	SA03	6.7	[5.1]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい模 内: 洗黄櫻	3mm (白・薄・透明)	模 (外)	
20 回	169 壺	SA03	7.4	[28.1]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい模 内: 洗黄櫻	4mm (白・薄・透明)	黑底 (外)	
	170 壺	SA03	8.9	[2.9]	外: ナデ 内: 不明 (剥離)	外: にぶい模 内: 一	2mm (白・透明)	模 (外)	
	171 壺	SA03	7.1	[11.1]	外: ナメ→ミガキ 内: ナデ	外: 模 内: 一	5mm (白・薄・透明)	模 (外)	
	172 壺	SA03	(8.2)	[6.7]	外: ナギ 内: 不明 (剥離)	外: 模 内: 一	3mm (白・透明)	模 (外)	
	173 鉢か	SA03	8.1	[16.1]	外: ナメ・ハケメ 内: ナデ	外: にぶい模 内: 洗黄櫻	5mm (白・薄)	黑底 (内・外底)	
21 回	174 壺	SA04	(26.4)	[8.8]	外: ナメ (剥離) 内: 明葉 (剥離)	外: にぶい模 内: にぶい模	2mm (白・透明・薄)	模 (内)	
	175 高杯	SA04	(28.2)	[5.3]	外: ナデ	外: 模 内: 模	1mm (白)	模 (外)	
	176 鉢	SA04	(9.0)	(4.2)	[9.4]	外: ナデ・指頭底 内: ナデ	外: にぶい模 内: にぶい模	2mm (白・透明・施)	模 (外)
	177 壺	SA04	11.4	[5.2]	外: ナメ→ミガキ 内: ナデ	外: 模 内: 一	3mm (白・透明)	模 (外)	
	178 鉢か	SA04		[3.1]	外: ナデ 内: ナデ	外: 模 内: 模	1mm (白・透明・薄)	模 (外)	
22 回	179 壺	SA05	29.0	[25.0]	外: ナデ 内: ナデ	外: 洗黄櫻 内: 洗黄櫻	2mm (灰・赤褐色・雲母)	模 (内外) 黑底 (内)	
	180 壺	SA05	(31.8)	[8.15]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい模 内: にぶい模	3mm (白・薄)	模 (外) 黑底 (内)	
	181 壺	SA05	(33.0)	[9.1]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい模 内: にぶい模	3mm (白・薄)	模 (外)	
	182 壺	SA05	(29.4)	[26.1]	外: ナデ 内: ナデ	外: 洗黄櫻 内: 洗黄櫻	3mm (灰・赤褐色)	模 (内外)	
	183 壺	SA05	(26.6)	[7.0]	外: ナメ・ハケメ 内: ナデ	外: にぶい模 内: にぶい模	5mm (白・薄・透明)	模 (外)	
23 回	184 壺	SA05	(24.6)	[15.6]	外: ナメ 内: ナメ→ナデ	外: にぶい模 内: 模	3mm (赤褐色)	黑底 (外)	
	185 壺	SA05		[7.0]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい模 内: 一	4mm (白・薄・透明)	模 (外)	
	186 壺	SA05		[2.9]	外: ナデ 内: ナデ	外: 洗黄櫻 内: 洗黄櫻	3mm (白・薄)	模 (外)	
	187 壺	SA05	(27.4)	[8.3]	外: 指模 内: ナデ	外: にぶい模 内: 洗黄櫻	6mm (白・薄)	模 (外)	
	188 壺	SA05	(24.0)	[11.8]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい模 内: にぶい模	3mm (白・角閃石)	模 (外)	
24 回	189 壺	SA05	(22.4)	[16.6]	外: ナデ 内: ナデ	外: 洗黄櫻 内: 洗黄櫻	1mm (白・赤褐色)	模 (外)	
	190 壺	SA05	(18.8)	[7.2]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい模 内: にぶい模	2mm (白・薄)	模 (外)	
	191 壺	SA05	(15.4)	[3.8]	外: ナメ 内: ナデ	外: 洗黄櫻 内: 洗黄櫻	3mm (白・薄)	模 (外)	
	192 壺	SA05	(25.6)	[10.0]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい模 内: にぶい模	4mm (白・薄・透明)	沈殿状痕 (内) 模 (外)	

表5.今房遺跡出土遺物觀察表(縦文・弥生上器5)

193	麥	SA05		[2.9]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:淡黃褐色 内:淡黃褐色	2mm (白・透明・透明)	燒(外)	
194	麥	SA05		[2.6]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:淡黃褐色 内:淡黃褐色	2mm (白・透明)	燒(外)	
195	麥	SA05	(24.9)	[7.4]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:淡黃褐色 内:淡黃褐色	3mm (白・燒・透明)	燒(外)	
196	麥	SA05	(22.6)	[4.4]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	5mm (白・燒・透明)		
197	麥	SA05	(21.0)	[11.7]	外:ナゲ・ハケナメ 内:ナゲ	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	5mm (白・燒)	燒(外)	
198	麥	SA05	(27.4)	[5.4]	外:ナゲ・ハケナメ 内:ナゲ	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	3mm	燒(外)	
199	麥	SA05	(22.4)	[7.0]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	3mm (白・燒)	燒(外)	
200	麥	SA05	(16.4)	[3.7]	外:ハケナメ 内:ハケナメ	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	5mm (白・燒)	燒(外)	
201	麥	SA05	(19.6)	[6.8]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	4mm (赤褐色)	沈殿状文(外)	
202	米	SA05	(19.2)	[7.3]	外:六朝(摩訶) 内:ミガキ	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	3mm	浅鉢	
203	米	SA05	(20.4)	[9.5]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	3mm (赤褐色)	浅鉢 盒(内)	
204	米	SA05	17.1	2.5	外:ナゲ 内:ナゲ	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	5mm	黑底(外底)	
205	麦	SA05		[7.9]	外:ミガキ 内:ナゲ・ハケナメ	外:に古い黃褐色 内:無	2.5mm		
206	麦	SA05	(21.0)	[6.0]	外:ハケナメ 内:不明(刻劃)	外:に古い燒 内:無	5mm (赤褐色)		
207	麦	SA05	(10.9)	[2.7]	外:不別(摩訶) 内:不別(摩訶)	外:に古い燒 内:無	1.5mm (白)		
208	麦	SA05	(9.0)	[3.1]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:灰陶 内:灰白	2mm (褐)	灰口蓋	
209	麦	SA05		[6.8]	外:ナゲ 内:空穴	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	5mm (赤褐色)	210,211と同一個体 灰(外)	
210	麦	SA05		[8.0]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	7mm (赤褐色)	209,211と同一個体 灰且日彌帶(外)	
211	麦	SA05		2.8	[4.1]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	3mm (赤褐色)	209,210と同一個体
212	麦	SA05	15.1	[7.8]	外:ハケナメ・ナゲ 内:ナゲ	外:燒 内:淡黃褐色	1mm	馬底(内)	
213	麦	SA05	(10.0)	[5.3]	外:ハケナメ・ナゲ 内:ミガキ	外:に古い燒 内:淡黃褐色	3mm		
214	高坏	SA05	(32.1)	[7.9]	外:ミガキ(摩訶) 内:ミガキ	外:淡黃褐色 内:淡黃褐色	1mm (白・透明・強)	沈殿狀工具痕(外)	
215	高坏	SA05	(38.6)	[6.1]	外:ハケナメ 内:ミガキ	外:に古い黃褐色 内:無	1mm (褐・透明)		
216	高坏	SA05	(39.8)	[6.7]	外:ナゲ 内:ミガキ	外:に古い燒 内:に古い燒	3mm (白・燒・透明)		
217	高坏	SA05	(38.9)	[5.5]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:淡黃褐色 内:淡黃褐色	2mm (白・燒・透明)		
218	鉢	SA05	(5.4)	(4.7)	6.5	外:指頭痕 内:指ナデ	外:に古い黃褐色 内:理狀	微少 半埋地土器	
219	鉢	SA05	6.8	3.4	5.3	外:指ナデ 内:指ナデ	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	2.5mm 半埋地土器 馬底(外底)	
220	鉢	SA05	(5.0)	[4.0]	外:ナゲ・溶滴痕 内:ナゲ・溶滴痕	外:淡黃褐色 内:淡黃褐色	ごく微少 半埋地土器 八重(内)		
221	破片	SA05		[4.7]	外:ナゲ 内:不明(剥落)	外:に古い燒 内:無	1mm (褐・冰結)	丸ひ日安突(外)	
222	破片	SA05		[5.6]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:に古い燒 内:に古い燒	3mm (白・燒)	丸ひ日安突(外)	
223	破片	SA05		[5.4]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:に古い黃褐色 内:に古い黃褐色	3mm (白・燒・透明)	丸ひ日安突(外)	
224	高坏	SA05		[5.2]	外:ハケナメ 内:ミガキ	外:に古い燒 内:に古い燒	1mm (白・燒・透明)		
225	麦	SA05		[7.5]	外:ミガキ 内:ハケナメ・ミガキ	外:淡黃褐色 内:淡黃褐色	3mm (白・燒・透明)	中立脚台	
226	麦	SA05	(5.5)	[4.7]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:に古い燒 内:に古い黃褐色	3mm (白・燒・透明)		
227	腰か	SA05		(4.0)	(2.9)	外:ナゲ 内:不明(摩訶)	外:に古い燒 内:淡黃褐色	2mm 手埋地土器?	
228	腰	SA05		6.7	[9.9]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:淡黃褐色 内:灰白	2mm (白・燒)	
229	腰	SA05		[7.0]	[7.0]	外:ミガキ 内:ナゲ・マーナザ	外:燒 内:に古い黃褐色	3.5mm (白・燒)	
230	腰	SA05		(4.6)	[9.8]	外:ナゲ 内:ハケナメ・ナゲ	外:に古い燒 内:に古い燒	3mm (白・燒)	
231	腰か	SA05	(13.4)		[6.0]	外:ミガキ・工具ナゲ 内:ナゲ・ミガキ	外:に古い燒 内:に古い燒	2mm 中立脚台 体(外) 黑底(内)	
232	麦	SA05			(5.3)	外:不明(燒) 内:理頭痕	外:に古い燒 内:燒	3mm (白)	
233	腰	SA07	(33.6)		[3.5]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:燒 内:に古い燒	2mm (白・透明・燒)	
234	腰	SA07			[2.9]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:淡黃褐色 内:淡黃褐色	ごく微少 (白)	
235	腰	SA07			[2.0]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:燒 内:に古い燒	1mm (白・燒)	
236	腰	SA07			[3.0]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:燒 内:淡黃褐色	5mm (白)	

表 6. 今房遺跡出土遺物観察表(縦文・弥生土器)

第24回	242 瓢	SA07		[5.7]	外:ナデ 内:ナデ	外:櫛 内:梳齿	2mm (白・透明・稀)			
	243 瓢片	SA07		[2.7]	外:ナデ 内:ナデ→ミガキ	外:櫛 内:にぶい櫛	3mm (白・稀)			
	244 瓢片	SA07		[2.1]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰質櫛 内:にぶい櫛	3mm以下の砂粒 (白・褐色)			
	245 高环	SA07		[5.7]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい櫛 内:にぶい櫛	1mm (白・透明・稀)			
	246 瓢	SA07	(7.0)	[6.1]	外:ナデ 内:ナデ	外:櫛 内:灰	3mm (白・透明)	炭化物(内)		
第26回	250 瓢	SA08	22.5	8.0	28.6	外:ナデ 内:ナデ	外:改善櫛 内:洗黄櫛	2mm (赤褐色)		
	251 瓢	SA08	(30.4)		[18.9]	外:ナデ 内:ナデ	外:櫛 内:灰	4mm (白・褐色)		
	252 瓢	SA08	(24.6)		[15.2]	外:ナケメ 内:ナデ	外:灰櫛 内:灰質櫛	4.0mm (白・灰褐色)		
	253 高环	SA08	(33.6)		[10.3]	外:ミガキ 内:不明(膠粘)	外:櫛 内:灰	4mm (白・黑・赤褐色)		
	254 瓢	SA08	(6.4)		[6.3]	外:ミガキ→ナガ 内:ミガキ	外:櫛 内:灰	ごく微量 (稀)		
	255 瓢	SA09	26.05		[7.7]	外:ナデ 内:ナデ+ハケヌ	外:櫛 内:灰	3mm (白・稀・透明)		
第28回	256 瓢	SA09	(17.2)		[8.0]	外:ナデ 内:ナデ	外:洗黄櫛 内:洗黄櫛	3mm (白・稀・透明)	深(外)	
	257 瓢	SA09	(19.2)		[6.8]	外:ナデ→ハケヌ 内:ナデ	外:櫛 内:灰	3mm (白・稀)	黒斑(外)	
	258 瓢	SA09	(16.6)		[6.65]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黃櫛 内:にぶい黃櫛	4mm (稀)	深(外)	
	259 瓢	SA09	(13.1)		[3.6]	外:ナデ 内:ナデ	外:洗黄櫛 内:洗黄櫛	3mm (白・稀)		
	260 豆か	SA09	(15.3)		[6.78]	外:不明(膠粘) 内:不明(膠粘)	外:洗黄櫛 内:洗黄櫛	2mm (白・透明)	深(内外)	
	261 豆	SA09	(22.3)		[7.4]	外:ナメ 内:ナメ(剥離)	外:櫛 内:灰	4mm (白・稀)	聯合に變形	
	262 豆	SA09	(14.7)		[4.9]	外:ナメ 内:不明(膠粘)	外:櫛 内:灰	3mm (稀)		
	263 高环	SA09			[10.6]	外:ナケメ 内:ナデ	外:にぶい櫛 内:にぶい櫛	3mm (白・稀・透明)	即解	
	264 瓢	SA09			[4.0]	外:ナデ 内:ハケヌ	外:洗黄櫛 内:洗黄櫛	2mm (白・稀・透明)		
	265 瓢	SA09			[6.3]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰葉櫛 内:灰葉櫛	1mm (白・透明)	深(外)	
第29回	266 瓢	SA09			[6.3]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい櫛 内:にぶい櫛	2mm (白・稀)	深(外)	
	267 瓢	SA09			[3.8]	外:ナデ 内:ハケメ→ナガ	外:櫛 内:にぶい櫛	1mm (白・稀・透明)	深(外)	
	268 瓢	SA09	7.85		[3.4]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黃櫛 内:一	3mm (白・稀)		
	269 瓢	SA09			[6.4]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい櫛 内:灰	2mm (白・稀)	黒斑(外)	
	270 瓢	SA09	(7.0)		[3.6]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい櫛 内:洗黄櫛	4mm (白・稀・透明)		
	271 瓢	SA09			[2.6]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい櫛 内:にぶい櫛	3mm (白・稀・透明)	黒斑(外)	
	272 豆か	SA09			[3.4]	外:不明(膠粘) 内:不明(膠粘)	外:櫛 内:灰	4mm (白・稀・透明)		
	273 豆	SA09			[1.6]	外:ナケメ 内:ナデ	外:洗黄櫛 内:洗黄櫛	5mm (白・稀・透明)		
	274 豆	SA09	(2.2)		[4.7]	外:ミガキ 内:灰	外:にぶい櫛 内:灰葉櫛	2mm (白・稀・透明)		
	275 豆	SA09			4.1	[6.1]	外:ナケメ 内:ハケヌ	外:櫛 内:にぶい櫛	2mm (白・稀)	
第29回	276 豆	SA09			[4.6]	[6.0]	外:ナケメ 内:ナデ	外:にぶい黃櫛 内:黑	3mm (白・稀)	
	277 豆	SA09			[5.4]	[6.1]	外:ミガキ 内:ナデ	外:にぶい櫛 内:灰	3mm (白・稀・透明)	
	278 高环	SA09			[24.2]	[7.4]	外:不明(膠粘) 内:不明(膠粘)	外:櫛 内:灰葉櫛	4mm (白・稀)	脚部
	280 瓢	SA10	(29.2)		[7.7]	23.3	外:ナケメ→ナガ 内:ナデ	外:にぶい黃櫛 内:にぶい黃櫛	5mm (白・透明・稀)	深(外)
	281 瓢	SA10	(24.8)		[16.1]		外:ナケメ 内:ナデ	外:櫛 内:灰	3mm (白・透明・稀)	深(外)
	282 瓢	SA10	(29.4)		[10.7]	[6.2]	外:ナケメ 内:ナデ	外:にぶい黃櫛 内:洗黄櫛	4mm (白・透明・稀)	輪擴状(外)
	283 瓢	SA10	(24.4)		[16.7]	外:ナデ 内:ハケヌ	外:櫛 内:灰	4mm (白・透明・稀)	深(外)	
	284 瓢	SA10	(22.6)		[6.2]	外:ナデ 内:ハケヌ(剥離)	外:洗黄櫛 内:洗黄櫛	3mm (白・稀)	深(外)	
	285 瓢	SA10	(22.0)		[4.2]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい櫛 内:洗黄櫛	3mm (白・稀)	深(外)	
	286 瓢	SA10			[6.9]	外:ナケメ→ナガ 内:ハケヌ	外:にぶい黃櫛 内:にぶい黃櫛	3mm (白・稀)	深(外)	
	287 豆	SA10	(19.6)		[4.4]	外:ナデ	外:にぶい黃櫛 内:にぶい黃櫛	3mm (白・透明・稀)	黒斑(外)	
	288 高环	SA10			[12.0]		外:ハケヌ 内:ナデ	外:櫛 内:にぶい櫛	4mm (稀)	
	289 瓢	SA10			[22.95]	[19.9]	外:ナデ・ミガキ 内:ミガキ(膠粘)	外:洗黄櫛 内:灰葉櫛	3mm (白・灰褐色)	孔3種存(脚部)

表7.今房遺跡出土遺物觀察表(縦文・弥生土器7)

290	壺	SA10		2.1	[1.4]	外:ナデ 内:ハケメ	外:にぶい模 内:にぶい模	1mm (白・透明)	馬鹿ね土器 黒底(内)	
291	壺	SA10		6.1	[9.4]	外:ハケメ→ミガキ 内:ナデ(剥離)	外:にぶい模 内:にぶい模	3mm (白・透明・薄)		
293	壺	SA11	(21.4)		[4.8]	外:黄褐色 内:ナデ	外:にぶい模 内:浅黄褐色	1mm (白・透明・薄)	蝶(外)	
294	壺	SA11	11.5	(4.6)	11.6	外:ミガキ 内:ハケメ	外:にぶい模 内:にぶい模	3mm (白・透明・薄)	蝶(外)	
295	壺	SA11	(15.8)	(2.8)	7.4	外:ナデ・ハケメ 内:ナデ	外:にぶい模 内:産質模	2mm (白・透明・薄)	漆底(内)	
296	壺	SA11	(13.0)		[2.8]	外:ナデ・ハケメ 内:ハケメ	外:にぶい模 内:灰褐色	1mm (白・薄)		
297	壺	SA11	20.16		[30.3]	外:ヘラミガキ 内:ヘラミガキ・ナデ	外:壁 内:赤褐色	2mm (赤褐色)		
298	壺	SA11			[6.6]	外:ナデ 内:ハケメ	外:にぶい模 内:浅黄褐色	3mm (白・透明・薄)	蝶(内外)	
299	壺	SA11			[7.2]	外:ナデ・ハケメ 内:ナデ	外:にぶい模 内:灰褐色	1mm (白・透明)	網目突毫(外)	
300	壺	SA11			[2.7]	外:ナデ 内:ハケメ	外:灰褐色 内:灰褐色	3mm (白・透明・薄)		
301	壺	SA11			[2.7]	外:ナデ 内:ハケメ	外:にぶい模 内:灰褐色	2mm (白・薄)		
302	壺	SA11			[2.9]	外:ハケメ→ナデ 内:ナデ	外:にぶい模 内:灰褐色	4mm (白・透明・薄)	蝶(外)	
303	壺	SA11			[7.2]	外:ナデ 内:不明(剥離)	外:灰褐色 内:一	3mm (白・薄)	黒底(外底)	
304	壺	SA11			[3.2]	外:ナデ 内:ナデ	外:浅黄褐色 内:浅黄褐色	2mm (白・透明・薄)		
305	壺	SA11			[3.9]	外:カズリ→ハケメ 内:ナデ・ハラメ	外:にぶい模 内:にぶい模	2mm (白・透明)	漆底(外)	
306	壺	SA11			[7.1]	[6.1]	外:ナデ 内:ハケメ	外:にぶい模 内:灰褐色	2mm (白・透明・薄)	蝶(外) 漆底(内)
307	壺	SA11			[5.2]	[7.6]	外:ミガキ 内:ハケメ	外:壁 内:壁	3mm (白・薄)	
308	壺	SA11			[7.0]	[7.4]	外:ミガキ 内:ナデ	外:壁 内:壁	4mm (白・薄)	蝶(内)
313	壺	SA12	25.7		[18.8]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい模 内:にぶい模	2mm (灰・墨・透明)	蝶(内)	
314	壺	SA12	(11.0)		[4.5]	外:深頭底 内:ハケメ→ナデ	外:にぶい模 内:にぶい模	6mm (赤褐色)		
315	壺	SA12	(11.6)		[5.5]	外:ハケメ 内:ハケメ	外:浅黄褐色 内:浅黄褐色	4mm (白・赤褐色)	漆底(外)	
316	壺	SA12	(8.2)		[3.2]	外:ナデ 内:ナデ	外:壁 内:にぶい模	2mm (白・赤褐色)		
317	壺	SA12	(8.6)		[12.8]	外:ミガキ 内:ナデ	外:壁 内:壁	3mm (白・灰)	黒底(内)	
318	壺	SA12			[3.6]	外:ハケメ 内:ナデ	外:にぶい模 内:にぶい模	2mm (白・赤褐色)		
319	壺	SA12			[3.4]	外:ナデ 内:不明(剥離)	外:にぶい模 内:にぶい模	2mm (赤褐色)		
320	高杯か	SA12			[2.6]	外:ハケメ 内:ナデ→ハケメ	外:にぶい模 内:灰褐色	3mm (白・赤褐色)		
321	壺	SA12	(17.2)		[7.4]	外:ナデ 内:ナデ	外:壁 内:壁	1mm (白)	複合口縫合 複層底状況(外)	
322	壺	SA12	(16.2)		[6.0]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい模 内:にぶい模	4mm (白・赤褐色)	複合口縫合	
323	壺	SA12			[6.8]	[6.9]	外:ハケメ 内:ナデ	外:壁 内:にぶい模	6mm (赤褐色・灰)	炭化物(内)
324	壺	SA12			[3.7]	外:ナデ(繊維) 内:ナデ	外:にぶい模 内:灰褐色	5mm (白・灰)		
325	壺	SA12	(5.2)		[10.9]	外:工具ナデ 内:工具ナデ+ハケメ	外:にぶい模 内:にぶい模	4mm (白・赤褐色)	蝶(外)	
326	高杯	SA12	(20.4)		[5.2]	外:ハケメ 内:ナデ	外:にぶい模 内:灰褐色	6mm (白)	解剖	
327	壺	SA13	(18.4)	(6.4)	21.8	外:ナデ・ハクメ 内:ナデ・ハクメ	外:壁 内:灰褐色	3mm (白・灰)	蝶(外) 黑削(内)	
331	壺	SA14・15	(26.8)		[22.9]	外:ナデ・ハクメ 内:ナデ・ハクメ	外:にぶい模 内:にぶい模	3mm (白・薄)	ごく薄少 蝶(外)	
332	壺	SA14・15	17.8		[11.3]	外:ハケメ 内:ハケメ	外:灰褐色 内:浅黄褐色	3mm (白・薄・透明)	蝶(外)	
333	壺	SA14・15	(15.0)		[7.8]	外:ナデ 内:ハケメ	外:灰褐色 内:灰褐色	1mm (白・薄・透明)	蝶(外)	
334	壺	SA14・15	(19.0)		[6.1]	外:ナデ 内:工具ナデ	外:灰褐色 内:浅黄褐色	1mm (白・透明)	蝶(外)	
335	壺	SA14・15	(19.4)		[11.7]	外:ハケメ 内:ナデ・ハクメ	外:にぶい模 内:にぶい模	3mm (白・薄)		
336	壺	SA14・15	(15.3)	(5.3)	14.3	外:ハクメ→ミガキ 内:ハクメ→ミガキ	外:壁 内:壁	4mm (白・薄)	蝶(外)	
337	壺	SA14・15	(13.8)		[6.9]	外:ハケメ・薄頭底 内:ハケメ	外:にぶい模 内:にぶい模	5mm (白・薄)	漆底(外)	
338	壺	SA14・15	(10.3)		[5.6]	外:タタキ 内:ナデ・薄頭底	外:にぶい模 内:にぶい模	3mm (白・薄)		
339	壺	SA14・15	(5.9)	2.3	[8.4]	外:ミガキ 内:ミガキ・ナデ	外:にぶい模 内:にぶい模	2mm (白・薄)	体軸中央に隼孔の可能性 角空洞7染銀色に染らす	
340	壺	SA14・15	(8.6)		[2.8]	外:ナデ 内:ハケメ	外:壁 内:灰褐色	3mm (白)		
341	壺	SA14・15	(7.5)		[2.8]	外:ハケメ 内:ハケメ	外:にぶい模 内:にぶい模	1mm (白)		

表 8. 今房遺跡出土遺物観察表 (縦文・弥生土器 8)

342	鉢	SA14・15		[5.7]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	1mm (白・褐)	高林		
343	鉢	SA14・15		[3.7]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:浅黄褐色 内:浅黄褐色	1mm (褐)	浅林		
344	壺	SA14・15		[4.6]	外:ハケメ (磨耗) 内:ハケメ (擦耗)	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	3mm (白・褐)			
345	壺か	SA14・15		[4.5]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	9mm (白・褐・透明)			
346	壺	SA14・15		[6.2]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	5mm (白・褐・透明)			
347	壺	SA14・15		[4.3]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい黄褐色 内:透	3mm (白・透・黑)			
348	壺	SA14・15	3.8	[3.4]	外:ナダ 内:ナダ	外:透 内:透	4mm (白・透)			
349	壺	SA14・15		[3.0]	外:ナダ 内:ナダ	外:透 内:にぶい褐色	4mm (白・褐)			
350	壺	SA14・15	4.5	[3.2]	外:ナダ 内:不規 (摩耗)	外:透灰 内:透灰	3mm (白・透)	深井 (外)		
351	高环	SA14・15	(13.1)	[9.0]	外:ミガキ 内:ナダ	外:浅黄褐色 内:浅黄褐色	3mm (白・褐・透明)	深井 (内)		
第37回	355	高环	SA16	[7.9]	外:ミガキ 内:ナダ	外:浅黄褐色 内:浅黄褐色	2mm (褐)	毎間塚4 (脚部)		
	356	壺	SA16	[3.6]	外:ナダ 内:ナダ・ハケメ	外:浅黄褐色 内:研磨痕	2mm (褐)	深井 (外)		
	357	破片	SA16	[2.0]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	2mm (褐)			
	358	壺	SA16	[2.8]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	2mm (褐)	深井 (外)		
	359	壺	SA16	[2.4]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	3mm (褐)			
	360	鉢	SA16	[7.7]	外:不規 (摩耗) 内:ナダ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	2mm (褐)			
	361	破片	SA16	[3.1]	外:ナダ 内:ミガキ	外:透黄褐色 内:透黄褐色	3mm (褐)			
	362	破片	SA16	[1.0]	外:ミガキ 内:土色	外:透 内:透	2mm (白・褐)			
	363	破片	SA16	[1.0]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	2mm (褐)			
第38回	364	壺	SA16	8.6	外:ナダ・指頭痕	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	4mm (褐)			
	365	鉢	SA16	2.4	[2.8]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	3mm (白・透)	手掘ね土器	
	366	鉢	SA16	(2.8)	[3.6]	外:ミガキ 内:ナダ	外:透黄褐色 内:透	2mm (褐)	手掘ね土器	
	367	凸起状土製品	SA16	-	-	外:ナダ 内:一	ごく微少	貫通孔		
	370	壺	SA17・18	13.8	3.9	12.2	外:ミガキ 内:ナダ	外:透 内:透	4mm (白・褐)	黒底 (外)
	371	壺	SA17・18	(12.4)	4.5	12.8	外:ナダ 内:ナダ・指頭痕	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	5mm (白・透・褐)	工具傷 (外底)
	372	鉢	SA17・18	13.6	3.4	11.4	外:ナダ 内:ナダ	外:透 内:透	3mm (白)	黒底 (内外)
	373	鉢	SA17・18	(12.65)	[11.7]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:透 内:透	2mm (白・透)	黒底 (外)	
	374	鉢	SA17・18	(7.7)	(4.0)	9.5	外:ナダ 内:ナダ	外:透 内:透	4mm (白・褐)	
第39回	375	壺	SA17・18	7.2	1.96	[9.3]	外:ミガキ 内:ナダ・指頭痕	外:透 内:透	1mm (白・褐)	底部中央に穿孔
	376	高环	SA17・18	[9.6]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:透 内:透	3mm (白・褐)	足見下脚片		
	377	鉢	SA17・18	[4.1]	外:ナダ 内:ナダ	外:透 内:透	3mm (白・透)			
	378	破片	SA17・18	[2.6]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:透 内:透	1mm (白・透)			
	379	破片	SA17・18	[4.1]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:透 内:透	2mm (白・透)	足見下脚片 焦 (外)		
	380	壺	SA17・18	[4.1]	外:ナダ 内:ナダ	外:透 内:透	2mm (白)			
	381	鉢か	SA17・18	(3.8)	[5.7]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい褐色 内:透	3mm (褐)		
	382	鉢か	SA17・18	(6.9)	[4.0]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい褐色 内:透	4mm (褐)		
	383	壺	ST01	(22.0)	(7.0)	[25.0]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	4mm (褐・米褐)	
第40回	384	壺	ST01	(23.2)	[10.8]	外:ハケメ・ミガキ 内:ナダ	外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	4mm (白)	深井 (外)	
	385	壺	ST01	(25.2)	[8.6]	外:ハケメ・ミガキ 内:ナダ	外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	5mm (白)		
	386	壺	ST01	(19.4)	[6.5]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	3mm (白・褐)	黒底 (内外)	
	387	壺	ST01	(20.0)	[5.65]	外:ハケメ・ナダ 内:ナダ	外:にぶい褐色 内:透	1mm (白・褐・透)	深井 (外)	
	388	壺	ST01	(25.2)	[6.8]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい黄褐色 内:透	3mm (白・褐)	深井 (外)	
	389	壺	ST01	(24.3)	[6.6]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい褐色 内:透	6mm (白)	深井 (外)	
	390	壺	ST01	(22.6)	[23.7]	外:ナダ 内:ナダ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	2mm (米褐)	深井 (外) 黒底 (外)	

表9. 今房遺跡出土遺物観察表(繩文・弥生土器9)

第40回	391	土器	ST01	(21.5)	7.9	27.7	外:ナゲ 内:ナダ	外:泥質壺 内:灰・黄褐色	2mm	塗(外) 黒底(内)
	392a	壺	ST01	(14.0)		[9.8]	外:ナゲ 内:ハゲメ	外:泥質壺 内:灰	6mm	塗(外) 灰(内)
392b	壺	ST01			4.8	[5.5]	外:ナゲ 内:ハゲメ	外:灰・灰褐色 内:灰	6mm	灰(外) 灰(内)
	393	壺	ST01	(20.6)		[13.5]	外:ナゲ 内:ハゲメ	外:灰・灰褐色 内:灰	6mm	灰(外) 灰(内)
394	壺	ST01		(28.6)		[10.3]	外:ナゲ 内:ナダ	外:灰・灰褐色 内:灰	5mm	塗(外) 灰(内)
	395	壺	ST01	(25.4)		[20.5]	外:ナゲ 内:ナダ	外:灰・灰褐色 内:灰	3mm	塗(外) 黑底(内)
396	壺	ST01		(23.9)		[12.6]	外:ハゲメ 内:ナダ	外:灰・灰褐色 内:灰	3mm	灰(外)
	397	壺	ST01	(19.0)		[11.0]	外:ナダ 内:ナダ	外:灰 内:灰	5mm	塗(内)
398	壺	ST01		(22.4)		[9.1]	外:ナゲ 内:ハゲメ	外:灰・灰褐色 内:灰	4mm	塗(外)
	399	壺	ST01	(21.9)		[6.7]	外:ナゲメ 内:ナゲメ	外:灰・灰褐色 内:灰白	3mm	塗(外)
400	壺	ST01		(38.5)		[4.6]	外:ハゲメ 内:ナダ	外:泥質 内:灰褐色	3mm	
	401	壺	ST01	(16.9)		[7.8]	外:ナゲメ 内:ナゲメ	外:灰・灰褐色 内:灰白	5mm	塗(内) 灰(内)
402	壺	ST01		15.1		[10.1]	外:ナゲ 内:ナゲ・指揮瓶	外:灰・灰褐色 内:灰・指揮瓶	6mm	
	403	壺	ST01	(18.0)	(6.4)	[13.2]	外:ナゲリ・ミ万年 内:ナダ	外:泥質壺 内:灰質壺	4mm	塗(外)
404	壺	ST01		16.65		[12.0]	外:ナダ 内:ナダ	外:灰 内:灰	2mm	
	405	壺	ST01	(21.2)		[6.8]	外:ナゲ 内:ナラミガキ	外:灰 内:灰	2mm	塗(外) 黑底(内)
406	壺	ST01		18.8		[6.6]	外:ハラメ・ナゲ 内:ナラミガキ	外:灰 内:灰	2mm	塗(外)
	407	壺	ST01	(31.8)		[8.7]	外:ナラミガキ 内:ナラミガキ	外:灰・灰褐色 内:灰褐色	1mm	灰(外)
408	壺	ST01		(22.9)		[6.6]	外:ナゲ 内:ナラミガキ	外:灰 内:灰	1mm	灰(外) 黑底(内)
	409	壺	ST01			[9.1]	外:ナゲ・ヘラミガキ 内:ナラミガキ	外:灰・灰褐色 内:灰	2mm	灰(外)
410	壺	ST01		9.7		[12.6]	外:ナゲ 内:ナダ	外:泥質壺 内:泥質壺	4mm	塗(外) 黑底(内)
	411	壺	ST01	16.4		[12.26]	外:ナダ 内:ナダ	外:灰 内:泥質壺	3mm	
412a	壺	ST01		(12.0)		[9.0]	外:ナゲ 内:ナダ	外:泥質壺 内:灰	4mm	塗(外) 黑底(内)
	412b	壺	ST01			[7.2]	外:ナゲ 内:ナダ	外:泥質壺 内:灰	4.6mm	塗(外) 黑底(内)
413	壺	ST01		(16.6)		[19.6]	外:ハラメ 内:不規(墨脱)	外:灰・灰褐色 内:灰	2mm	灰(外) 墨脱(内)
	414	壺	ST01	11.9		[4.1]	外:ナゲ 内:ハゲメ	外:灰・灰褐色 内:灰	5mm	灰(外) 墨脱(内)
415	壺	ST01				[2.7]	外:ナガキ 内:ナガキ	外:泥質壺 内:泥質壺	1mm	複合口縫造 泥質波文(外)
	416	不明	ST01			[2.0]	外:ナガキ 内:ナガキ	外:泥質壺 内:泥質壺	1mm	泥質波文(外) 鉢形・便き不可
417	壺	ST01				[9.9]	外:ハラメ・ミ万年 内:ナゲ・指揮瓶	外:灰・灰褐色 内:灰・灰褐色	3mm	塗(外)
	418	壺	ST01			[10.4]	外:ナゲ 内:ナダ	外:灰 内:泥質壺	3mm	灰田原型 黑底(外)
419	壺	ST01				[18.7]	外:ナゲ 内:ナダ	外:泥質壺 内:灰白	2mm	塗(外)
	420	壺	ST01			[10.2]	外:不規(墨脱) 内:不規(墨脱)	外:灰 内:泥質壺	2mm	塗(外)
421	錐形有孔土器	ST01		(2.6)		[18.7]	外:ナゲ 内:ハゲメ	外:灰・灰褐色 内:灰・灰褐色	3mm	穿孔2枚(外)
	422	壺	ST01		(10.2)	[30.7]	外:ナゲ 内:ナダ	外:灰・灰褐色 内:灰	1mm	塗(外) 黑底(内)
423	破片	ST01				[4.1]	外:ナゲ 内:ナダ	外:灰 内:泥	3mm	
	424	破片	ST01			[3.2]	外:ナゲ 内:ミガキ	外:灰 内:泥	2mm	
425	壺	ST01				[14.7]	外:ナゲメ・指揮瓶 内:ナゲ	外:泥質壺 内:泥質壺	6mm	塗(外)
	426	鉢	ST01	3.1		[8.9]	外:不規(墨脱) 内:ナゲ	外:泥 内:泥	4mm	塗(内)
427	鉢	ST01				[5.1]	外:ナゲメ 内:ナゲ	外:灰・灰褐色 内:灰	4mm	塗化物(内)
	428	壺	ST01			[5.4]	外:ナゲメ 内:ナゲメ	外:泥質壺 内:泥質壺	4mm	塗(内)
429	壺	ST01		(6.6)		[6.8]	外:ナゲ・ハラメ 内:ナゲ	外:灰・灰褐色 内:灰	7mm	化物(内)
	430	壺	ST01	8.1		[3.6]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:泥質壺 内:泥質壺	8mm	
431	鉢	ST01				[5.0]	外:ナゲ 内:ナゲ	外:泥質壺 内:泥質壺	3mm	塗(外) 手標紅土器 底部付近変形
	432	高坪	ST01			[28.6]	外:ナゲ 内:ミガキ・ナゲ	外:泥質壺 内:泥質壺	2mm	

表 10. 今房遺跡出土遺物観察表 (縄文・弥生土器 10)

434	甌	ST02	(24.5)	7.9	[29.2]	外: ナデ 内: ナデ	外: 灰白 内: 淡黄褐	2mm (白・黒)	甌 (内外)
435	甌	ST02	(27.0)		[21.6]	外: ナデ 内: ナデ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	2mm (透明)	甌 (外)
436	甌	ST02	22.1		[19.1]	外: ナデ 内: ナデ	外: 灰白 内: 淡黄	4mm (透・黒)	甌 (外) 黒斑 (内)
437	甌	ST02	(32.2)		[15.2]	外: ナデ 内: ナデ	外: 灰 内: 黄褐	4mm (白・褐・透明)	甌 (外)
438	甌	ST02	(33.8)		[14.8]	外: ナデ 内: ナデ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	4mm (白・黒・透)	甌 (外)
439	甌	ST02	(16.7)	4.5	17.6	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい透 内: にぶい透	4mm (白・褐)	甌 (外)
440	甌	ST02	(23.8)		[8.1]	外: ナデ・ハケメ 内: ナデ	外: にぶい黄褐 内: 橙灰	3mm (白)	甌 (内)
441	甌	ST02	(23.0)		[8.7]	外: ナデ 内: ナデ	外: 灰白 内: 淡黄褐	4mm (白・褐・透明)	甌 (外)
442	甌	ST02	(25.4)		[14.0]	外: ハケメ 内: ナデ	外: 灰白 内: にぶい透	5mm (褐・黒・灰)	甌 (内外)
443	甌	ST02	(26.4)		[4.2]	外: ナデ・ハケメ 内: ナデ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	2mm (白・褐)	甌 (外)
444	甌	ST02	(20.6)		[3.0]	外: ナデ・ハケメ 内: ハケメ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	3mm (白・褐・透明)	甌 (外)
445	甌	ST02	(29.4)		[7.2]	外: 不明 (媒) 内: 指認度・ナデ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	4mm (白・透)	甌 (外)
446	甌	ST02	(31.0)		[4.7]	外: ナデ・ハケメ 内: ナデ・指認度	外: にぶい透 内: にぶい黄褐	2mm (白・褐・透明)	甌 (外)
447	甌	ST02	(18.0)		[10.0]	外: ナデ 内: ナデ	外: 明黄褐 内: 明黄褐	3mm (白・透)	甌 (外) 黑分 (内外)
448	甌	ST02	(26.0)		[13.7]	外: ナデ 内: ナデ	外: 褐白 内: 不明	1mm (白・透)	甌 (外) 黑斑 (内)
449	甌	ST02	(20.4)		[12.3]	外: ハケメ 内: ナデ	外: にぶい透 内: にぶい黄褐	4mm (白・灰・水滴)	甌 (外)
450	甌	ST02	(18.0)		[12.8]	外: ハケメ 内: ナデ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	3mm (白・褐)	甌 (外)
451	甌	ST02	(18.7)		[7.9]	外: ナデ・ハケメ 内: ナデ・ハケメ	外: にぶい透 内: にぶい透	3mm (白・透)	甌 (外)
452	甌	ST02	25.7		[21.05]	外: ハケメ 内: ハケメ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	2mm (皮・赤褐色)	甌 (外) 黑分 (内)
453	甌	ST02	14.6		[11.0]	外: ハケメ 内: ハケメ	外: にぶい透 内: にぶい黄褐	4mm (透・黒)	甌 (外) 黑斑 (内)
454	甌	ST02	14.5	3.8	11.7	外: ハケメ 内: ナデ	外: 灰白 内: 淡黄褐	3mm (褐)	甌 (外)
455	甌	ST02	(27.2)		[6.3]	外: ナデ 内: ナデ・ハケメ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	2mm (白・褐)	甌 (外)
456	甌	ST02	(25.4)		[30.4]	外: ナデ 内: ナデ	外: 程 内: 暗	2mm (白・赤褐色)	甌 (内外)
457	甌	ST02	20.1	7.5	22.7	外: ナデ・ハケメ 内: ナデ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	5mm (白・褐・透明)	甌 (外) 黑斑 (内)
458	甌	ST02	(21.1)		[13.8]	外: ナデ→ハケメ 内: ハケメ	外: 淡黄褐 内: にぶい黄褐	5mm (白・透)	甌 (外) 鉄分 (外)
459	甌	ST02	(23.8)		[6.2]	外: ナデ・ミガキ 内: ナデ	外: にぶい黄褐 内: にぶい黄褐	2mm (白・透)	甌 (外) 黑斑 (外)
460	甌	ST02	(20.5)		[11.8]	外: ナデ 内: ハケメ→ナデ	外: にぶい透 内: にぶい透	3mm (白)	甌 (外) 黑斑 (内)
461	甌	ST02	(21.0)		[8.3]	外: ハケメ 内: ハケメ・指認度	外: 灰白 内: 灰白	5mm (工具痕)	甌 (外) 黑斑 (内)
462	甌	ST02	(16.3)		[4.9]	外: ナデ 内: ナデ・指認度	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	3mm (白・褐・透明)	甌 (外)
463	甌	ST02	(18.2)		[7.6]	外: ナデ 内: ナデ・ハケメ	外: にぶい透 内: 不透明	2mm (白・透)	甌 (外)
464	甌	ST02	(24.3)		[10.8]	外: ナデ 内: ナデ	外: 壓 内: 壓	3mm (白・赤褐色)	甌 (外)
465	甌	ST02	(22.0)		[4.1]	外: ナデ・ハケメ 内: ハケメ (墨透)	外: にぶい透 内: 淡黄褐	3mm (白・透)	甌 (外)
466	甌	ST02	(24.6)		[4.3]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい透 内: にぶい透	8mm (白・褐)	甌 (外)
467	甌	ST02	(25.8)		[6.6]	外: ナデ・ハケメ 内: ナデ・ハケメ	外: にぶい透 内: にぶい透	4mm (白・褐)	ハケメ吹製底+削突穴? (口唇部) 甌 (外)
468	甌	ST02	(24.3)		[6.2]	外: ハケメ 内: ナデ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	3mm (白・褐)	甌 (外) 鉄分 (外)
469	甌	ST02	(18.6)		[10.0]	外: ナデ 内: ナデ	外: 灰白 内: にぶい黄褐	1mm (透)	甌 (外)
470	甌	ST02	(26.1)		[8.3]	外: ナデ 内: ナデ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	2mm (透)	甌 (外)
471	甌	ST02	(20.9)		[4.9]	外: ナデ 内: ナデ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	2mm (白・褐・透明)	甌 (外)
472	甌	ST02	(22.6)		[6.0]	外: ナデ 内: ナデ	外: 壓 内: にぶい透	2mm (白・褐・透明)	甌 (外)
473	甌	ST02	(22.5)		[3.4]	外: ナデ・ハケメ 内: ナデ・ハケメ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	3mm (白・褐・透明)	甌 (外)
474	甌	ST02	(16.8)		[6.8]	外: ミガキ 内: ナデ→ミガキ	外: にぶい透 内: にぶい透	2mm (白・透)	甌 (外)
475	甌	ST02	12.7	4.3	10.5	外: ミガキ 内: ナデ	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	8mm (白・透)	木製底 (外底)
476	甌	ST02	8.8		[10.6]	外: ハケメ 内: ナデ	外: 淡黄褐 内: 淡黄	2mm (赤褐色)	
477	甌	ST02	(10.6)		[6.4]	外: ハケメ 内: ナデ	外: 壓 内: 壓	2mm (赤褐色)	

表 11. 今房遺跡出土遺物観察表(縄文・弥生土器 11)

478	盃	ST02	(14.0)	[5.5]	外: ハケメ+押ナゲ 内: ナゲ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	4mm 3mm		
479	盃	ST02	(11.1)	[6.0]	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	4mm		
480	盃	ST02	(10.2)	[6.2]	外: ナゲ+ハケメ 内: ナゲ+押頭板	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	3mm 3mm		
481	盃	ST02	10.4	[5.8]	外: ハケメ 内: ハケメ	外: 淡褐色 内: 淡褐色	2mm 2mm		
482	盃	ST02	13.1	5.7	[35.0]	外: つちミガキ 内: ナゲ	外: 淡黄褐色 内: 黑褐色等	3mm 2mm	黒斑(か)
483	盃	ST02	(14.6)	(5.4)	34.0	外: ハケメ 内: ナゲ	外: 淡褐色 内: にぶい黄褐色	2mm 3mm	黒斑(内)
484	盃	ST02	(11.8)		[4.0]	外: ナゲ+ハケメ 内: ナゲ	外: 淡褐色 内: 淡褐色	3mm 3mm	淡褐色(白・褐色)
485	盃	ST02	(14.4)		[3.6]	外: ハケメ 内: ナゲ	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	3mm 3mm	(白・青・透明)
486	盃	ST02	(12.2)		[4.0]	外: ハケメ 内: ナゲ	外: 淡褐色 内: 淡褐色	3mm 3mm	(墨・青・透明)
487	盃	ST02	(12.0)		[6.1]	外: ナゲ 内: 不明(擦耗)	外: 淡褐色 内: 淡黄褐色	3mm 3mm	(白・褐・透明)
488	盃	ST02	(6.3)		[11.0]	外: つちミガキ 内: ナゲ	外: にぶい黄褐色 内: 淡褐色	3mm 3mm	赤色斜面(白) 輪幅直(白) 墨(外)
489	盃	ST02	7.65	1.4	15.95	外: ナゲ 内: ナゲ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	1mm 1mm	墨(外)
490	盃	ST02	(3.9)		[15.7]	外: ミガキ 内: クシリ	外: にぶい黄褐色 内: 淡褐色	5mm 5mm	(灰・青)
491	盃	ST02	(8.2)	(4.1)	[22.4]	外: ミガキ 内: 丁目ナゲ+ハケメ	外: 淡褐色 内: 淡黄褐色	3mm 3mm	墨直(白)
492	盃	ST02	(13.1)		[17.2]	外: ハケメ 内: ハケメ+ナゲ	外: 淡褐色 内: 淡黄褐色	2mm 2mm	長頸段
493	盃	ST02	(12.6)		[9.0]	外: つちミガキ 内: ナゲ+ミガキ	外: 淡褐色 内: 淡黄褐色	2mm 2mm	(白・褐・透明)
494a	盃	ST02	(15.6)		[11.45]	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 淡褐色 内: 淡黄褐色	1mm 1mm	横合(墨直 墨直(外))
494b	盃	ST02		6.0	[21.6]	外: つちミガキ 内: ナゲ	外: 淡褐色 内: 淡褐色	1mm 1mm	墨直(外)
495	盃	ST02	(15.4)		[12.5]	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 淡褐色 内: 淡褐色	4mm 4mm	墨合(墨直 墨直(外))
496	盃	ST02	12.2		[3.4]	外: ハケメ+ナゲ 内: ハケメ+ミガキ	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	2mm 2mm	複合(墨直)
497	盃	ST02	(25.6)		[6.9]	外: ハケメ+ミガキ 内: ハケメ+ミガキ	外: 淡褐色 内: 淡褐色	3mm 3mm	複合(墨直 墨直(外))
498	盃	ST02			[14.6]	外: ナゲ+ヘラミガキ 内: ナゲ	外: 淡褐色 内: 淡褐色	3mm 3mm	墨直(白)
499	盃	ST02			[9.0]	外: ナゲ+ミガキ 内: ナゲ	外: 淡褐色 内: にぶい黄褐色	3mm 3mm	墨直(白)
500	盃	ST02			[7.70]	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 淡褐色 内: 灰白	3mm (白・灰)	
501	盃	ST02			[11.1]	外: 不明(擦耗) 内: ナゲ	外: 淡褐色 内: 淡褐色	4mm 4mm	墨直(外)
502	盃	ST02			[10.3]	外: ハケメ 内: ハケメ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	5mm 5mm	(灰・褐)
503	盃	ST02			[10.7]	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	2mm (白・褐)	墨直(外)
504	盃	ST02			[8.4]	外: ハケメ+ナゲ 内: ナゲ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	5mm (白・褐・透明)	沈殿文(外)
505	盃	ST02			[7.4]	外: ナゲ 内: ナゲ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	3mm (灰・褐)	
506	高杯	ST02	(25.6)	(17.0)	16.7	外: ミガキ 内: ミガキ+ナゲ	外: にぶい黄褐色 内: ナゲ	3mm (白・透明)	上下3才(3.7) 住(内)底原(内)
507	高杯	ST02	(24.6)		[2.9]	外: ナゲ+ミガキ 内: ナゲ	外: 淡褐色 内: にぶい黄褐色	3mm (白・褐)	
508	高杯	ST02			[11.0]	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	2mm (金雲母・白)	华丸(底部) 墨直(外)
509	高杯	ST02			[3.8]	外: ミガキ 内: ナゲ	外: 淡褐色 内: 淡褐色	5mm (白・褐)	
510	高杯	ST02			[7.2]	外: ハケメ+ミガキ 内: ナゲ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	3mm (白・褐・透明)	沈殿状(外)
511	高杯	ST02			[8.0]	外: ミガキ(擦耗) 内: ナゲ	外: 淡黄褐色 内: にぶい黄褐色	3mm (白・褐・透明)	沈殿状(外)
512	盃	ST02	(8.0)	1.5	6.5	外: ナゲ 内: 押頭板	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	2mm (白・褐・透明)	半端ね土器 墨直(外)
513	帶か	ST02	(8.0)		[4.6]	外: ハケメ+押頭板 内: ハケメ	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	3mm (白)	半端ね土器 墨直(外)
514	盃	ST02			2.1	外: ミガキ 内: ミガキ	外: 淡褐色 内: 淡褐色	3mm (白・褐)	
515	鉢	ST02			[6.2]	外: ハケメ 内: ハケメ	外: にぶい黄褐色 内: 淡褐色	4mm (灰・褐)	
516	盃	ST02			[17.6]	外: ハケメ 内: ハケメ	外: にぶい黄褐色 内: 淡褐色	5mm (白・褐)	墨(外)
517	碗片	ST02			[1.8]	外: ナゲ 内: ナゲ	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	1mm (白・透明)	浅口自突部(外) 底(外)墨直(内)
518	便	ST02			[1.0]	外: ハケメ 内: ハケメ	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	3mm (白・褐)	灰(外) 黑底(外)
519	種?	ST02			[4.9]	外: ナゲ 内: ナゲ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	2mm (透明)	灰(外) 黑底(外)
520	盃	ST02			[8.2]	外: ハケメ 内: ハケメ+ナゲ	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	5mm (白・褐・透明)	保(外) 部分(外) 炭化物(内)

表12. 今房遺跡出土遺物観察表(縦文・弥生土器 12)

521	甌	ST02	6.3	[11.6]	外:ハケメ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色 (灰・褐色)	
522	甌	ST02	5.1	[5.6]	外:ハケメ・ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	4mm
523	甌	ST02	6.6	[4.0]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	3.8mm 黒斑(外)
524	甌	ST02	6.2	[8.4]	外:ナデ 内:ハケメ・ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	6mm 黒化物(内)
525	甌	ST02	8.4	[12.0]	外:ハケメ・ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色 (白・透明・赤褐色)	
526	甌	ST02	7.6	[8.6]	外:ハケメ・指模版 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:馬蹄	3mm以下
527	甌	ST02	7.5	[3.1]	外:ハケメ 内:ナデ	外:灰黃 内:灰黃	2mm以下 黒斑(外)
528	甌	ST02	6.6	[9.0]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色 (灰・墨・赤褐色)	
529	甌	ST02	4.2	[5.1]	外:ナデ 内:ナデ	外:楕 内:にぶい黄褐色	3mm
530	甌	ST02	4.2	[3.6]	外:ハケメ 内:ナデ	外:檻 内:にぶい黄褐色 (透明)	
531	鉢形有孔土器	ST02	(4.2)	[4.0]	外:ナデ 内:ナデ	外:浅黃褐色 内:楕	5mm (白・褐色) 穿孔(外底)
532	甌	ST02	7.1	[17.0]	外:ハケメ 内:ナデ	外:明滅灰 内:にぶい黄褐色	5mm 黒斑(内・外底)
533	甌	ST02	4.0	[19.7]	外:ナデ→ミガキ 内:ナデ	外:黄褐色 内:にぶい黄褐色	3mm 黒斑(外)
534	甌	ST02	3.5	[16.0]	外:ナデ 内:ナデ	外:灰黃 内:浅黃褐色	1mm (白・透明・灰) 黒(外)
535	甌	ST02	(2.7)	[14.5]	外:ミガキ 内:ナデ	外:にぶい楕 内:にぶい楕	4mm (白・褐色) 黒斑(外)
536	甌	ST02	6.1	[3.4]	外:ナデ 内:ナデ	外:楕 内:にぶい黄褐色	3mm
537	甌	ST02	3.1	[16.1]	外:ハケメ 内:ナデ	外:楕 内:にぶい楕 (白・褐・褐色)	7mm
538	甌	ST02	4.3	[12.2]	外:ハケメ 内:ナデ	外:にぶい楕 内:楕	2mm 灰(外)
539	甌	ST02	(4.0)	[6.2]	外:ハケメ→ナデ	外:にぶい楕 内:にぶい黄褐色 (白・褐色・透明)	3mm 黒斑(外)
540	甌	ST02	6.6	[9.9]	外:ミガキ 内:ミガキ	外:にぶい楕 内:墨	2mm
541	甌	ST02	8.2	[8.0]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	1mm
542	舞台	ST02	(23.3)	[8.5]	外:ハケメ→ナデ 内:ハケメ・ナデ	外:浅黃褐色 内:浅黃褐色 (白・褐色)	3mm 灰・4
543	舞台	ST02	(19.8)	[8.0]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい楕 内:浅黃褐色	2mm (白・褐色・透明)
544	舞台	ST02	(16.0)	[2.2]	外:ナデ 内:ナデ	外:楕 内:にぶい黄褐色 (白・褐色・透明)	1mm 黒斑(内)
545	舞台	ST02	(20.0)	[4.6]	外:ナデ→ミガキ 内:ナデ→ミガキ	外:浅黃褐色 内:浅黃褐色	3mm (白・透明)
546	舞台	ST02	(23.8)	[15.6]	外:ナデ・ミガキ 内:ハケメ→ミガキ	外:にぶい楕 内:にぶい楕	5mm (白・透明) 上下4ずつ。(解説)
547	舞台	ST02	(21.6)	[14.9]	外:ハケメ 内:ナデ	外:浅黃褐色 内:浅黃褐色	2mm (白・褐色・透明) 上と下
554	甌	ST03	36.7	10.8	38.6 外:ハケメ	外:にぶい楕 内:にぶい楕 (白・透明)	5mm 不定所處(外)
555	甌	ST03	(41.6)	[16.9]	外:ハケメ 内:ハケメ	外:楕 内:楕	4mm (白・褐色)
556	甌	ST03	(34.8)	[23.65]	外:ナデ→ミガキ 内:ナデ→ミガキ	外:浅黃褐色 内:浅黃褐色 (白・褐色)	4mm 黒(外)
557	甌	ST03	38.4	[22.0]	外:ハケメ→ナデ 内:ナデ	外:浅黃褐色 内:浅黃褐色 (白・褐色)	5mm (白・褐色)
558	甌	ST03	(23.8)	[18.05]	外:ナデ 内:ハケメ→ナデ	外:楕 内:浅黃褐色 (白・褐色)	3mm 黒(外)
559	甌	ST03	(19.1)	5.8	20.6 外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色 (白・褐色)	3mm 黒(外)
560	甌	ST03	(20.6)	(8.3)	30.0 外:ナデ 内:ナデ	外:楕 内:楕 (白・褐色)	1mm 黒(外)
561	甌	ST03	17.6	6.8	21.7 外:不明(塵耗)	外:楕 内:にぶい黄褐色 (白・褐色)	3mm 注目形
562	甌	ST03	(34.6)	[10.1]	外:ハケメ・ナデ 内:ハケメ	外:楕 内:楕 (白・褐色)	5mm 3mm
563	甌	ST03	(19.4)	[9.8]	外:ナデ 内:ナデ→ハケメ	外:にぶい楕 内:にぶい楕 (白・褐色・透明)	4mm 体(外)
564	甌	ST03	(21.4)	[7.2]	外:ハケメ 内:不明(塵耗)	外:楕 内:楕 (白・褐色・透明)	3mm 体(外)
565	甌	ST03	(27.4)	[5.4]	外:ナデ 内:ナデ	外:にぶい楕 内:にぶい楕 (白・褐色・透明)	3mm 體(外)
566	甌	ST03	(15.6)	[9.6]	外:ナデ→ハケメ 内:ハケメ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色 (白・褐色・透明)	2mm 3mm 体(外) 黑斑(内)
567	甌	ST03	(17.9)	[6.8]	外:ハケメ 内:ハケメ	外:にぶい楕 内:にぶい楕 (白・褐色)	1mm 体(外)
568	甌	ST03	(19.4)	[8.7]	外:ハケメ・工具痕 内:ナデ	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色 (白・透明)	3mm 体(外)
569	甌	ST03	(17.4)	[7.8]	外:ナデ 内:ハケメ	外:にぶい楕 内:にぶい楕 (白・褐色)	2mm 3mm 体(外)
570	甌	ST03	(30.0)	9.3	[26.3] 外:ハケメ 内:ハケメ	外:にぶい楕 内:にぶい楕 (白・褐色)	3mm 体(外) 黑斑(内)

表13.今房遺跡出土遺物觀察表(縄文・弥生土器 13)

第50回	571	茎	S703	(28.6)	[4.8]	外: ハゲヌ 内: ナガ	外: 横 内: 縦 外: 黒端 内: ナダ	3mm (白・褐色・透明)	縦(外)	
	572	茎	S703	(19.6)	[2.2]	外: ハゲ 内: ナダ	外: 黒端 内: ナダ	2mm (白・透明)	縦(外)	
	573	茎	S703	(19.5)	[10.4]	外: ハゲ・ハケヌ 内: ナダ・ハケヌ	外: 横 内: 淡黃端 外: ハゲ 内: ナダ	2mm (白・褐色) 2mm (白・褐色)	縦(外)	
	574	茎か	S703	(15.1)	[5.0]	外: ハゲ 内: ナダ	外: 淡黃端 内: ナダ	3mm (白・透明)	黒底(外)	
	575	茎	S703	(16.5)	[7.6]	外: ハゲ・ナダ 内: ナダ	外: 横 内: 縦 外: ハゲ 内: ナダ	4mm (白・褐色・透明)	縦斜状底(内)	
	576	茎	S703	(17.2)	[8.5]	外: ナダ	外: 横 内: 縦 外: ハゲ 内: ナダ	3mm (白・褐色) 4mm (白・透明)		
	577	茎	S703		[13.2]	外: ナダ 内: ナダ	外: 横 内: 縦 外: ハゲ 内: ナダ	5mm (白・透明・横)		
	578	軸	S703	13.8	6.9	外: ナダ 内: ナダ・ハケヌ	外: 淡黃端 内: 黑端 外: ハゲ 内: ナダ	5mm (白・透明・横) 2mm (白・褐色) 4mm (白・透明)	底物化(内)	
	579	軸	S703	17.6	6.4	外: ナダ 内: ハケヌ	外: 横 内: 縦 外: ハゲ 内: ナダ	4mm (白・透明) 2mm (白・褐色) 4mm (白・透明)	縦(外・外底) 黒底(外底)	
	580	軸	S703	(40.0)	12.8	24.1	外: ハゲ・ミガキ 内: ハケヌ	外: 横 内: 縦 外: ナダ 内: ナダ	4mm (白・透明) 2mm (白・褐色) 3mm (白・透明)	黒底(外)
	581	茎	S703	(18.0)	[8.6]	外: ナダ 内: ナダ・ミガキ	外: 横 内: 淡黃端 外: ナダ 内: ナダ	5mm (白・透明) 3mm (白・透明)		
	582	軸	S703	(33.4)	[4.5]	外: ナダ	外: 横 内: 縦 外: ナダ 内: ナダ	5mm (白・透明) 3mm (白・透明)		
第51回	583	茎	S703	(14.0)	3.5	29.5	外: ナダ 内: ナダ	外: 淡黃端 内: 淡黃端 外: 淡黃端 内: 淡黃端	2mm (白・透明) 2mm (白・透明) 2mm (白・透明)	縦(内)
	584	茎	S703		[33.16]	外: ハゲ 内: ナダ・ハケヌ	外: 横 内: 淡黃端 外: ナダ 内: ナダ	2mm (白・透明) 3mm (白・透明)	黒底(外)	
	585	茎	S703	(9.1)	[7.0]	外: ミガキ 内: ナダ	外: 淡黃端 内: 淡黃端 外: ナダ 内: ナダ	3mm (白・透明) 3mm (白・透明)	長頭型 黒底(外)	
	586	茎	S703		[16.4]	外: ナダ	外: 横 内: 淡黃端 外: ナダ 内: ナダ	3mm (白・透明) 3mm (白・透明)	縦斜(外) 深底(内)	
	587a	茎不	S703	(47.4)	[12.9]	外: ハゲミガキ 内: ハゲミガキ	外: 明黄色 内: 淡黃端 外: ハゲミガキ・ハケヌ 内: ナダ・ハケヌ	1mm (白・透明) 1mm (白・透明) 1mm (白・透明)	断面 底物(内)	
	587b	茎河	S703		[19.1]	[12.1]	外: ハゲミガキ 内: ナダ・ハケヌ	外: 淡黃端 内: 淡黃端 外: ナダ 内: ナダ	1mm (白・透明) 1mm (白・透明)	底物 底物(外)
	588	茎河	S703	(36.6)	[14.2]	外: ミガキ 内: ミガキ	外: 淡黃端 内: 淡黃端 外: ナダ 内: ナダ	1mm (白・透明) 1mm (白・透明)	断面	
	589	茎河	S703		[9.0]	外: ミガキ 内: ナダ	外: 淡黃端 内: ナダ 外: ナダ 内: ナダ	3mm (白・透明) 3mm (白・透明) 1mm (白・透明)	手握ねじ上部 底物(外底)	
	590	軸	S703	6.2	1.8	3.9	外: ナダ・指頭端 内: ナダ・指頭端	外: 淡黃端 内: 淡黃端 外: 淡黃端 内: 淡黃端	3mm (白・透明) 3mm (白・透明) 2mm (白・透明)	手握ねじ上部 底物(外底)
	591	軸	S703		1.6	[6.0]	外: ナダ 内: ナダ	外: 淡黃端 内: 淡黃端 外: 淡黃端 内: 淡黃端	2mm (白・透明) 2mm (白・透明)	手握ねじ上部 底物(外)
	592	茎	S703		[4.1]	外: ナダ	外: 淡黃端 内: ナダ	1mm (白・透明)	縦(外)	
	593	茎	S703		[6.0]	外: ハゲヌ	外: 黑色 内: ハゲヌ	3mm (白・透明)	縦(外)	
	594	軸	S703		[4.9]	外: ナダ	外: 淡黃端 内: ナダ	3mm (白・透明) 3mm (白・透明)	縦(外)	
	595	茎	S703		[4.1]	外: ナダ 内: ナダ	外: 淡黃端 内: 淡黃端 外: 淡黃端 内: 淡黃端	2mm (白・透明) 1mm (白・透明)	断面目立端(外)	
	596	破片	S703		[1.6]	外: ナダ・ミガキ 内: ナダ	外: 黑 内: 淡黃端 外: 淡黃端 内: ナダ	1mm (白・透明) 1mm (白・透明)	ひがし? (外)	
	597	茎	S703		[8.7]	外: ナダ 内: ナダ	外: 淡黃端 内: 淡黃端 外: 淡黃端 内: 淡黃端	3mm (白・透明) 3mm (白・透明)		
	598	破片	S703		[1.6]	外: ミガキ 内: ナダ	外: 淡黃端 内: 淡黃端 外: 淡黃端 内: 淡黃端	1mm (白・透明) 1mm (白・透明)		
	599	軸	S703		[7.1]	外: ハゲ 内: ナダ	外: 淡黃端 内: 淡黃端 外: 淡黃端 内: 淡黃端	2mm (白・透明) 2mm (白・透明)	縦(内外)	
	600	茎折か	S703		[3.8]	外: ミガキ 内: ミガキ	外: 淡黃端 内: 淡黃端 外: 淡黃端 内: 淡黃端	1mm (白・透明) 1mm (白・透明)		
	601	茎	S703	(9.9)	[26.0]	外: ナダ	外: 淡黃端 内: ナダ	1mm (白・透明)	縦(外)	
	602	茎	S703	7.4	[15.5]	外: ナダ	外: 横 内: ナダ	3mm (白・透明)		
	603	茎	S703	(8.4)	[10.5]	外: ハゲヌ	外: 淡黃端 内: 淡黃端 外: ナダ	4mm (白・透明) 4mm (白・透明)	縦(外)	
	604	茎	S703	5.3	[7.8]	外: ハゲヌ	外: 横 内: ナダ	2mm (白・透明)	底物化(内)	
	605	茎	S703	(8.2)	[9.5]	外: ハゲヌ	外: 淡黃端 内: ナダ	3mm (白・透明)	黒底(内)	
	606	茎	S703	8.95	[22.3]	外: ナダ	外: 横 内: ナダ	3mm (白・透明)	縦(外) 黒底(内)	
	607	茎	S703	5.6	[7.7]	外: ハゲヌ	外: 淡黃端 内: ナダ	4mm (白・透明)		
	608	茎	S703	(8.4)	[3.4]	外: ハゲヌ	外: 横 内: ハゲヌ	2.5mm (白・透明・横)	底物(外)	
	609	茎	S703	6.8	[13.8]	外: ハゲヌ	外: 横 内: ハゲヌ	4mm (白・透明)		
	610	茎	S703	(7.7)	[12.25]	外: ミガキ 内: ナダ	外: 横 内: ナダ	2mm (白・透明)		
	611	茎	S703	(8.1)	[2.0]	外: ミガキ 内: ナダ	外: 淡黃端 内: 淡黃端	5mm (白・透明)	底物(外底)	
	612	茎	S703	3.5	[3.8]	外: ミガキ 内: ハゲヌ	外: 明黄色 内: 淡黃端	3mm (白・透明)		
	613	茎	S703		[4.6]	外: ハゲヌ 内: ハゲヌ	外: 淡黃端 内: 淡黃端	3mm (白・透明)	底物(外底)	

表 14. 今房遺跡出土遺物観察表 (縦文・弥生土器 14)

	614	落	ST03	1. 5	[3. 5]	外: ハケメ 内: ハケメ	外: にぶい種 内: にぶい種	3mm (白・褐色・透明)	黒斑(外)
	615	高坪	ST03		17. 1	[12. 6]	外: ミガキ 内: ナデ	外: にぶい黄緑 内: 褐	黒孔3(外)
	616	高坪	ST03		(19. 3)	[13. 6]	外: 不明(断続) 内: ナデ	外: 淡黄緑 内: 淡黄緑	黒斑(外)
第52回	617	高坪	ST03		(17. 0)	[8. 4]	外: ナデ(摩耗) 内: ナデ	外: にぶい種 内: にぶい種	2mm (白・透明・褐色)
	618	高坪	ST03		(16. 4)	[4. 5]	外: ハケメ→ミガキ 内: ナデ→ミガキ	外: にぶい種 内: にぶい種	3mm (透明・褐色)
	619	高坪	ST03		(17. 5)	[2. 2]	外: ナデ 内: ナデ	外: 稲 内: 稲	2mm (白・透明)
	620	高坪	ST03		(24. 3)	[5. 1]	外: ナデ 内: ハケメ→ミガキ	外: にぶい種 内: にぶい種	1mm (白・透明)
	621	高坪	ST03		15. 1	[9. 4]	外: ナデ 内: ナデ	外: 淡黄緑 内: 淡黄緑	3mm (白・透明・褐色)
	622	穂	SC08		6. 7	[7. 0]	外: ハケメ・ナデ 内: ハケメ	外: にぶい種 内: 稲	1mm (白・透明)
	640	穂	5 c 帯		(27. 6)	[18. 2]	外: ハケメ 内: ハケメ・ナデ	外: にぶい種 内: にぶい種	2mm (白・褐色)
	641	穂	5 c 帯		(25. 7)	[7. 6]	外: ナデ→ハケメ 内: ハケメ	外: 黄 内: 淡黄緑	3mm (白・褐色)
第53回	642	穂	5 c 帯		(24. 6)	[10. 9]	外: ナデ 内: ナデ	外: 淡黄緑 内: 淡黄緑	4mm (白・褐色・透明)
	643	穂	5 c 帯	n=17	(22. 4)	[10. 6]	外: ナデ	外: 灰褐色 内: にぶい種	5mm (白)
	644	穂	5 c 帯	S002	(29. 8)	[8. 0]	外: ハケメ 内: ハケメ	外: 淡黄緑 内: にぶい黄緑	3mm (白・褐色)
	645	穂	5 c 帯	S002	(15. 0)	[6. 3]	外: ハケメ・ナデ 内: ハケメ→ナデ	外: 灰黃 内: 灰黃	3mm (白・褐色・透明)
	646	穂	5 c 帯	w=17	(18. 0)	[8. 3]	外: ナデ→ミガキ(剥離) 内: ミガキ(剥離)	外: 灰白 内: 棕	2mm (白・褐色・透明)
	647	穂	5 c 帯	w=22	(11. 0)	[12. 2]	外: ミガキ 内: ミガキ	外: 棕 内: にぶい種	3mm (白・褐色)
	648	鉢	5 c 帶	S002	(17. 5)	[9. 1]	外: ナデ 内: ハケメ→ナデ	外: 淡黄緑 内: 淡黄緑	4mm (白・褐色・透明)
	649	鉢	5 c 帯	SX01 波打込み	(14. 4)	[4. 2]	外: 不明(断続) 内: 不明(断続)	外: 灰褐色 内: 灰褐色	4mm (白・褐色)
	650	鉢	5 c 帯	T=12 波打込み	(10. 2)	[4. 8]	外: ハケメ→ナデ 内: ナデ	外: 棕 内: にぶい種	4mm (白・褐色・透明白)
	651	鉢	5 c 帯	SX01 波打込み	(8. 6)	[6. 2]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい種 内: にぶい種	4mm (白・褐色)
第62回	652	鉢	5 b 帯		2. 4	[8. 0]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい種 内: にぶい種	混合口縫直
	653	高坪	5 b 帯	S004	(29. 4)	[3. 8]	外: ミガキ 内: ミガキ	外: 淡黄緑 内: 完	2mm (白・褐色)
	654	器台	5 b 帯	S005	(31. 8)	[3. 4]	外: ナデ→ミガキ 内: ミガキ(摩耗)	外: 淡黄緑 内: 淡黄緑	2mm (白・褐色)
	655	器台	5 c 帯	w=22	(10. 9)	[10. 9]	外: ミガキ 内: ナデ	外: 成黄緑 内: 淡黄緑	4mm (白・褐色・透明白)
	656	高坪	5 c 帯	w=17	(10. 6)	[6. 2]	外: ミガキ 内: ナデ	外: 灰白 内: 淡黄緑	3mm (白・褐色・透明白)
	657	穂	5 c 帯	w=18	(9. 5)	[4. 0]	外: ハケメ 内: 不明(断続)	外: にぶい種 内: にぶい種	4mm (灰褐色・墨)
	658	穂	5 c 帯	w=18	(5. 6)	[5. 6]	外: ナデ・ハケメ 内: ナデ	外: にぶい種 内: にぶい種	2mm (白・褐色)
	659	鉢	5 c 帯	w=19	[1. 4]	[1. 4]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい種 内: にぶい黄緑	ごく微少
	660	台坪	5 c 帯	w=16	[5. 2]	[5. 2]	外: ミガキ 内: ミガキ	外: 棕 内: 棕	1mm (白・褐色)
	661	鉢	5 c 帯	p=15		[4. 1]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい種 内: にぶい種	2mm (白)
第63回	662	鉢	5 c 帯	n=15	[7. 6]	[7. 6]	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい種 内: にぶい種	4mm (白・褐色・灰)
	663	鉢	5 c 帯	n=16	5. 2	1. 4	外: ナデ 内: ナデ	外: にぶい種 内: にぶい種	2mm (白・褐色・透明白)
	664	穂	5 c 帯	n=15		[4. 0]	外: ミガキ 内: ミガキ	外: にぶい種 内: にぶい種	ごく微少
	665	穂	5 c 帯	n=15		[1. 9]	外: ナデ 内: ナデ	外: 棕 内: 棕	2mm (白・褐色・透明白)
	666	穂	5 c 帯	n=15		[1. 3]	外: ナデ 内: ナデ	外: 灰褐色 内: 灰褐色	1mm (白・褐色)
	667	穂	4 c 帶	n=15		[2. 9]	外: ハケメ 内: ナデ	外: にぶい黄緑 内: 橙	3mm (白)
	668	鉢	5 c 帯	n=18		[9. 2]	外: 不明(断続) 内: 不明(断続)	外: 棕 内: 棕	2mm (白・褐色)
	669	鉢	5 c 帶	n=18		[3. 6]	外: ナデ 内: ナデ	外: 棕 内: 棕	4mm (白・褐色)
	670	穂か	5 c 帶	SX01 波打込み	(6. 0)	[3. 6]	外: ハケメ 内: ナデ	外: 棕 内: 棕	3mm (白・褐色・褐色)
	671	穂か	5 c 帶	SX01 波打込み	(6. 5)	[4. 6]	外: ハケメ 内: ナデ	外: にぶい種 内: 棕	3mm (白・褐色・透明白)
第63回	672	穂	5 c 帶	w=22	7. 2	[8. 0]	外: ナデ 内: ナデ	外: 棕 内: にぶい種	7mm (白・褐色)
	673	穂	5 c 帶	w=22	(6. 2)	[4. 1]	外: ナデ 内: 不明(断続)	外: 棕 内: 淡黄緑	7mm (白・褐色・透明白)
	674	高坪	5 b 帯	o=16		[3. 6]	外: ハケメ 内: ナデ	外: にぶい種 内: にぶい種	3mm (白・褐色・透明白)

表 15. 今房遺跡出土遺物観察表(縄文・弥生上器 15)

675	高所 5001 5.3.場	(21.0)	[12.1]	外：不明 (黒鉛) 内：不明 (黒鉛)	外：淡黄褐色 内：淡黃褐色	3mm (白・褐・透明)	脚部
700	理	3区	[41.0]	[20.6]	外：ナゲメ 内：ナゲ	外：に古い壊 内：壊	3mm (赤褐色・角開口) 孔み目突起 (外)
701	理	A区	[33.0]	[6.6]	外：ナゲメ 内：ナゲ・ハケメ	外：に古い壊 内：壊	3mm (赤褐色・角開口) 孔み目突起 (外)
702	理	六所	[14.35]	14.0	外：ナゲ 内：ナゲ・ミガキ	外：淡黄褐色 内：淡黃褐色	2mm (赤褐色) 風化 (外)
703	理	A区	[14.0]	[3.9]	外：ナゲ 内：ナゲメ	外：に古い壊 内：に古い壊	2mm (白・褐・透明) (白・褐)
704	理	A区		[2.17]	外：ナガキ 内：ミガキ	外：壊 内：壊	3mm (褐)
705	理?	不明		[3.5]	外：ナゲ 内：ナゲ	外：に古い壊地 内：壊	2mm (灰・褐)
706	理	不明		[5.1]	外：ナゲ 内：ハケメ・ナゲ	外：に古い壊地 内：壊	2mm (白・赤褐色) ハケメ状施 (口唇)
707	脚	A区	(19.2)	[4.0]	外：ナゲ 内：ナゲ	外：に古い黄褐色 内：に古い黄褐色	3mm (白・赤褐色) 風化 (内外)
708	理	A区	(31.6)	[4.2]	外：ミガキ 内：ミガキ	外：に古い黄褐色 内：に古い黄褐色	3mm (白・灰) 風度 (外)
709	理	A区		[7.6]	外：ナゲメ 内：ナゲ	外：に古い壊 内：に古い壊	4mm (赤褐色) 風化 (外)
710	高所	不明		[3.4]	外：ナゲ 内：ナゲ	外：壊 内：壊	1mm (白・透明)
711	理	A区		[3.6]	外：ナゲ 内：ナゲ	外：に古い黄褐色 内：淡黃褐色	1mm (白) 集合・堆積
712	不明	A区		[2.0]	外：ナゲ 内：ナゲ	外：壊 内：淡黃褐色	3mm (白・褐) 断面・破き不均 断面 (外)
713	理	A区		[14.9]	外：ナゲメ 内：ナゲメ	外：淡黃褐色 内：淡黃褐色	4mm (白・褐・透明) 風 (外) 風分 (外)
714	理	不明	(28.2)	[6.8]	外：ナゲ 内：ナゲ	外：淡黃褐色 内：淡黃褐色	2mm 口唇
715	破片	A区		[4.1]	外：ナゲ 内：ナゲ	外：に古い壊 内：に古い壊	5mm 孔み目突起 (外) 風 (外)
716	破片	不明		[6.9]	外：ナゲ 内：ナゲ	外：に古い壊 内：に古い壊	1mm (白・褐) 孔み目突起 (外) 風 (外)
717	理	A区	(13.4)	[3.7]	外：ナゲメ 内：ナゲメ	外：淡黃褐色 内：淡黃褐色	1mm (白・褐・透明) 風 (外)
718	土製品か	A区	-	-	外：ナゲ 内：-	外：灰褐色 内：-	2mm (白・透明) 口唇
719	理	A区		[3.7]	外：ナゲメ 内：ナゲ	外：壊 内：に古い壊	3mm (白・赤褐色) 風 (外)
720	理	A区		[2.4]	外：ナゲメ 内：ハケメ	外：淡黃褐色 内：淡黃褐色	1mm (白・透明)
721	理	不明		[3.3]	外：ナゲメ 内：ミガキ	外：に古い壊 内：に古い壊	1mm (白・透明・褐) 風 (外)
722	高所	A区		[3.1]	外：ナゲ 内：ナゲ・ミガキ	外：壊 内：壊	3mm (白・透明・褐)
723	理	A区		[2.2]	外：ナゲ 内：ナゲ	外：淡黃褐色 内：淡黃褐色	2mm (白・褐・透明) 口唇強烈出し 風 (外)
724	脚か	A区	4.2	[3.2]	外：ナゲメ・ナゲ 内：ナゲ	外：壊 内：壊	2mm (白・褐・透明)
725	理	不明	6.0	[3.2]	外：不明 (黒鉛) 内：ナゲ	外：に古い壊 内：に古い壊	3mm (褐) ナゲ (外底)
726	理	A区	6.6	[6.7]	外：ナゲメ 内：ナゲ	外：に古い壊 内：に古い壊	3mm (白・褐) 風 (外)
727	高所	A区	(17.6)	[5.5]	外：ナゲ・ミガキ 内：ナゲ	外：に古い壊 内：に古い壊	3mm (白・褐・透明) 穿孔 (外)
730	破片	B区 SC04		[7.1]	外：ナゲーナゲ 内：ナゲ	外：に古い壊 内：に古い壊	1mm (白・透明) 風 (外) 風化 (内) 縄文土器
731	脚	B区 SC04		[4.2]	外：ミガキ 内：ミガキ	外：淡黃褐色 内：淡黃褐色	1mm (褐) 縄文土器

第64回

表 16. 今房遺跡出土遺物観察表(石器)

部 団	番号	器種	出土遺跡 所位	法量				石材	備考
				長軸(cm)	短軸(cm)	最大厚(cm)	重量(g)		
第7 回	6	石斧	SC01	15.64	5.60	3.54	444.5	砂岩	磨製石斧
	7	磨石	SC01	13.17	9.90	6.63	1340.5	西陣石安山岩	多孔質
	8	磨石	SC01	12.91	9.22	5.51	1020.0	砂岩	
第9 回	17	石斧	SC05	-	-	1.61	87.8	砂岩	打製石斧 半尖
	18	石刀	SC05	-	-	4.84	165.1	西陣石安山岩	欠損品
	19	石劍	SC05	6.86	6.93	2.56	164.9	砂岩	全劍被斬?
	20	石劍	SC05	6.31	4.12	2.43	86.1	砂岩	
	21	磨石	SC05	-	4.61	-	67.9	西陣石安山岩	欠損品
	22	用途不明品	SC05	-	-	0.99	17.9	砂岩	石斧 残矢石か
第15 回	137	砾石	SA01	22.10	7.58	7.12	1785.0	砂岩	表面鋸痕
	138	砾石	SA01	-	-	0.69	11.5	砾灰質頁岩	欠損品
	139	砾石	SA01	6.33	3.32	0.37	8.6	頁岩	欠損品か
	140	砾石	SA01	26.90	13.41	6.31	2950.0	砂岩	
	141	砾石加工品	SA01	11.18	5.98	5.39	97.3	砾石	穿孔有り
	142	砾石加工品	SA01	1.83	1.81	3.26	47.1	砾石	穿孔有り 嵌縫牙孔 穴あら
第23 回	143	砾石加工品	SA01	-	-	4.64	74.7	砾石	
	144	砾石加工品	SA01	12.26	10.66	4.09	123.7	砾石	牛糞に埋み 黄油丸1朱青透孔1 一部欠損
	233	石包丁	SA05	-	4.54	0.56	27.5	頁岩	
	234	石鍔	SA05	9.64	4.68	1.43	91.6	砂岩	
	235	石劍	SA05	7.34	6.13	1.83	115.9	砂岩	同上使用痕 殴打と使用か 水流孔 透かし孔
	236	砾石加工品	SA05	10.70	9.26	3.30	91.2	砾石	鉛石と 使用か
第24 回	237	石劍	SA05	6.17	5.66	0.93	44.8	砂岩	鉛石と 使用か
	247	砾石	SA07	-	-	-	98.4	砂岩	欠損品
	248	砾石	SA07	-	-	0.56	14.0	砾灰質頁岩	欠損品
	249	石包丁	SA07	-	2.34	0.35	4.2	頁岩	すり切り?
第28 ・ 29 ・ 31 回	279	石鍔	SA09	11.46	7.54	5.51	622.0	砂岩	欠損品
	292	磨石	SA10	14.95	9.89	2.65	699.0	砂岩	
	309	石鍔	SA11	2.85	1.48	0.47	1.6	砾灰質頁岩	
	310	石刀	SA11	26.40	20.40	8.20	13200.0	砂岩	
	311	砾石	SA11	16.95	7.42	6.80	1399.0	砂岩	砾石と兼用か
	312	砾石	SA11	17.10	8.96	7.48	2496.0	砂岩	
第37 回	327	石鍔未製品	SA12	6.39	3.58	0.56	13.6	頁岩	
	328	石鍔未製品	SA12	5.76	3.40	0.74	15.1	頁岩	
	330	砾石加工品	SA13	6.34	6.03	2.64	46.1	砾石	表面剝削
	34	磨石	SA14・15	12.22	10.21	-	1260.0	砂岩	殴打と使用か 一部欠損
	363	砾石加工品	SA14・15	9.04	5.89	3.49	54.9	砾石	側面削除痕高 凹合?充満セラ
	354	砾石加工品	SA14・15	6.54	3.75	2.61	16.8	砾石	表面剥離(穴貫通)
	368	砾石	SA16	11.43	3.72	2.38	163.5	砂岩	
	369	砾石	SA16	29.18	10.30	7.00	3110.0	砂岩	砾石と兼用か 表面剥離 半欠損
	433	砾石加工品	ST01	-	-	3.63	75.0	砾石	
第42 ・ 47 回	548	砾石加工品	ST02	10.02	6.84	3.90	90.6	砾石	表面剥離貫通穿孔
	549	磨石	ST02	6.94	6.68	2.78	170.5	砂岩	
	550	砾石加工品	ST02	13.97	10.37	5.41	298.0	砾石	表面剥離貫通孔

表 17. 今房遺跡出土遺物觀察表(石器 2)

551	磨石加工品	ST02	-	6.90	4.17	40.7	輕石	欠損品
562	磨石加工品	ST02	4.71	4.17	1.61	10.3	輕石	表面未貫通穿孔
563	石皿	ST02	-	-	5.35	1862	砂岩	欠損品
第52回	622	磨石	ST03	-	-	92.9	砂岩	一部残存
	623	用途不明品(礫片か)	ST03	-	-	0.82	40.5	頁岩
	624	磨石	ST03	10.13	8.09	2.14	269.0	砂岩
	625	磨石加工品	ST03	3.32	1.79	0.68	1.6	輕石
	626	磨石加工品	ST03	15.29	13.61	5.20	347.0	輕石
	627	磨石加工品	ST03	8.87	7.50	3.72	95.8	輕石
	628	磨石加工品	ST03	8.46	5.81	4.46	72.1	輕石
	631	輕石加工品	SK01	20.90	7.60	5.60	300.0	輕石
第53回	632	磨石加工品	SK01	23.10	14.48	8.55	1176.0	輕石
	683	磨對石鏡	SG010	2.48	2.65	0.35	3.2	頁岩
	684	石鏡未製品?	SK01	3.70	3.69	0.26	2.9	頁岩
	685	石包丁	5 b 番	3.49	2.56	0.62	7.6	頁岩
	686	石包丁	5 b 番	-	-	0.20	2.0	頁岩
	687	石包丁	5 a 番	-	-	0.63	8.0	頁岩
	688	スクレーパー	5 b 番	-	-	1.62	61.3	灰岩 ホルンフェルス 欠損品
	689	磨石	5 a 番	-	-	0.56	24.6	頁岩
第63回	690	磨石	5 a 番	-	-	0.48	17.9	頁岩
	691	石盤	5 a 番	-	4.56	2.16	75.6	砂岩
	692	石盤	5 a 番	-	3.84	1.46	48.5	砂岩
	693	磨石	5 c 番	10.76	8.79	6.10	976.0	輕石と適用用
	694	磨石	5 a 番	8.18	6.90	3.08	265.0	砂岩
	695	磨石	5 c 番	10.67	3.84	3.47	222.0	砂岩
	696	磨石	SK01	-	-	3.46	242.0	砂岩
	697	土盛り具?	5-13	11.39	6.21	1.99	142.0	灰岩 ホルンフェルス
第64回	698	磨石加工品	5 h 番	13.34	10.26	4.23	189.3	輕石
	699	磨石加工品	SK03	11.97	10.71	7.03	265.0	輕石
	728	磨製石盤	不明	2.81	[2.71]	0.28	2.8	頁岩
	729	磨石加工品	不明	25.8	15.7	12.6	1090.0	輕石
	813	スクレーパー	5 b 番	8.64	6.62	1.54	116.8	チャート
	814	石皿	BP	-	-	-	405.0	閃開石安山岩
	815	磨石加工品	1-2	14.37	9.23	7.73	370.0	輕石
	816	磨石加工品	5 b 番	14.31	10.76	8.69	500.0	輕石
第73回	817	磨石加工品	5 b 番	12.89	10.26	7.28	330.0	輕石
								割れ口ヒ熱(底)

表18. 今房遺跡出土遺物観察表(古代・中世I)

番号	種類	出土遺物 層位	法量(cm) 〔残存〕(復元)	口幅 底幅	高さ	調査		色調	胎土	備考		
						外:	内:					
630	土師器 灰	SX01			(7.2) [5.6]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	ごく微少	ヘラ切り			
633	青磁 口縁片	S002			[1.9]	外: 青釉 内: 青釉	外: 明礬灰 内: 明礬灰	1mm (墨)				
634	土師器 蓋台付灰	S005			[3.2]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 暗 内: 暗	2mm (白)				
635	土師器 蓋台付灰	S005			[7.8] [3.25]	外: 茶褐色 内: 茶褐色	外: ロクロナデ+ミガキ 内: ロクロナデ	にぶい度 2mm (白)				
636	青磁 灰	S005			[15.0]	外: 茶褐色 内: 茶褐色	外: オリーブ灰 内: オリーブ灰	微少	度通り	駆けけ(見込み) 定期點検		
637	青磁 灰	SP01			(4.7) [2.6]	外: 茶褐色 内: 茶褐色	外: 灰白 内: 灰白	微少	ヘラ切り			
638	青磁 灰	S002			(11.9) [4.2]	外: 茶褐色 内: 茶褐色	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	1mm	ヘラ切り	定期點検		
639	白磁 燒成印	S002		11.4	5.8	3.2	外: 茶褐色 内: 茶褐色	外: 淡黃褐色 内: 淡黃褐色	微少	ヘラ切り 表面無釉		
646	土師器 灰				6.4	[1.7]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 淡黃褐色 内: 淡黃褐色	ごく微少	ヘラ切り		
677	土師器 灰				6.1	6.25	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 墓 内: 墓	微少	円盤状高台 煤(内外)		
678	土師器 蓋台付灰				[2.6]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 淡黃褐色 内: 淡黃褐色	2mm (白・純)				
679	青磁 灰	p-15 5a層	(18.0)		[5.6]	外: 茶褐色 内: 茶褐色	外: オリーブ灰 内: オリーブ灰	ごく微少	ヘラ切り	定期點検		
680	青磁 灰	p-16 4層	(16.0)		[3.3]	外: 茶褐色 内: 茶褐色	外: 灰オリーブ 内: 灰オリーブ	微少	ヘラ切り	定期點検		
681	白磁 灰	j-16 4層	(12.0)		(7.2)	3.3	外: 茶褐色 内: 茶褐色	外: 灰白 内: 灰白	ごく微少	細びり		
682	須恵器 灰	p-16 4層			[9.8]	[7.5]	外: ナデ+格子目タスキ 内: ロクロナデ	外: 純 内: 純	2mm (純)			
732	土師器 灰	B区 S002			[1.25]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 淡黃褐色 内: 淡黃褐色	ごく微少				
733	土師器 灰	B区 S002			[1.1]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 灰白 内: 灰白	ごく微少	ヘラ切り			
734	土師器 灰	j-1 5b層	(13.0)	6.3	4.4		外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 暗 内: 暗	3mm (暗)	ヘラ切り+ナデ(外底)		
735	土師器 灰	j-1 5b層	(12.0)	4.3	4.4		外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 暗 内: 暗	ごく微少	ヘラ切り		
736	土師器 灰	j-2 5層	(13.0)		[3.8]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 灰白 内: 灰白	微少 (赤鉄)				
737	土師器 灰	j-2 5層	(12.2)		[5.7]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: にぶい梗 内: 梗	微少				
738	土師器 灰	j-2 5b層			6.5	[3.5]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: にぶい灰 内: 淡黃褐色	ごく微少	ヘラ切り+板状灰 煤(外底、内外)		
739	土師器 蓋台付灰	j-1 5b層			7.1	[5.5]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 暗 内: にぶい梗	6mm (暗)	ヘラ切り	円盤状高台	
740	土師器 灰	k-1 5b層			4.7	[2.5]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 灰白 内: 淡黃褐色	1mm (透明)	ヘラ切り		
741	土師器 灰	j-1 5b層			5.6	[1.8]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	ごく微少			
742	土師器 灰	k-1 5b層			8.6	[1.7]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 灰白 内: 灰白	ごく微少			
743	土師器 灰	j-2 5層			8.6	[2.0]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 灰褐色 内: にぶい梗	ごく微少 (赤鉄)			
744	土師器 蓋台付灰	b-2 5b層			6.6	[2.1]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 淡黃褐色 内: 淡黃褐色	ごく微少	ヘラ切り+板状灰(外底)		
745	土師器 灰	b-2 5b層			4.2	[1.0]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 淡黃褐色 内: 淡黃褐色	ごく微少	ヘラ切り	円盤状高台	
746	土師器 灰	j-2 5b層			4.9	[1.2]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 暗 内: 暗	1mm (白)	ヘラ切り		
747	土師器 蓋台付灰	j-2 5a層			5.7	[1.6]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 淡黃褐色 内: 淡黃褐色	ごく微少	ヘラ切り	円盤状高台か	
748	土師器 灰	k-1 5層			8.0	[1.7]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 灰白 内: 灰白	ごく微少	ヘラ切り		
749	土師器 灰	k-2 5b層			6.8	[2.1]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 淡黃褐色 内: 淡黃褐色	ごく微少	ヘラ切り		
750	土師器 蓋台付灰	j-2 5a層				[0.1]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 淡黃褐色 内: にぶい梗	ごく微少	真鍮孔2、末貫孔2		
751	土師器 蓋台付灰	j-1 5a層			6.6	[3.2]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: にぶい梗 内: にぶい梗	ごく微少	煤(火)		
752	土師器 蓋台付灰	j-1 5a層			7.9	[3.1]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: にぶい梗 内: 淡黃褐色	3mm 盛(火)			
753	土師器 k-2 5b層				8.2	[3.4]	外: ロクロナデ 内: ナデ+ミガキ	外: 暗 内: 一	5mm (暗・垂手)	段分(内)		
754	土師器 k-2 5b層				7.6	[2.6]	外: ロクロナデ 内: 不明(崩壊)	外: 淡黃褐色 内: --	3mm 盛(火)	黑斑(外底)		
755	土師器 小皿	i-2 5b層	(8.2)	7.0	1.1		外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: にぶい梗 内: にぶい梗	ごく微少	細切り		
756	土師器 盤	j-2 5b層				[4.2]	外: ナデ 内: ナデ・ケズリ	外: 淡黃褐色 内: 淡黃褐色	ごく微少	誠(内外)		
757	土師器 不明	B区			4.8	[2.1]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: 淡黃褐色 内: 淡黃褐色	3mm (赤鉄)	ヘラ切り		
758	土師器 灰	B区			5.2	[2.4]	外: 不明(崩壊)	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	微少 (白・赤鉄)	ヘラ切り		
759	土師器 灰	B区 不明			4.3	[1.2]	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	外: にぶい黄褐色 内: にぶい黄褐色	微少	ヘラ切り		

表 19. 今房遺跡出土遺物觀察表(古代・中世 2)

760	土器鉢 灰	B区 不明	(7.0)	[1.7] 外: 不明 (黒帶) 内: 不明 (黒帶)	外: に点入葉型 内: に点入葉型 外: に点入葉型 内: に点入葉型 外: に点入葉型 内: に点入葉型	微少 微少 微少 (赤錆・黒) 無度 (内)	ハラマリ	
761	土器鉢 灰	B区 不明		[2.6]	外: ロクロナダ 内: ロクロナダ	外: に点入葉型 内: に点入葉型 外: に点入葉型 内: に点入葉型 外: に点入葉型 内: に点入葉型	2.7mm 2.7mm 2.7mm 2.7mm 2.7mm 2.7mm	
762	土器鉢 灰	B区 不明		[1.6]	外: ロクロナダ 内: ロクロナダ	外: に点入葉型 内: に点入葉型 外: に点入葉型 内: に点入葉型 外: に点入葉型 内: に点入葉型	2.7mm 2.7mm 2.7mm 2.7mm 2.7mm 2.7mm	
763	土器鉢 灰	B区 不明		[2.6]	外: ロクロナダ 内: ロクロナダ	外: に点入葉型 内: に点入葉型 外: に点入葉型 内: に点入葉型 外: に点入葉型 内: に点入葉型	2.7mm 2.7mm 2.7mm 2.7mm 2.7mm 2.7mm	
764	深鉢 灰	A-2 5b層		[6.1]	外: 平底タタキ 内: 真具眞	外: 葉状 内: 葉状 外: 葉状 内: 葉状 外: 葉状 内: 葉状	1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm	
765	深鉢 灰	b-2 5レ層		[6.6]	外: 穴子目タタキ 内: 圆心凹凸基底直面	外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰	微少 微少 微少 微少 微少 微少	
766	深鉢 灰	b-2 5b層		[4.8]	外: 平底タタキ 内: 圆心凹凸基底直面	外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰	1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm	
767	深鉢 灰	b-1 5b層		[8.5]	外: 平底タタキ 内: 圆心凹凸基底直面	外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰	微少 微少 微少 微少 微少 微少	
768	深鉢 灰	b-2 5b層		[3.9]	外: 穴子目タタキ 内: 真具眞	外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰	1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm	
769	深鉢 灰	c-1 5b層		[4.6]	外: 平底タタキ 内: 平底タタキ	外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰	2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm	
770	深鉢 灰	i-2 5b層		[5.1]	外: 穴子目タタキ 内: 真具眞	外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰	1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm	
771	深鉢 灰	b-2 5b層	(7.6)	[1.9]	外: ナデサク調整 内: ナデサク調整	外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰	1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm	
772	深鉢 灰	k-2 5b層	(5.4)	[2.2]	外: 雰ケヌリ 内: 回転丸ケヌリ	外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰	2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm	
773	青磁 壺か 壺	II-1 5b層		[2.8]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	微少 微少 微少 微少 微少 微少	
774	青磁 壺か 壺	j-2 5a層		[2.1]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	微少 微少 微少 微少 微少 微少	
775	青磁 壺か 壺	j-2 5a層		[3.0]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	微少 微少 微少 微少 微少 微少	
776	青磁 壺か 壺	j-2 5a層		[2.0]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	微少 微少 微少 微少 微少 微少	
777	埴輪陶器 壺	i-2 5d層	(7.2)	[1.9]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	微少 微少 微少 微少 微少 微少	
778	埴輪陶器 壺	i-1 5b層	(7.2)	[1.6]	外: 雰味 内: 雰味	外: オリーブ灰 内: オリーブ灰 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	微少 微少 1mm 1mm 1mm 1mm	
779	埴輪陶器 小皿	j-2 5b層	(9.9)	4.25	[3.0]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm
780	深鉢 灰	j-1 5a層		[4.5]	外: ロクロナダ 内: 不明 (黒縁)	外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰	1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm	
781	深鉢 灰	e-2 5a層		[2.8]	外: ロクロナダ 内: ロクロナダ	外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰	2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm	
782	深鉢 灰	j-2 5a層		[8.4]	外: 雰味 内: ナデ	外: オリーブ黄 内: オリーブ黄 外: 黄灰 内: 黄灰 外: 黄灰 内: 黄灰	2mm 2mm (白・黒) (白・黒)	
783	漆戸戸 灰	e-2 5a層	(8.6)	[3.1]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	ごく微少 ごく微少 ごく微少 ごく微少 ごく微少 ごく微少	
784	白磁 碗	k-1 5a層	(15.2)	[4.2]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	微少 微少 微少 微少 微少 微少	
785	白磁 碗	k-1 5b層		[6.0]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	微少 微少 微少 微少 微少 微少	
786	白磁 碗	b-2 5b層		[3.9]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	微少 微少 微少 微少 微少 微少	
787	白磁 碗	j-2 5層		[4.4]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm	
788	白磁 碗	j-2 5a層		[6.3]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	微少 微少 微少 微少 微少 微少	
789	白磁 碗	i-2 5b層	(11.2)	6.1	3.4	外: 雰味 内: 雰味	外: オリーブ灰 内: オリーブ灰 外: オリーブ灰 内: オリーブ灰 外: オリーブ灰 内: オリーブ灰	1mm (黒) 1mm (黒) 1mm (黒)
790	白磁 皿	k-2 5b層		(4.2)	[1.5]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	微少 微少 微少 微少 微少 微少
791	各磁 皿	i-2 5b層		(7.4)	[1.7]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	無度 (内) 無度 (内) 無度 (内) 無度 (内) 無度 (内) 無度 (内)
792	青磁 瓶	b-2 5a層	(15.8)		[3.1]	外: 雰味 内: 雰味	外: 明瞭灰 内: 明瞭灰 外: 明瞭灰 内: 明瞭灰 外: 明瞭灰 内: 明瞭灰	1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm
793	青磁 瓶	j-2 5層		[5.6]	外: 雰味 内: 雰味	外: オリーブ黄 内: オリーブ黄 外: オリーブ灰 内: オリーブ灰 外: オリーブ灰 内: オリーブ灰	微少 微少 微少 微少 微少 微少	
794	青磁 瓶	b-2 5b層	(17.6)	[2.0]	外: 雰味 内: 雰味	外: 明瞭灰 内: 明瞭灰 外: 明瞭灰 内: 明瞭灰 外: 明瞭灰 内: 明瞭灰	1.2C% 1.2C%	
795	青磁 瓶	b-2 不明	(17.6)	[4.6]	外: 雰味 内: 雰味	外: オリーブ灰 内: オリーブ灰 外: オリーブ灰 内: オリーブ灰 外: オリーブ灰 内: オリーブ灰	1.2C% 1.2C% 1.2C% 1.2C% 1.2C% 1.2C%	
796	青磁 瓶	b-2 5a層	(15.6)	[5.0]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	微少 微少 微少 微少 微少 微少	
797	青磁 瓶	j-2 5a層	(13.8)	[2.7]	外: 雰味 内: 雰味	外: 明瞭灰 内: 明瞭灰 外: 明瞭灰 内: 明瞭灰 外: 明瞭灰 内: 明瞭灰	1.2C% 1.2C% 1.2C% 1.2C% 1.2C% 1.2C%	
798	青磁 口縁鉢片	k-1 5b層		[1.6]	外: 雰味 内: 雰味	外: 明瞭灰 内: 明瞭灰 外: 明瞭灰 内: 明瞭灰 外: 明瞭灰 内: 明瞭灰	1.2C% 1.2C% 1.2C% 1.2C% 1.2C% 1.2C%	
799	青磁 口縁鉢片	j-1 5a層		[1.6]	外: 雰味 内: 雰味	外: 明瞭灰 内: 明瞭灰 外: 明瞭灰 内: 明瞭灰 外: 明瞭灰 内: 明瞭灰	1.2C% 1.2C% 1.2C% 1.2C% 1.2C% 1.2C%	
800	青磁 口縁鉢片	k-2 5a層	(9.3)	[1.12]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	神奈 神奈 神奈 神奈 神奈 神奈	
801	青磁 口縁鉢片	j-2 5b層		[2.4]	外: 雰味 内: 雰味	外: 明瞭灰 内: 明瞭灰 外: 明瞭灰 内: 明瞭灰 外: 明瞭灰 内: 明瞭灰	神奈 神奈 神奈 神奈 神奈 神奈	
802	青磁 口縁鉢片	k-2 5a層		[1.3]	外: 雰味 内: 雰味	外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白 外: 淡白 内: 淡白	神奈 神奈 神奈 神奈 神奈 神奈	
803	青磁 口縁鉢片	k-2 5b層		[1.7]	外: 雰味 内: 雰味	外: 明オリーブ灰 内: 明オリーブ灰 外: 明オリーブ灰 内: 明オリーブ灰 外: 明オリーブ灰 内: 明オリーブ灰	神奈 神奈 神奈 神奈 神奈 神奈	

表 20. 今房遺跡出土遺物観察表 (古代・中世 3)

804	青磁 破片	[i-2 5 b 層]	[4. 6]	外：施釉 内：施釉	外：灰オーリーブ (黒) 内：オーリーブ	微少 (黒)	面花文 (内)
805	青磁 破片	[j-2 5 a 層]	[2. 8]	外：施釉 内：施釉	外：オーリーブ灰 内：オーリーブ灰	微少 (黒)	面花文 (内)
806	青磁 破片	[k-2 5 b 層]	6. 3	[1. 8] 内：施釉	外：施釉 内：施釉	外：オーリーブ灰 内：オーリーブ灰 3 mm (白)	内底面繪付け (印泥の圖)
807	青磁 破片	[k-2 5 b 層]	5. 5	[1. 7] 外：施釉 内：施釉	外：施釉 内：施釉	外：オーリーブ灰 内：オーリーブ灰	微少
808	青磁 破片	[k-2 5 b 層]	5. 6	[1. 6] 内：施釉	外：施釉 内：施釉	外：オーリーブ灰 内：オーリーブ灰	微少
809	青磁 合子・蓋	[k-2 5 b 層]	(7. 0)	[2. 2]	外：施釉 内：施釉	外：明暎灰 内：明暎灰	微少 (黒)
810	青白磁 山形鉢片	[k-2 5 b 層]		[3. 8]	外：施釉 内：施釉	外：明暎灰 内：明暎灰	微少 (黒)
811	青花 口縁鉢片	[k-2 5 b 層]		[1. 4]	外：施釉 内：施釉	外：灰白 内：灰白	绘付け (樹脂の圖)
812	浮き彫り 石器	[i-2 5 b 層]	(10. 9)	[3. 7] 内：-	外：- 内：-	外：- 内：-	複反り。外面花文

凡例

・色調は新版標準十色帖に依る。また、表中上段は外面、下段は内面の色調をあらわす。

・胎土欄には、鉱物粒の大きさを表記した。また、() 内には、含有鉱物の主色、名称を表記した。

・備考欄における () 内の文字は対象となる遺物の部位を表す。以下に示す。

外 = 外面 内 = 内面 内外 = 外面及び内面 外底 = 外底面 内底 = 内底面

Ex. 煤 (内外)、黒斑 (内・外底)= 内面に煤・黒斑、外面に煤、外底面に黒斑がみとめられる。

4.まとめ

今房遺跡の調査成果により、縄文時代後期から晩期、弥生時代後期から終末期、古代・中世の遺構が検出され、遺物が出土している。ここでは、調査成果に基づき各時代について概観する。

A. 縄文時代(後期～晩期)

縄文時代に帰属する土坑が7基検出され、そのうち4基の土坑(SC01、05、06、07)から遺物が出土している。時期をみると、SC01は縄文後期後葉から晩期初頭、SC05～07は縄文後期中葉ごろである。土坑の平面形態は円形を基調とし、規模は径1m前後である。横市地区遺跡群のなかでみると、鶴喰、肘穴、馬渡、江内谷、坂元B、星原遺跡において散発的ではあるが該期遺物が出土し、馬渡、星原遺跡では土坑も検出している。また、土坑の性格付けの一助として、SC06でリン・カルシウム分析をおこなったところ、埋土のリン酸含有量が自然層(土坑底外)の2倍前後の数値を示していることが判明した。このことは、リン酸を多く含む生物遺体が存在した可能性を示唆している(3-5 自然科学分析Ⅲ参照)。

B. 弥生時代(後期～終末期)

今房遺跡において弥生時代に帰属する遺物は、A区(旧A・C・D地区)で出土している。本調査A区は、第2次調査区(2002年調査)をはさみ東側(旧A・D地区)と西側(旧C地区)に分けられる。ここではA区を東西に分けそれぞれの様相を概観する。

A区東側の様相

もっとも普遍的に出土する甕をみると、様々なバリエーションが存在し、遺構ごとのまとまりを一概に看取できないものの、口縁部の屈曲にある程度の特徴を指摘できる。SA01・03・05、ST03では、胸部が弧状に張る甕(仮称A類)が多く出土している。一方、SA02、ST01・02では、A類と胴部に張りはなく砲弾状に窄まる甕(仮称B類)が数量的に拮抗して出土している。底部の形態に関しては、全形を窺える資料が少なく様相は不明瞭である。完形品から判断すると、甕B類は上底であるものが主体である(280、383、560など)が、A類は上底(35、250、561など)、平底(391、570)、中空の脚台(179、456)とバリエーションがある。A類は最大径の位置にばらつきがあることもふまると、數型式が含まれているといえよう。一方、胴部が大きく弧状に膨らむ甕(仮称C類)は、数量的にはもっとも少ないものの一定数存在する(58、469など)。(69)から判断すると、底部の形状は平底(外底面が若干窪む)である。器形をみた場合、A類やB類とは明らかに異なる印象をうけ、これらの甕の出現期についても今後検討する必要がある。

ST01からは重弧文長頸壺(418)や浅鉢(405～409)が出土している。後者は、体部は丸く口縁部が長い特徴をもち、外器面には丁寧なミガキが施されている。底部穿孔の深鉢(421)は宮崎県都城市の築池遺跡第4住居や同市加治屋遺跡3号住居からも出土している。特異なものとして、底部付近に粘土紐を鈎状に貼り付けた丸底と考えられる鉢がある(431)。類似資料は、熊本県植木町北無田遺跡7号住居から出土している。重弧文長頸壺や類似資料の出土する遺跡の帰属

時期から判断すると、ST01は弥生時代後期後半の時期を付与できる。ST01以外の遺構では共通して高壙が出土している。(85、506、587)をみると、口縁部が大きく外反し、脚部裾の端部が水平になっている。これは、松永幸寿氏の分類におけるA2類に該当し、氏の編年の3期～4期(弥生時代後期後葉前後)の範疇におさまる。また、SA05からは刻み目突帯の入る壺が数点出土しており、都城盆地の土器様相を考慮するとやや後出する感は否めない。いずれにしても、A区東側における遺構の帰属時期は弥生時代後期後半から時期的に降っても終末期までだと考えられる。なお、SA01で検出した炭化材を試料として放射性炭素年代測定をおこなった結果、土器から導き出した帰属時期よりも遡る年代が得られた(3-5自然科学分析1参照)。今房遺跡第2次調査の放射性炭素年代測定でも同様の結果が得られており、土器による相対年代との併用には慎重を要する。

石器組成をみた場合、竪穴住居からは工具・調理具・植物収穫具・狩猟具と比較的バランスよく出土している。SA07やSA11からは工具(砥石)と磨製石鏃未製品が共伴しており、セット関係を指摘できる。一方、周溝状遺構からは軽石を素材とした用途不明品が出土するなかで、磨石や石皿といった調理具が出土している。ST03では、炭化物の堆積も確認されていることから、周溝状遺構の性格を考えるうえでも注意すべき点と考えられる。

竪穴住居は12基検出されている。そのうち、平面プランが確認できたものは、円形住居(SA01、09、10)、方形住居(SA04、07、08)、円形を基調とした花弁形住居(SA05、11)、方形を基調とした花弁形住居(SA12)の9基である。間仕切りの突出壁を備えた花弁形住居は、当該期の都城盆地に多くみられ本遺跡もその例にもれない。円形・方形住居内の土器はほぼ完形で出土しており量も豊富なのに対し、花弁形住居内の土器は破片資料が主体を占め量も僅少である。これら住居内の遺物出土状況を考慮し、「住居」としての「性格」の相違を想定する必要があるだろう。

周溝状遺構は3基検出されている。全て方形プランで内区に施設はない。前述したST03も含め、炭化物の堆積が確認されていて火の使用が認められる。出土遺物をみると、重弧文長頸壺や直線で構成された文様が施された長頸壺(586)、大型の壺・高壙など祭祀的様相を予想させる平面、壺の出土率の高さや調理具を中心とした石器組成も看取できる。前述したように、従来の周溝状遺構の性格にも一考を要す必要があるとおもわれる。

A区西側の様相

A区西側からは6基の竪穴住居(SA13～18)が検出されている。このうちSA14・15とSA17・18は、切り合い関係にある竪穴住居である。しかし、ともに真上で切り合い、遺物も床面直上で出土するものが少なく、新古どちらの住居にともなう遺物かを垂直分布で言及するには難を要する。

SA14に伴う遺物のなかに小型の壺(339)がある。器壁が非常に薄く、外器面全体を光沢がでるほど研磨している。また、SA17・18には、同様の器形である小型壺(375)が出土しており、全面を磨き、体部中央に穿孔が確認できる。ともに精製土器に類するものと考えられ、(339)のような小型壺は、管見の限り類例がない。これは庄内式併行期のメルクマールとなる小型精製器

種(吉本 1993)に近い可能性がある。ただし、底部は明確な平底で丸底化しておらず、器形も異なることなど断定はできない。鉢をみると、内湾気味に立ち上がる口縁部と脚台がつく鉢(336、373)やST01出土のものよりさらに口縁部が長く体部が浅いと予想できる浅鉢(342、343)など、A区東側の様相と異なる。以上より、決定的な証左となる資料がないものの精製壺や脚台鉢の存在を考慮し、A区東側より時期的に降る可能性があるとするに留めておく。

竪穴住居は形態不明のものが多いが、A区東側でみられた花弁形住居は検出されていない。一方で、A区東側にはない長方形プランの住居(SA16)が検出されている。今房遺跡第2次調査区でも長方形プランの住居が検出されており両区の関係性が窺える。仮に、A区西側の帰属時期を首肯するならば、時期が降るにしたがって集落域も東から西へ移動した可能性がある。

C. 中世

中世では、A区において溝8条、土坑及び竪穴状遺構1基、掘立柱建物8軒が検出されている。掘立柱建物1~8の配置関係を棟(桁)方向ないし桁方向が等しいか否かで分けると、掘立柱建物1~3、7がaグループ、掘立柱建物4、5がbグループ、掘立柱建物6、8がcグループとなる。走行が明らかな溝1、2と掘立柱建物との軸線を比較すると、掘立柱建物グループcが溝に對し並行関係にあることから、同一時期の可能性が高い。

B区では水田跡および鉄状遺構が検出されている。第70図aの鉄状遺構は、同じ都城市の中尾遺跡や坂元B遺跡でも検出されている。両遺跡では小溝状遺構群として報告されており、「天地返し等の耕作痕」や「文明輕石災害後の復旧痕」という見方を示している。第70図aもそれに該当する可能性がある。一方で、第70図aの隣接地では乱雑に切り合った形で土坑群が検出されている(第70図b)。工具痕の方向をみると、第70図aは規則性をもっているのに対し、第70図bは打ち込む方向に規則性を看取できない。こういった検出状況の相違から「天地返し」における「目的」の相違について考察する余地があるだろう。出土遺物は一括資料が少なく、包含層中の遺物も層位的に不安定に出土する例が多いため、調査成果にあるように遺物ごとの帰属時期を示すに留める。

<報告書で引用・参考した文献および報告書>

木戸雅寿 1995 「石器」『概説 中世の土器・陶磁器』pp.511-521 真陽社

桑畠光博(編)1996 『加治屋遺跡2』 宮崎県都城市教育委員会

桑畠光博(編)2006 『坂元A遺跡・坂元B遺跡』 宮崎県都城市教育委員会

高橋浩子 2001 「第Ⅱ章 中尾遺跡の調査」『梅北佐土原遺跡 中尾遺跡 岩原遺跡』pp.35-118 宮崎県埋蔵文化財センター

中原幹彦・鶴嶋深雪・木村能生・植佐克(編)2003 『北無田遺跡』 松木町教育委員会

久松亮(編)2004 「今房遺跡(第2次調査)」 宮崎県都城市教育委員会

松永幸寿 2001 「宮崎平野部における弥生時代後期中葉～古墳時代中期の土器編年」『宮崎考古』第17号 pp. 1-39 宮崎考古学会

矢部喜多夫(編)2004 「薬池遺跡(第1～4次発掘調査) 十三東第2遺跡(第2次発掘調査)」 宮崎県都城市教育委員会

横山哲美(編)2000 「今房遺跡」『横山地区遺跡群』pp.104-109 宮崎県都城市教育委員会

吉本正典 1993 「日向の庄内式併用期の土器」『考古学ジャーナル』363 pp.22-27 ニューサイエンス社

森田紹 1995 「中世須恵器」『概説 中世の土器・陶磁器』pp.356-366 真陽社

山本信夫 2000 「太宰府名跡跡XV～陶磁器分類編」『太宰府市教育委員会



今房遺跡遠景(南から)



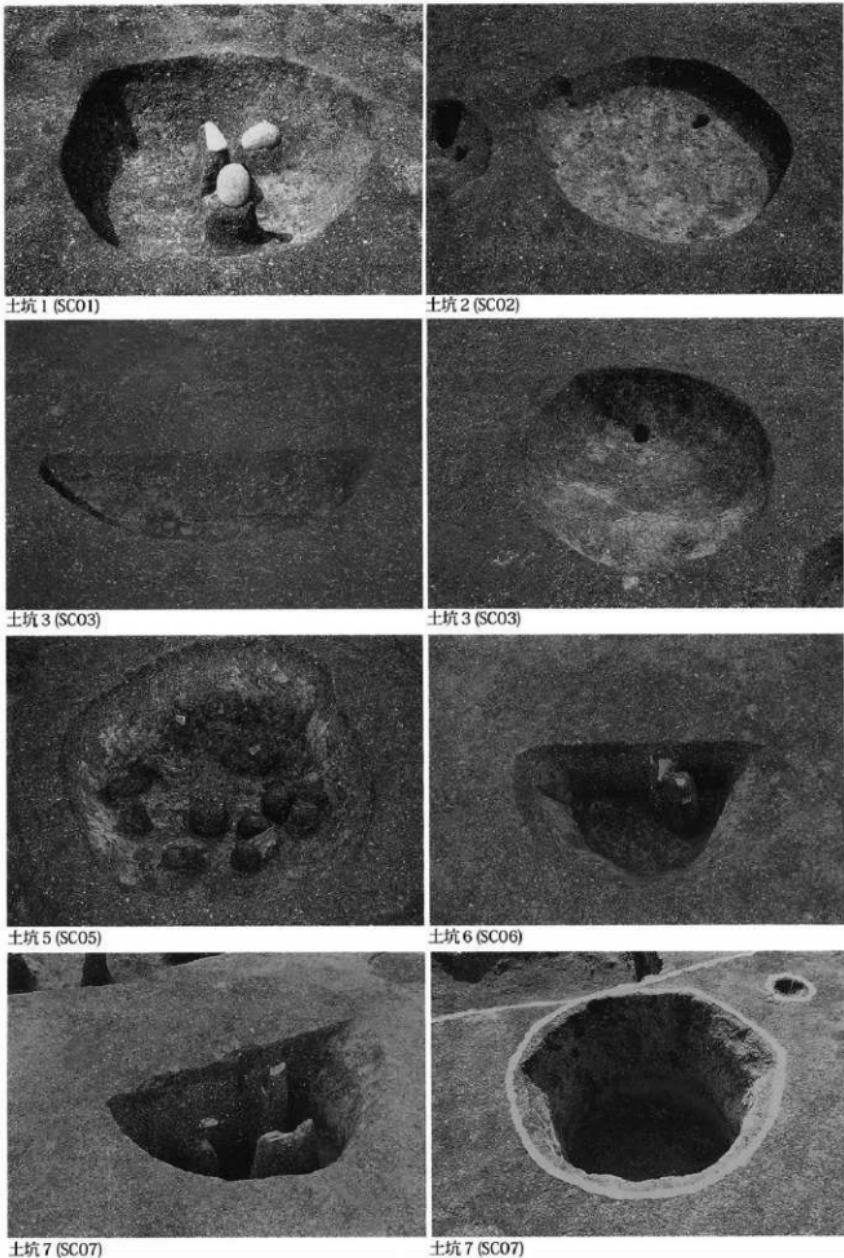
A区東側(旧A・D地区)全景



B 区全景



A 区西侧(旧 C 地区)全景





竪穴住居 1 (SA01)



竪穴住居 1 (SA01)



竪穴住居 2 (SA02)



竪穴住居 3 (SA03)



竪穴住居 4 (SA04)



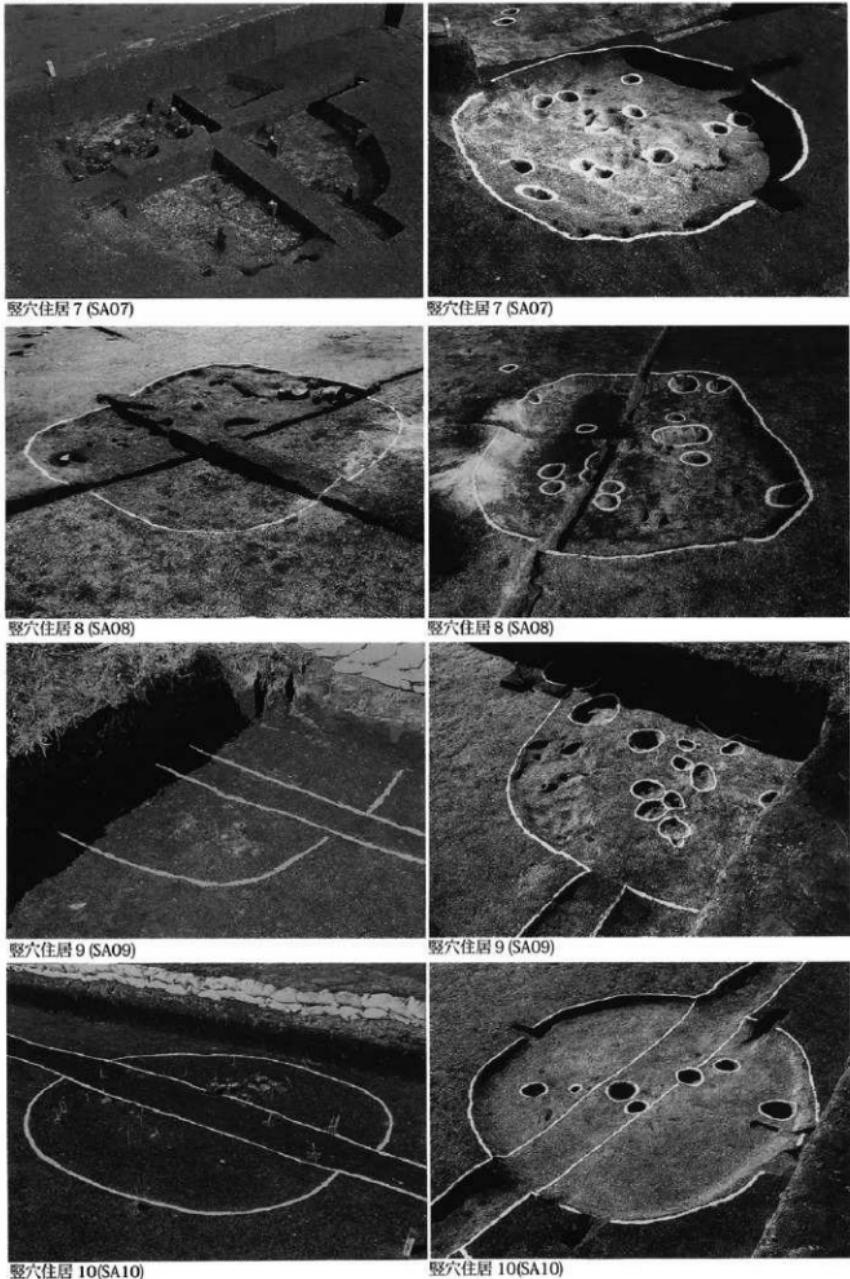
竪穴住居 5 (SA05)



竪穴住居 5 (SA05)



竪穴住居 5 (SA05)





竪穴住居 11(SA11)



竪穴住居 11(SA11)



竪穴住居 11(SA11)



竪穴住居 12(SA12)



竪穴住居 12(SA12)



竪穴住居 13(SA13)



竪穴住居 13(SA13)



竪穴住居 14,15(SA14,15)

写真図版 7



竪穴住居 14,15(SA14,15)



竪穴住居 14,15(SA14,15)



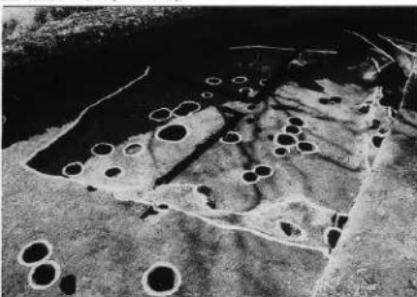
竪穴住居 16(SA16)



竪穴住居 17,18(SA17,18)



竪穴住居 17,18(SA17,18)



竪穴住居 17,18(SA17,18)



周溝状遺構 1 (ST01)



周溝状遺構 1 (ST01)



周溝状遺構 1 (ST01)



周溝状遺構 2 (ST02)



周溝状遺構 2 (ST02)



周溝状遺構 2 (ST02)



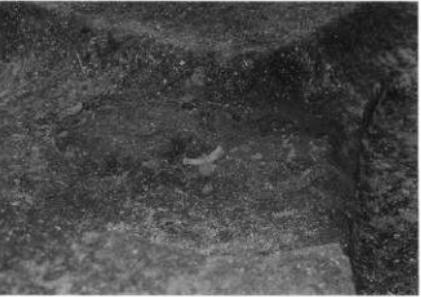
周溝状遺構 3 (ST03)



周溝状遺構 3 (ST03)



周溝状遺構 3 (ST03)

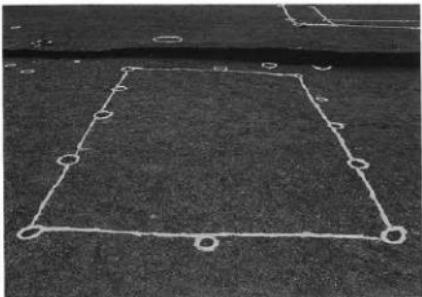


周溝状遺構 3 (ST03) 灰状堆積物

写真図版9



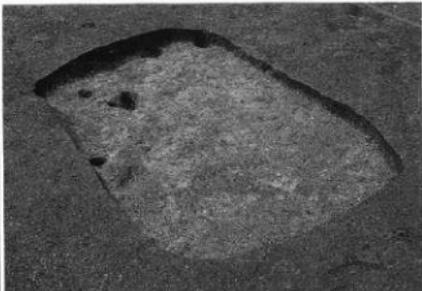
A区東南区域(旧A地区) 中世遺構全景



堀立柱建物1(SB01)



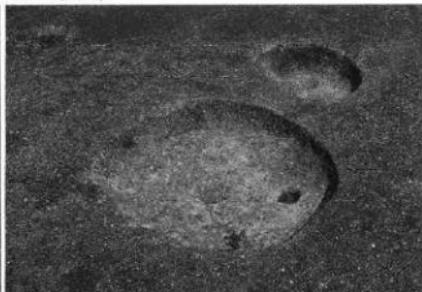
堀立柱建物2(SB02)



土坑11(SC11)



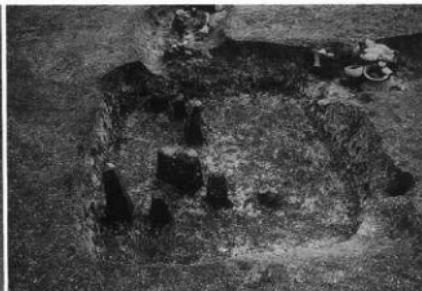
その他の土坑



その他の土坑



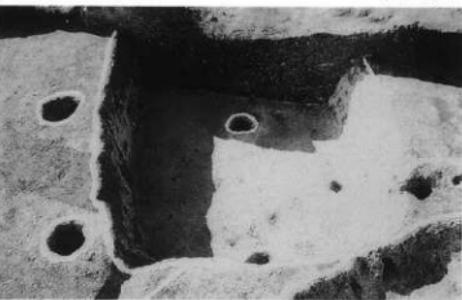
土坑12(SC12)



土坑13(SC13)



土坑 10(SC10)



竪穴状遺構 (SX01)



溝 3 (SD03) と竪穴住居 14,15(SA14.15)



溝 1 (SD01)



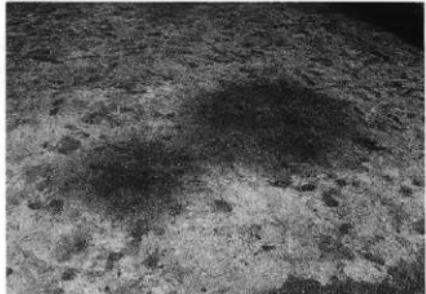
溝 5 (SD05)



溝 2 (SD02)



溝 7, 8 (SD07,08)



B区土坑 1, 2 (SD01,02) 検出状況



B区溝 3~5 (SD03~05) 検出状況



B区溝 1, 2 (SD01,02) 検出状況



B区溝 1, 2 (SD01,02) 完掘状況



B区中世水田跡検出状況（北側より）



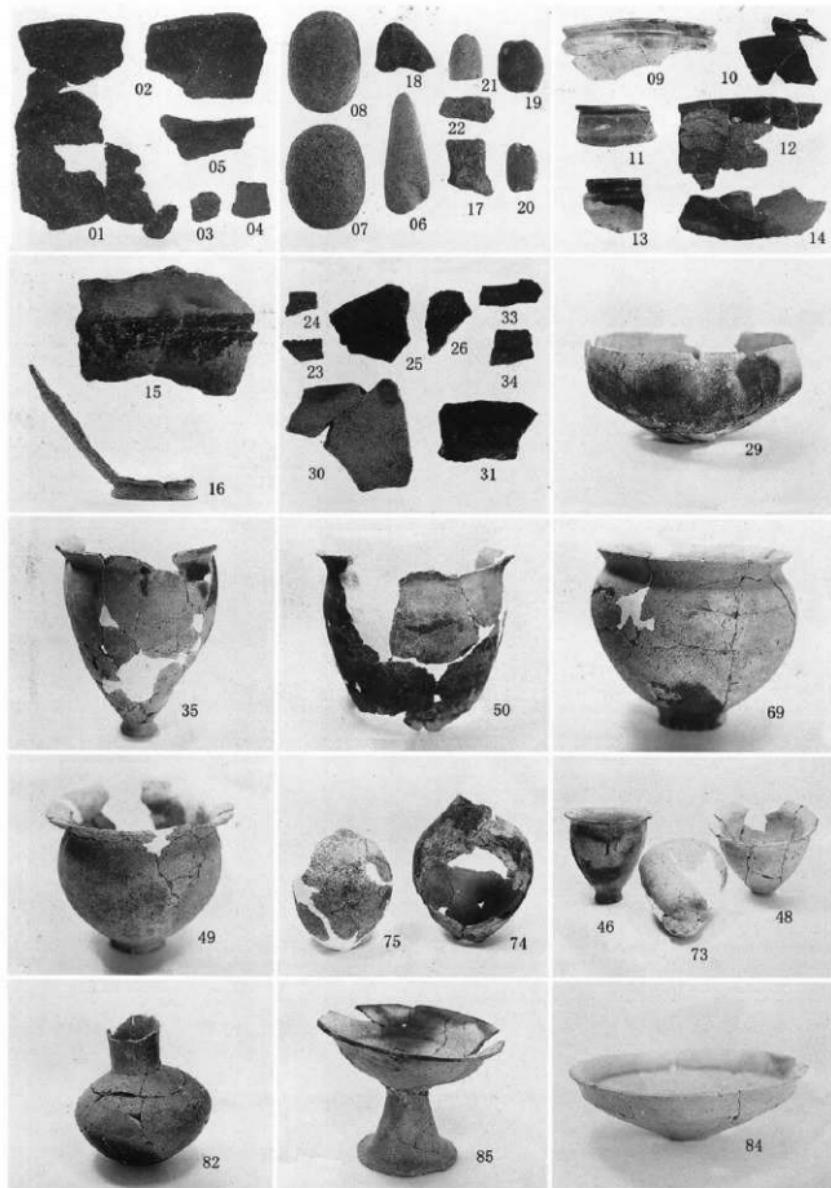
B区中世水田跡完掘状況（北側より）

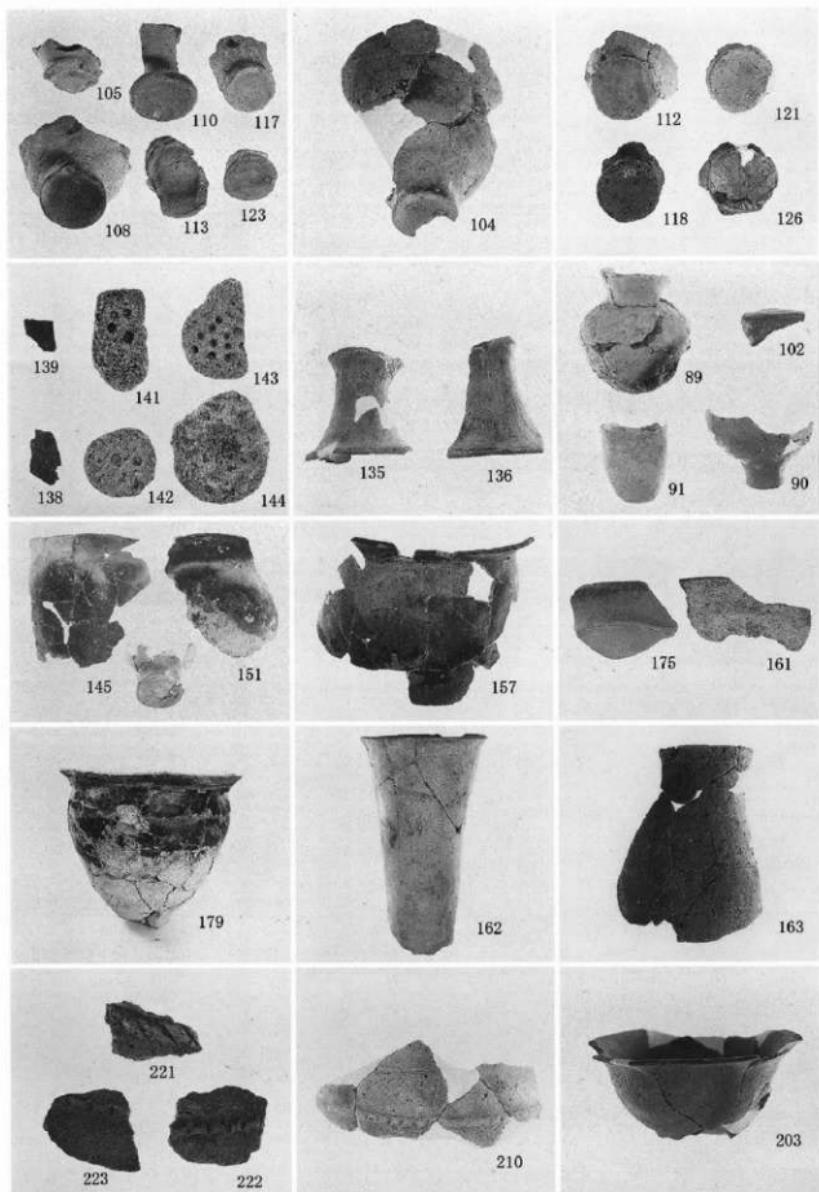


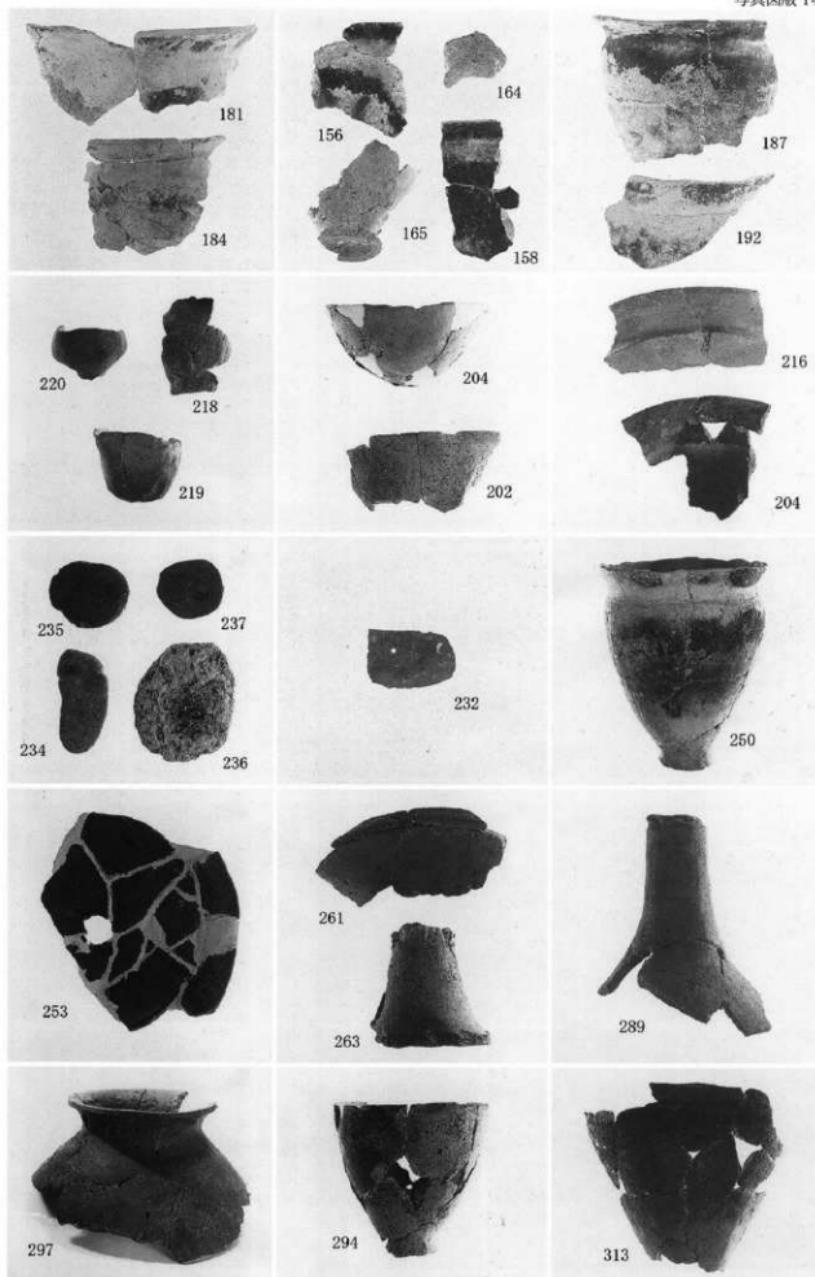
B区中世水田跡検出状況（西側より）

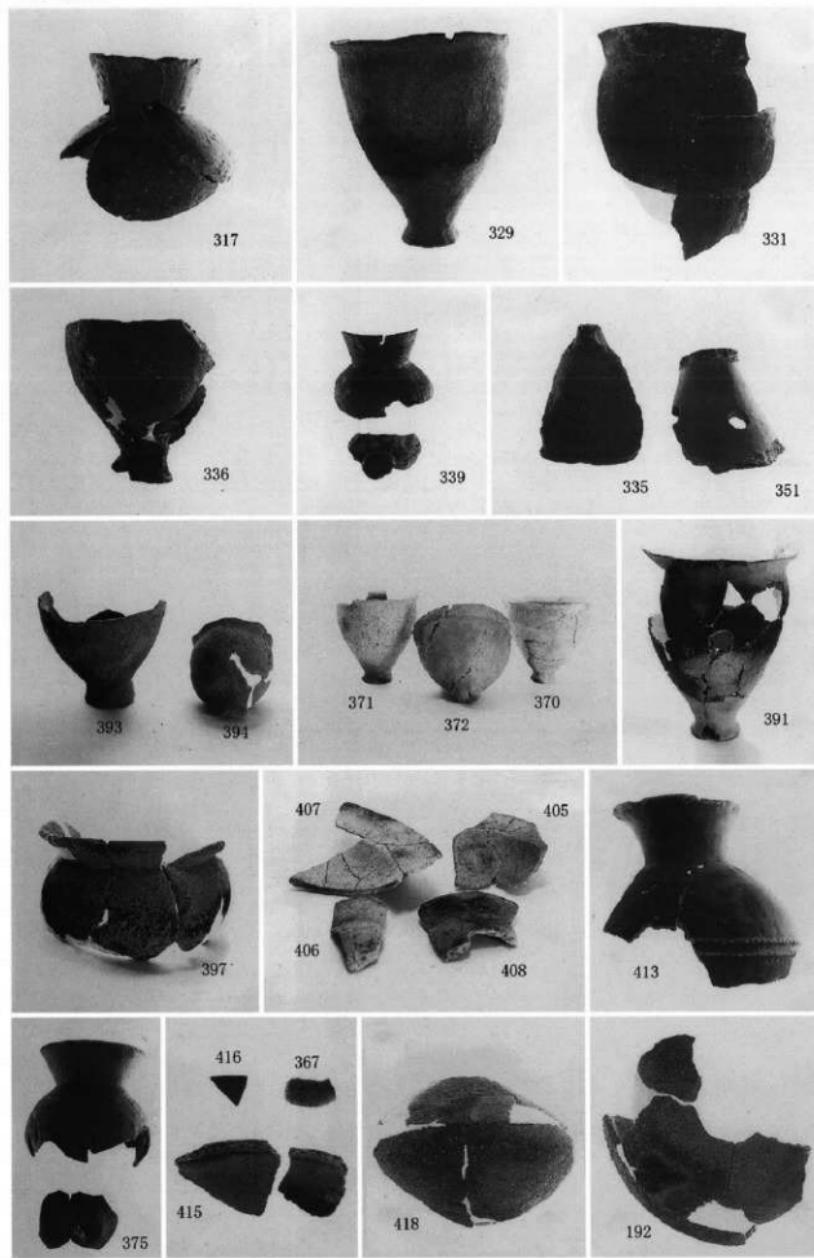


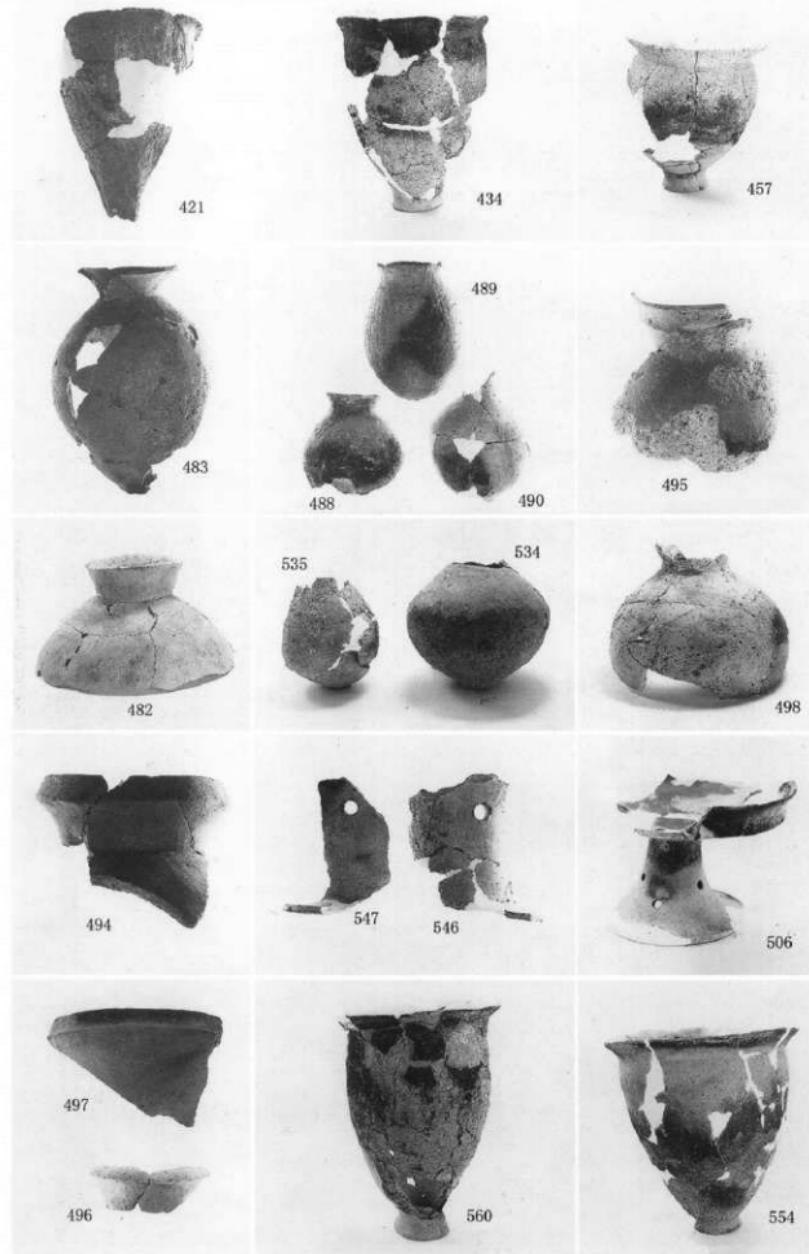
B区中世水田跡完掘状況（南西より）

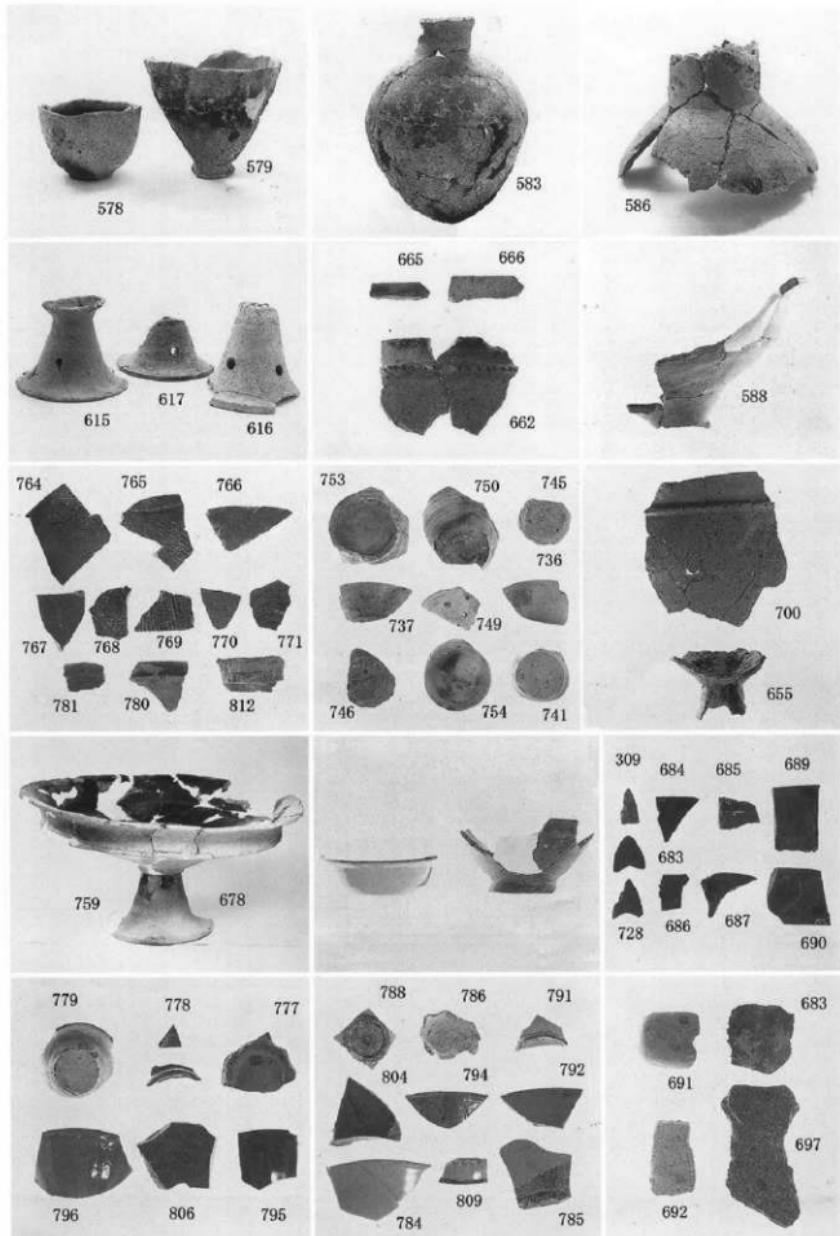












報告書抄録

書名ふりがな	いまぼういせき					
書名	今房遺跡					
副書名	県営担い手育成基盤整備事業横市地区					
巻名						
シリーズ名	都城市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第80集					
編集者	矢部喜多夫 中村友昭					
発行機関	宮崎県都城市教育委員会 Tel 0986-23-9547					
所在地	〒885-0013 宮崎県都城市菖蒲原町19-1号 都城市役所菖蒲原別館					
発行年月日	2007年3月22日					
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
今房遺跡	宮崎県都城市 横市町5830番地 ほか	31°44'52" 付近	131°02'25" 付近	1999.5.11 ~12.3	3,110m ²	県営ほ場整備 事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
集落跡、水田跡	縄文時代後～晩期 弥生時代後期～終末 中世	土坑7基 竪穴住居18軒 周溝状遺構3軒 土坑 掘立柱建物跡8軒 竪穴状遺構1基 土坑 溝状遺構 水田跡		縄文土器、弥生土器 須恵器(古代)、土師器(古代、中世)、綠釉陶器、舶載陶磁器、 磨石、石皿、石斧、石鎌、石鍤、石包丁、珪石製品等		

都城市文化財調査報告書第80集

今房遺跡 Imabou-Site

平成19年(2007)3月22日

編集・発行 宮崎県都城市教育委員会
〒885-8555 宮崎県都城市姫城町6街区21号
TEL 0986-23-9547 FAX 0986-23-9549

印 刷 有限会社 都城新生社印刷
〒885-0004 宮崎県都城市都北町7284-1
TEL 0986-38-3500
